

課内保存用

※配付厳禁※

平成20年度 ジュニアスタディーツアー報告書 Junior Study Tour 2008 Report



日本



ブラジル



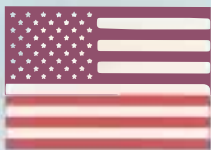
アルゼンチン



ペルー



ボリビア



アメリカ



カナダ



キューバ



マレーシア



ニューカレドニア

はじめに

ジュニアスタディーツアーは、海外の沖縄県系人子弟を本県に招待し、県内の中・高校生とともに、沖縄の歴史、文化、自然等について学習し、母県・沖縄との絆を深めることにより、海外県系人社会の発展と次世代のウチナーネットワークの担い手を育成することを目的としています。

本事業は、平成13年に「第3回世界のウチナーンチュ大会」のプレイベントとして実施されましたが、海外県人会等からの強い要望を受け、平成14年度から継続して実施しています。

平成20年度は、7月22日から7月28日まで一週間の日程で実施しました。今回のツアーには、海外9カ国、13の沖縄県人会から15名の参加者と5名の引率者（内1名は県内友好協会より参加）、沖縄県内から4名の中学生と11名の高校生が参加し、県内各地で様々な体験学習を行い、無事全日程を終了しました。今回はニューカレドニアから初めての参加があり、ウチナーネットワークが更に拡充する契機となりました。

ツアー期間中、参加者は首里城見学等を通して沖縄の歴史について学ぶとともに、琉球漆器制作体験を通じ、琉球王朝時代に育まれた沖縄の伝統文化にも触れました。また、国際通りの散策や美ら海水族館の見学を通して、現在の沖縄についても学びました。さらに平和学習では、戦争体験者から直接体験談を聞くことにより戦争の悲惨さと平和の尊さを学び、自然学習では比地大滝をトレッキングし、沖縄の自然を十二分に満喫したことと思います。そして世界に広がるウチナーネットワークに関する理解を深めてもらうために、移民に関する講話や移民について考えるワークショップを実施しました。これらの学習プログラムを通して、沖縄に関する理解を深めることができたと思います。また、前年度に引き続きエイサー学習も行いました。ツアー期間中遅くまで練習に励み、みんなで一つのことを成し遂げることによって、同じウチナーンチュとしての絆、そしてアイデンティティーを強く実感したことと思います。

更に今年度より、沖縄と世界をつなぐ架け橋としての役割を担って欲しいとの思いから、海外参加者を「沖縄ジュニア大使」に認証しております。

この報告書は、参加者や引率者の感想文とツアー日程や写真等をまとめたものです。この冊子が生涯にわたる記念になるとともに、参加者の皆さんが、このツアーでの経験をきっかけとして世界へ視野を広げ、将来、様々な分野で沖縄と世界の架け橋となる国際人として活躍することを期待しています。

結びに、平成20年度ジュニアスタディーツアーの実施に御協力を頂いた多くの関係者の皆様に感謝の意を表し、発刊のあいさつといたします。

平成20年12月

沖縄県観光商工部長 仲田 秀光

ジュニアスタディーツアー報告書

目次

はじめに
報告書目次

■事業概要	1
■スケジュール（日本語版・英語版・スペイン語版）	2
■記録写真	
7月17日（木）～7月21日（月）海外参加者迎え	5
7月22日（火）オリエンテーション、ウェルカムパーティ	6
7月23日（水）県庁表敬、自然学習（海洋博記念公園・エメラルドビーチ）	7
7月24日（木）自然学習（比地大滝）・交流プログラム（キャンプファイヤ）	8
7月25日（金）歴史学習（首里城）・文化学習（県立博物館・琉球漆器体験教室）	9
7月26日（土）平和学習（平和祈念資料館・平和の礎）社会学習（マチグワ 散策）	10
7月27日（日）歴史・社会学習（講話「世界に広がるウチナンチュの心」） ワクショップ	11
7月28日（月）学習成果発表会・修了式・さよならパーティ	12
7月28日（月）～8月2日（土）見送り	13
■ジュニアスタディーツアーに参加して	
海外参加者レポート	15
県内参加者レポート	49
海外引率者レポート	66
■資料編	
受入実績（平成13年度～平成20年度）	77
参加者名簿（平成13年度～平成20年度までの海外・県内・県外参加者）	78
知事表敬式次第	96
ウェルカムパーティ式次第	97
さよならパーティ式次第	98
ジュニアスタディーツアーグループ表	99

感想文人名索引

■海外参加者

天久 レニラ 阿弓 (ブラジル) ……………	15
AMEKU LENIRA AYUMI	
与那嶺 モニカ 多美 (ブラジル) ……………	17
YONAMINE MONICA TAMMY	
中馬 渡慶次 カーレン (ブラジル) ……………	20
TIGUMAN TOKESHI KAREN	
島袋 里菜 (ボリビア) ……………	21
RINA SHIMABUKURO	
安座間 上地 カテリネ 直未 (ペルー) ……	24
AZAMA UECHI KATHERINE NAOMI	
饒平名 さゆり (アルゼンチン) ……………	26
SAYURI YOHENA	
名城 エベリン マルセラ (アルゼンチン) …	28
NASHIRO EVELYN MARCELA	
ガルシア ウエマ ダニエル (キューバ) ……	30
GARCIA UYEMA DANIEL	

■県内参加者

宮 里 明衣子 MIYAZATO MEIKO ……………	49
下 門 楓 SHIMOJO KAEDE ……………	50
福 里 那 央 FUKUZATO NAO ……………	51
豊 里 源 TOYOZATO GEN ……………	52
豊 永 優 姫 TOYONAGA YUKI ……………	53
新 垣 美 樹 ARAKAKI MIKI ……………	54
酒 井 知 奈 SAKAI CHINA ……………	55
村 田 ゆうこ MURATA YUKO ……………	56

■海外引率者

垣花 輝明 (ブラジル沖縄県人会) ……………	66
大城 ディエゴ セバスティアン (在亜沖縄県人連合会) ……………	68
サンチェス タマキ ロベルト (キューバ沖縄県人会) ……………	71
稲福 紀子 (ワシントン州沖縄県人クラブ) ……………	74
小出 友視 (ニューカレドニア友好協会) ……………	76

森部 マーシ 美幸 (アメリカ) ……………	33
MORIBE MARCIE MIYUKI	
上運天 クリスティーナ アイ (アメリカ) …	36
UEUNTEN CHRISTINA AI	
ウィレット ザックリー (アメリカ) ……………	38
WILLETT ZACHARY	
チョ アレクサンダー ディ ジン (アメリカ)	40
CHO ALEXANDER DAE JIN	
山城 清光昭 ブレット (カナダ) ……………	43
YAMASHIRO BRETT ALEXANDER	
福里 友理 (マレーシア) ……………	46
YURI FUKUZATO	
ヴォニティシ ゼノキ モルガン ファビエラ テレーズ (ニューカレドニア)	47
VONITIHSI-ZENOKI MORGANE FABIELLA THERESE	

花 城 亜紀子 HANASHIRO AKIKO ……………	57
玉那覇 祐利香 TAMANAHA YURIKA ……………	59
宜 保 有 樹 GIBO YUKI ……………	60
池 村 愛 美 IKEMURA AIMI ……………	61
友 利 麻 羽 TOMORI MAU ……………	62
新 城 祥 子 ARASHIRO SHOKO ……………	63
兼 城 凜 子 ARASHIRO SHOKO ……………	65

ジュニアスタディーツアー 事業概要

1. 趣 旨

海外沖縄県系人子弟を沖縄県に招待し、県内の児童生徒とともに沖縄の歴史、文化、自然などの体験学習をとおして母県・沖縄との絆を深めることにより、海外の沖縄県系人社会の発展と将来のウチナーネットワークを担う次世代の人材育成に貢献する。

2. 事業内容

(1) 実施期間：平成20年7月22日（火）～7月28日（月）

来 沖 日：7月17日（木）～7月21日（月）

離 沖 日：7月28日（月）～8月2日（土）

(2) 参加者

○海外参加者

14歳～19歳までの沖縄県系人子弟 15名

※国別内訳（9カ国・15名）

ブラジル	3名	アメリカ合衆国	4名
アルゼンチン	2名	カナダ	1名
ペルー	1名	マレーシア	1名
ボリビア	1名	ニューカレドニア	1名
キューバ	1名		

○県内参加者

沖縄県内の中学・高校生15名（中学生4名、高校生11名）

○海外引率者

海外参加者の引率及び通訳の役割 5名

ブラジル、アルゼンチン、キューバ、アメリカ、ニューカレドニア 各1名

※ニューカレドニアは、県内の友好協会から参加

(3) 学習プログラム

① 自然学習

沖縄の自然や動植物等に触れ合いながらその大切さを学ぶ。

② 歴史学習

沖縄の歴史的な史跡等を巡り、沖縄が琉球王国だった頃の歴史とロマンに触れる。

③ 伝統工芸・芸能体験学習

沖縄の伝統工芸・芸能の体験学習を行う。

④ 平和学習

沖縄の戦跡等を巡りながら、平和の意味を考える。

⑤ 社会学習

沖縄県庁見学、国際通り散策等をとおして沖縄の現状を学ぶ。

月日 時間	7/22(火) 1日目	7/23(水) 2日目	7/24(木) 3日目	7/25(金) 4日目	7/26(土) 5日目	7/27(日) 6日目	7/28(月) 7日目
6:30		6:30 起床		6:30 起床			
7:00		7:00 朝食	7:00 起床	7:00 朝食	7:00 起床	7:00 起床	
8:00	別スタッフ・会場セッティング	8:00 レクセンター出発 注意事項の確認 8:30 県庁到着 8:45 県知事表敬式典 (歓迎セレモニー、記念撮影)	7:30 朝食	8:00 出発 ・車内にて前日の振り返りシートの回収	7:30 朝食	7:30 朝食	
9:00		9:45 県庁出発 ・車内にて前日の振り返りシートの回収	8:30 出発 ・車内にて前日の振り返りシートの回収	8:30 出発 ・車内にて前日の振り返りシートの回収	8:30 出発 ・車内にて前日の振り返りシートの回収	9:00 ・前日の振り返りシートの回収	
10:00	10:00 引率者・主催者・スタッフ かんぼレクセンター集合		9:30 ●比地大滝 ・トレッキング	10:00 歴史学習 ●首里城 ●金城町の石畳	9:30 平和学習 ●平和祈念資料館見学 ●記録フィルム上映 ●戦争体験談(長田勝男氏) ●公園内散策	歴史・社会学習 ※沖縄の移民 ①講話(前原信一氏) 「世界中に広がるウチナーンチュの心」 ②ワークショップ	
11:00	11:30 昼食 1Fレストラン	自然学習(海)			●平和の礎見学 11:45 昼食		
12:00	12:30 参加者受付開始	12:00 海洋博記念公園到着 12:15 昼食	12:00 昼食・弁当	12:15 昼食	12:45 ひめゆりの塔見学	12:00 昼食 レクセンターレストラン	
13:00	13:30 開講式 ～オリエンテーション ・概要説明・確認 学習ツール配布 ・振り返りシートの配布	13:15 美ら海水族館見学	14:00 トレッキング終了	13:30 県立博物館到着 県立博物館・美術館見学		※ワークショップ再開	13:00 スタッフ・ボランティア集合 テンプス館
14:00	①参加者自己紹介 ②班分け、班長紹介 ③言語学習 ④自国の概要紹介1日目 ～途中休憩～	14:30 イルカショー見学	15:00 ホテルタニュー到着 (ホテルにて休憩)	15:00 県立博物館出発 15:15 那覇市伝統工芸館 伝統工芸体験 ・琉球漆器	14:00 社会学習(街・人々) ●マテグワー散策 ※ガイド 卒業生ボランティア		13:30 参加者受付 ・前日の振り返りシートの回収
15:00		15:15 ●エメラルドビーチ到着 海水浴 ビーチレクリエーション	16:00 6期・7期卒業生8名到着 スタッフミーティング		16:30 散策終了		14:30～15:30 リハーサル 15:00 来賓・一般参加者受付
16:00					16:30 散策終了	16:00 学習終了	15:30～16:15 学習成果発表会
17:00	17:00 交流プログラム ※進行・演出 卒業生ボランティア	17:00 エメラルドビーチ出発 ホテル到着20分前 部屋割りの発表 ホテルタニュー到着 夕食…ホテルタニュー	17:00 夕食…ホテルタニュー (バーベキュー)	17:00 那覇市伝統工芸館出発 17:30 かんぼレクセンター到着	17:00 テンプス館出発	16:30 エイサー講習	16:20～16:40 修了式 16:40 さよならパーティー準備 17:00 さよならパーティー ※進行・演出 卒業生ボランティア ※参加人数200名程度
18:00	18:00 終了～荷物部屋移動	18:00 終了～荷物部屋移動		18:00 夕食	18:00 夕食	18:00 夕食	
19:00	18:30 ウェルカムパーティー 夕食…かんぼレクセンター ※参加人数80名程度	19:30 自国の概要紹介2日目 ・振り返りシートの配布	19:00 交流プログラム ～キャンプファイヤー ※進行・演出 卒業生ボランティア	19:15 エイサー講習	19:15 エイサー講習	18:00 解散 ～各ホームステイ先へ～	18:30 終了～解散
20:00	20:00 パーティー終了 ※名護行き2日分の荷物を まとめ、残りの荷物は別部屋 に保管 荷物預部屋へ案内	20:30 ～日程終了～ スタッフミーティング	21:00 振り返りシートの配布 ～日程終了～ スタッフミーティング	20:45 振り返りシートの配布 ～日程終了～ スタッフミーティング	20:45 振り返りシートの配布 ～日程終了～ スタッフミーティング	ホームステイ	ホームステイ
21:00	～日程終了～ スタッフミーティング			レクリエーション・レッスンR使用可	レクリエーション・レッスンR使用可		
22:00	22:00 就寝	22:00 就寝	22:00 就寝	22:00 就寝	22:00 就寝		
宿泊地	かんぼレクセンター	ホテルタニュー	ホテルタニュー	かんぼレクセンター	かんぼレクセンター	ホームステイ	ホームステイ

Day Time	Jul 22 (Tue) Day 1	Jul 23 (Wed) Day 2	Jul 24 (Thu) Day 3	Jul 25 (Fri) Day 4	Jul 26 (Sat) Day 5	Jul 27 (Sun) Day 6	Jul 28 (Mon) Day 7	
6:30		6:30 Wake-up time		6:30 Wake-up time			Homestay	
7:00		7:00 Breakfast	7:00 Wake-up time	7:00 Breakfast	7:00 Wake-up time	7:00 Wake-up time		
8:00		8:00 Departure	7:30 Breakfast	8:00 Departure	7:30 Breakfast	7:30 Breakfast		
9:00		9:00 Courtesy call for all participants in the prefectural building *Welcome Ceremony *Commemorative photo	8:30 Departure		8:30 Departure	9:00 History/ Social Study ※Okinawan Immigration		
10:00		10:00 Departure for Ocean Expo Park	9:30 Nature Study (Mountain) *Trekking in the Great Hiji Falls	10:00 History Study *Shuri-jo Castle *Stone pavements in Shuri-Kinjyo town	9:30 Peace Study *Peace Memorial Museum Explanation from the museum staff ~video session~ *Stroll in the park *Orientation in the Cornerstone of Peace	①Lecture "The hearts of Uchinanchu throughout the world" ②Workshop		
11:00	10:00 Escorting Staff and Organizers Meeting				11:45 Lunch	12:00 Lunch		
12:00	11:30 Lunch	12:00 Nature Study (Sea 1) *Ocean Expo Park Lunch	12:00 Lunch	12:15 Lunch	12:45 Orientation in the Himeyuri Peace Museum	Workshop		
13:00	12:30 Participants Assembly	13:15 Orientation in Chraumi Aquarium						
14:00	13:30 Opening Speech ~Orientation~ *Distribution of study tools *Further explanations (1) Participants' self-introduction (2) Group allocation, selection of leaders (3) Language study (4) General introduction of your own country	14:30 Dolphin Performance Show	14:00 End of trekking	13:30 Culture Study Orientation in Okinawa Prefectural Museum&Art Museum	14:00 Social Study (daily life: public market place) *Stroll in Machigua Market Place	14:30 Rehearsal		
15:00		15:15 Arrive at Emerald Beach sea bathing	15:00 Arrive at Hotel (Break time in hotel)	15:30 Departure		15:30 Presentation of learning outcomes		
16:00			Group Meeting (with the presence of chaperones and organizers)	15:45 Traditional Arts *Ryukyu lacquered ware	16:30 End of Stroll in Machigua Market Place	16:00 End of Workshop		
17:00	17:00 Exchange Program	17:00 Departure from Emerald Beach	17:00 Dinner (B.B.Q.)	17:00 Departure	17:30 Arrive at Hotel	16:20-16:40 Closing Ceremony		
18:00	18:00 End of Exchange Program 18:30 Welcome Party ~Dinner	18:00 Arrive at Hotel 18:15 Dinner		18:00 Dinner	18:00 Dinner	17:00 Farewell Party		
19:00		19:30 General Introduction of your own country(2)	19:00 Camp Fire	19:15 Eisa Class(1)	19:15 Eisa Class (2)	18:30 End of Program ~Dismissed~		
20:00	20:00 End of Welcome Party							
21:00	Group Meeting (with the presence of chaperones and organizers)	20:30 Group Meeting (with the presence of chaperones and organizers)	21:00 End of Camp Fire Group Meeting (with the presence of chaperones and organizers)	20:45 Group Meeting (with the presence of chaperones and organizers)	20:45 Group Meeting (with the presence of chaperones and organizers)			
22:00	22:00 Bedtime	22:00 Bedtime	22:00 Bedtime	22:00 Bedtime	22:00 Bedtime			
Lodging	Kampo Recreation Center	Tanyuu Hotel	Tanyuu Hotel	Kampo Recreation Center	Kampo Recreation Center	Homestay		Homestay

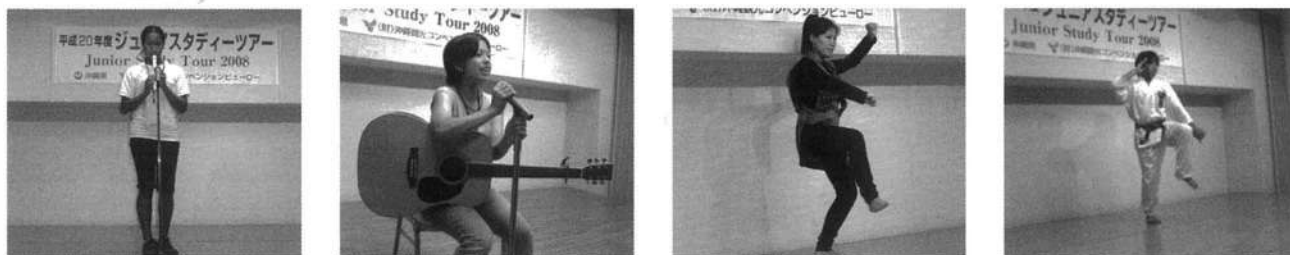
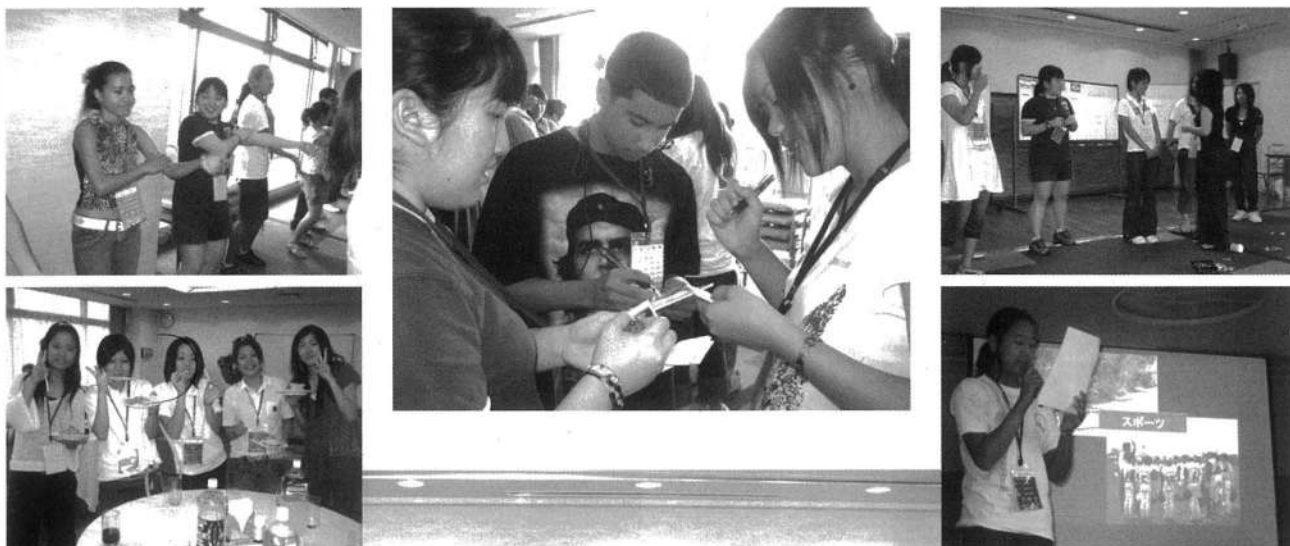
día hora	Mar. 22/7 1er día	Mie. 23/7 2do día	Jue. 24/7 3er día	Vie. 25/7 4to día	Sab. 26/7 5to día	Dom. 27/8 6to día	Lun. 28/7 7mo día	
6:30		6:30 Levantarse		6:30 Levantarse			Homestay	
7:00		7:00 Desayuno	7:00 Levantarse	7:00 Desayuno	7:00 Levantarse	7:00 Levantarse		
8:00		8:00 Partida del hotel	7:30 Desayuno	8:00 Partida	7:30 Desayuno	7:30 Desayuno		
9:00		8:30 Llegada a la Prefectura	8:30 Partida	8:30 Partida	8:30 Partida	9:00 Historia • Sociedad		
10:00	10:00 Reunión de Tutores. Organizadores y Personal	9:00 Visita al Gobernador • Ceremonia de bienvenida, foto	9:30 Naturaleza (Montaña) ● Catarata "Hijiootaki" • Caminata	10:00 Historia ● Castillo Shuri ● Caminito de piedra en Kanagusuku	9:30 Estudio sobre la Paz ● Museo Conmem. de la Paz • Explicación ~ video ● Recorrido por el parque ● Lápidas de la Paz	9:00 Emigración okinawense ① Expositor: Shinichi Maehara (El Sentimiento Okinawense en el mundo) ② Taller		
11:00	11:30 Almuerzo	10:00 Partida de la Prefectura				12:00 Almuerzo		
12:00	12:30 Reunión con todos los participantes	Naturaleza (Mar) 12:00 Ocean Expo Park 12:15 Almuerzo	12:00 Almuerzo	12:15 Almuerzo	11:45 Almuerzo	12:00 Almuerzo		
13:00		13:15 Acuario Chura Umi				※ Continuación del taller		
14:00	13:30 Apertura ~ Orientación • Entrega de material • Descripción del programa	14:30 Show de delfines	14:00 Término de la caminata	13:30 Cultura ● Museo Prefectural y Museo de Bellas Artes	14:00 Sociedad (ciudad-gente) ● Recorrido por el mercado			
15:00	① Presentación personal ② Present. de grupos y líderes ③ Taller de idiomas ④ Presentación de c/país	15:15 ● Playa "Emerald beach" baños de mar	15:00 Llegada al hotel (Descanso en el hotel)	15:15 Cultura (Artes Tradic.) Lacado de vajilla okinawense		14:30 ~ 15:30 Ensayo		
16:00			16:00 Reunión del personal			15:30 ~ 16:15 Presentación final		
17:00	17:00 Activ. de Integración	17:00 Partida al hotel	17:00 Cena (parrillada)	17:00 Partida al hotel	16:30 Término del recorrido	16:00 Término del taller		
18:00	18:00 Término ~ transporte de equipajes a sus habitaciones 18:30 Fiesta de Bienvenida Cena (en Kamporekucenter)	18:00 Llegada al hotel 18:15 Cena		18:00 Cena	17:30 Llegada al hotel	16:30 Práctica de Eisa		
19:00		19:30 Presentación de c/país	19:00 Activ. de Integración ~ Fogata	19:15 Práctica de Eisa	18:00 Cena	18:00 Término ~ Separación		
20:00	19:30 Término de la fiesta ~ Término de la jornada del día ~ Reunión del personal	20:30 ~ Término de la jornada ~ Reunión del personal		20:45 ~ Término de la jornada ~ Reunión del personal	19:15 Práctica de Eisa			
21:00			21:00 ~ Término de la jornada ~ Reunión del personal		20:45 ~ Término de la jornada ~ Reunión del personal	16:20 ~ 16:40 Clausura		
22:00	22:00 Hora de dormir	22:00 Hora de dormir	22:00 Hora de dormir	22:00 Hora de dormir	22:00 Hora de dormir	17:00 Fiesta de despedida		
Estadía	Hospedaje Kamporekucenter	Hotel Tanew	Hotel Tanew	Hospedaje Kamporekucenter	Hospedaje Kamporekucenter	Homestay		18:30 Término ~ Despedida
						Homestay		Homestay

記 念 写 真

海外参加者出迎え 7月17日：ブラジル、アルゼンチン、ペルー、ポリビア、
 アメリカ、カナダ、キューバ、マレーシア
 7月21日：ニューカレドニア



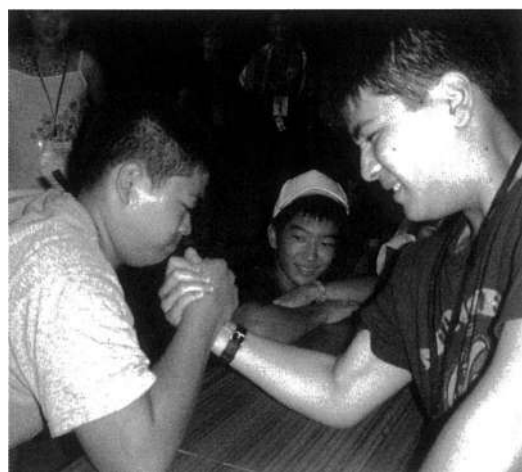
7月22日(火) オリエンテーション、ウェルカムパーティー



7月23日(水) 県庁表敬、自然学習 (海洋博記念公園・エメラルドビーチ)



7月24日(木) 自然学習(比地大滝)・交流プログラム(キャンプファイヤー)



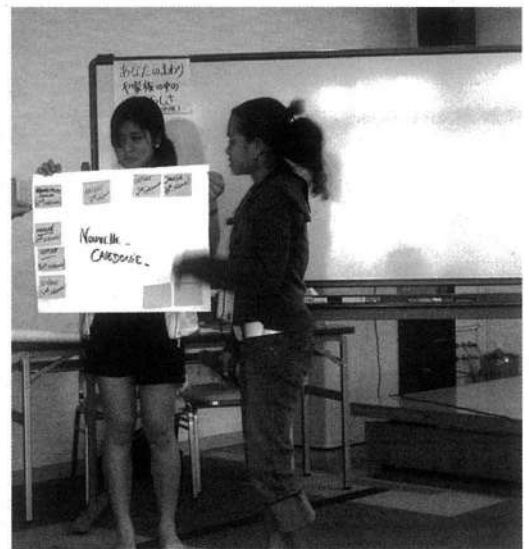
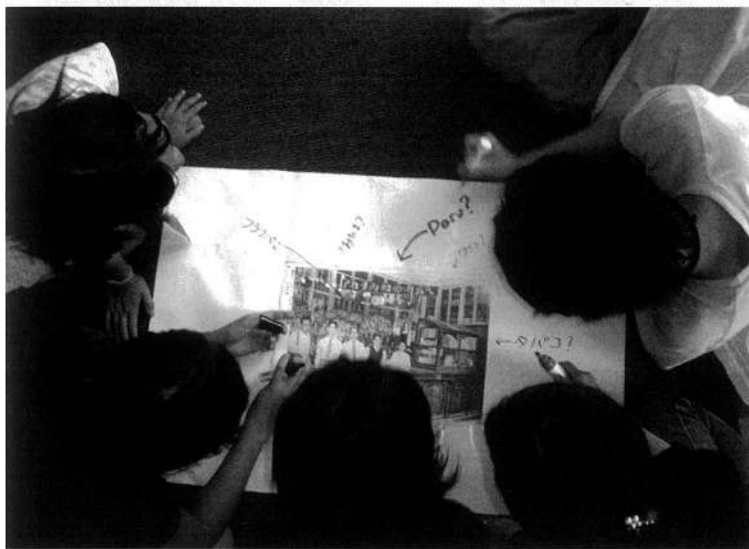
7月25日(金) 歴史学習(首里城)・文化学習(県立博物館・琉球漆器体験教室)



7月26日(土) 平和学習 (平和祈念資料館・平和の礎) 社会学習 (マチグラー散策)



7月27日(日) 歴史・社会学習 (講話「世界に広がるウチナンチュの心」) ワークショップ



7月28日(月) 学習成果発表会・修了式・さよならパーティー



7月28日（月）～8月2日（土）見送り



ジュニアスタディーツアーに参加して



天久 レニラ 阿弓

AMEKU LENIRA AYUMI

15歳 2世

ブラジル連邦共和国

Federative Republic of Brazil

ブラジル沖縄県人会



ジュニアスタディーツアー 2008

私は、小さいころから家族が話してくれていた沖縄へ行くのが夢でした。その夢はJunior Study Tourのおかげでかないました!!

沖縄へ行く日、ブラジルにボリビア、アルゼンチンとペルーの参加者が集まり、みんな一緒に沖縄へ向けて出発しました。

飛行機が沖縄についたとき、まず思ったことは「あれ?沖縄って今すごく暑いんじゃないかって?」でもそれは、まだ飛行機の中だったからです。荷物をとり、空港で待っていた皆さんと会い、いざ外へ出てみると、びっくり!予想もしない暑さでした。「わ~!これがウチナーの暑さ。。私は本当に沖縄にいるんだ」とその時実感しました。

最初の一週間は、空港に迎えに来てくださったなかそねよしこおばさんとさえこおばさん、親戚の家でhomestay.

毎日忙しい中を、おばさんたちはあちらこちらへ連れていってもらい、案内してくれました。

お世話になり、たいへんご迷惑をおかけしました。

二週間目は、いよいよツアーの始まりです!

各国からの参加者が、那覇に集まりました。

最初は気まずかったけれど、STAFFさんたちが作ってくれた交流プログラムで、みんな遊んでいるうちに話ができました。みんな、優しく楽しい人たちでした。夜はみんな、ひとつの部屋に集まっておしゃべりをしたり、ゲームをしたり、写真とったりで、とっても楽しかったです!

二日目には、私が一番見てみたかった海でした! Beachへ着いたとき、真っ先に入って泳ぎました!あんなに水が温かいとは思いませんでした。

沖縄の青い海!白い砂!きれいで最高でした!みんなでドッチボールもしました!

次の日は山!比地大滝!山道を上がったたり下がったり、大きなすべる岩からどんどん進み、比地大滝につきました。そこでも泳ぎました。滝の水は、海と違って冷たくて気持ち良かったです!

首里城にも行きました。琉球王国が当時どんなだったのかを少し学びました。

ひめゆりの塔や実際戦争を体験した人から、その時の悲しい話も聞きました。沖縄は本当に綺麗なところがあるけれど、本当に悲しいことが起きたところでもあるんだなと思いました。

最後の三日間の夜は、琉球國祭り太鼓の練習もしました!

Junior Study Tourでは一生に一度の本当にすばらしい体験でした。絶対に忘れられない思い出です!

文末になりましたが、このような素晴らしいチャンスを与えて下さった、ブラジル沖縄県人会本部始め、サンマテウス支部の皆さんに厚くお礼を申し上げます。与那嶺よしこ様、さえこさまにはいつも温かく接してもらい有難うございました。垣花輝明さんには私たちを引率をして下さいまして心から感謝いたします。本当にどうもありがとうございました!

にへーでーびる!

JUNIOR STUDY TOUR 2008

Eu desde pequena tinha o sonho de ir para Okinawa.

Conhecer também a terra natal dos meus pais.

E esse sonho se realizou graças ao Junior Study Tour!

No dia 15 de Julho, reuniu os participantes da Bolívia, Argentina e Peru no Brasil e fomos todos juntos à Okinawa.

Quando o avião pousou no aeroporto de Okinawa, a primeira coisa que eu pensei foi “ué, todos diziam que o calor daqui é intenso mas não está tão quente assim” mas era porque eu ainda estava dentro do avião. Pegamos as nossas malas e encontramos com o pessoal que esperava por nós no aeroporto.

Quando saí do aeroporto, levei um susto! Estava muito abafado, mesmo o ar que respirava estava quente – “Nossa! Esse é o calor de Okinawa, eu estou mesmo em Okinawa!”

Na primeira semana ficamos na casa de parente.

Eles me levaram a vários lugares todos os dias.

Conheci vários lugares de Yomitan.

Na segunda semana, começou o tão esperado Tour!

Todos os participantes reuniram em Naha.

No começo todos nós estávamos com vergonha, mas com

as brincadeiras que os STAFFs criaram, começamos a nos soltar e a conversar. Todos eram bem alegres e engraçados!

À noite nós reuníamos em um quarto para conversar, jogar ou tirar fotos. Foi bem divertido!

No segundo dia fomos para a praia, que era um dos lugares que eu sempre quis ir, a primeira coisa que fizemos quando chegamos, foi entrar e nadar! Eu nunca tinha pensado que a água fosse tão quentinha.

No dia seguinte fomos para a cachoeira Hijiootaki. Lá também nadamos. A água de lá era diferente com a da praia, era geladinha.

Fomos também ao Castelo Shuri, conhecer um pouco de como funcionava naquela época.

Passamos pelo Himeyurinotou e teve palestra com uma pessoa que sobreviveu à guerra. Okinawa tem muitos lugares lindos, mas que um dia também já foi lugar de muitas tristezas.

Nos últimos três dias, à noite, teve treino de eisá – Ryukyu koku Matsuri Daiko.

Junior Study Tour foi uma experiência inexplicável para mim.

Uma experiência que nunca esquecerei.

E finalmente quero agradecer a Associação Okinawa kenjin do Brasil e ao kenjinkai de São Mateus por essa oportunidade, ao Governo de Okinawa, aos STAFFs que sempre nos ajudaram, à Sra. Yoshiko Yonamine e Sra. Saeko por terem me recebido com tanto carinho e ao Sr. Kimei Kakinohana por ter nos acompanhado até Okinawa

MUITO OBRIGADA!



与那嶺 モニカ 多美

YONAMINE MONICA TAMMY

15歳 3世

ブラジル連邦共和国

Federative Republic of Brazil

ブラジル沖縄県人会



イチャリバチョウデー

空港でシーサーを目にした時、ああ本当に沖縄に着いたんだなあと思いました。沖縄はとても暑くて、すぐにでもシャワーを浴びたいほどでした。空港にはたくさんの方の他に、私の親戚も待っていてくれました。親戚のおじさんおばさんは、私を浦添祭りやエイサーがすばらしかった沖縄ワールドなど、いろいろなところに連れて行ってくれました。

ジュニアスタディーは7月22日から始まりました。カンポレクセンターというところに集まりました。同じブラジルから行った人のほかには、誰の名前もわかりませんでした。そこでは自己紹介をしたり、レクリエーションをしたり、また自分の国での挨拶をおぼえたりしました。そのあとウェルカムパーティーがありました。そこで会ったいろいろな国の仲間達と、28日まで過ごすことになりました。

初めの日の夜は14人の女の子たちが同じ部屋で多分いちばんうるさい日でした。トランプをしたり次の日の準備をしたりしました。

23日は朝早く起きて、沖縄県庁で県知事を訪問し、そのあととても大きくて有名な美ら海という水族館に行きました。そこではいろいろな海の魚を見ました。とてもかわいいカチャーシーをするイルカショーを見た後、エメラルドビーチで海に入ったりバレーをしたりしてとても楽しい時間でした。

24日は比地大滝というところに行きました。そこで歩いている時、私は水の中に落ちてしまって、カメラも本も服も全部ぬれてしまいました。ホテルに戻った後、バーベキューがありました。ブラジルのシュラスコと比べると、日本のはコーンや焼きそばのパラティーがあつておもしろいと思いました。バーベキューの後、スタッフによるレクリエーションがあつて、キャンプファイヤーもしました。火のまわりでみんなで島唄を歌った時はとても感動しました。そのあとみんなでいろんなダンスをしたりしてとても楽しい時でした。

25日は首里城と皿を作るてんぶす館を体験見学して、レクセンターに戻り、そこでエイサーの練習が始まりました。

26日は平和博物館へ行き、戦争時代をすごした人の話を聞きました。学校で起こった事や今でも悲しい思い出を持ったまま生き残っている人々のことなどを聞きました。その後博物館を見学しました。そこではその時の服や物などがありました。亡くなった人の名前が書いてある石もありました。とても悲しいところでした。でも、それも沖縄の歴史で忘れてはいけないことだと思います。昼食の後ひめゆりの塔にも行きました。その後とてもにぎやかでおもしろいマチグアーに行きました。

27日は前原さんによる世界のウチナーンチュの心について話を聞きました。ブラジルのこともよく知っていて、私が住んでいるところも知っていることを聞いてびっくりしました。

その後行われたさよならパーティーは、とても感動的なものでした。その日の事を思い出すだけで泣きたくなくなるほど、思い出に残っています。ミルクムナリを発表して終了証書をもらい、パーティーが終わりました。あんなに泣くとは思いませんでした。初めはみんなの名前も知らなかったのに、最後は全部が思い出に残る感動的なものでした。

今、私は「イチャリバチョウデー」という沖縄の言葉の意味がはっきりわかり、私の人生にいつまでも持ち続けていくつもりです。沖縄の人の想い。私たちはみんな兄弟だ、同じところからきた、喜びと長寿の島、沖縄。

パーティーの後、自分たちの国に帰るため空港に行きました。そこでみんなでプリクラを撮りました。そこで撮った写真は、今私の財布やシャーペンなどいつも目に付くところにはついています。写真を見るたび前は知らなかった友達の名前、顔、その子の性格全部が思い出されます。地球の裏側であった2週間の出来事、でもその出来事はお互いの心が通じ合った時でした。またもう一度会いたい。別れはいつもとてもつらいもの。でも、あの時一緒にすごした時間を思い出して泣く涙は2008年ジュニアスタディーチームに参加した満足感のある涙です。バスの中で歌ったこと、夜ホテルの部屋を行き来したこと、たくさんしたおしゃべり、毎日日本語で書かなければいけなかった日記を手伝ってくれたこと、最後の日に流したみんなの涙、みんな

のひとつだった心、その一つ一つを私は決して忘れません。

お世話になった皆さま、そして仲間たち、心から感謝の気持ちでいっぱいです。一人一人にお礼の気持ちを伝えたくてもたくさんの人達なのでできません。でも、心から伝えます。

ありがとうございました！ THANK YOU VERY MUCH! MUCHAS GRACIAS! MERCI BEAUCOUP! MUITO OBRIGADA! ニヘーデービル！ ちゅらしまウチナー

ICHARIBA CHO-DE

Quando vi que tinham dois shisás no local onde pegamos as malas no aeroporto, percebi que realmente estava em Okinawa. Estava muito calor e eu precisava de um banho urgentemente. Meus parentes estavam me esperando junto aos demais outros parentes. Com eles passei uma semana a qual aproveitei bastante. Fomos ao matsuri de Urasoe e ao Okinawa World onde pude ver uma linda execução de eisá.

O Junior Study Tour começou no dia 22 de julho. No primeiro dia no Kamporekucenter, não sabia o nome de ninguém, a não ser das pessoas da América Latina que foram comigo do Brasil à Okinawa. Fizemos umas atividades para nos conhecermos, dançamos, nos apresentamos, treinamos a pronúncia de frases simples em cada idioma e depois tivemos o “Welcome Party”. Até o dia 28, estive com vários jovens de todas as partes do mundo.

Na primeira noite, tinham 14 meninas no mesmo quarto que eu, acho que era o mais agitado, pois todos foram lá depois para jogar carta. Tivemos que arrumar nossas malas rapidamente para facilitar a saída no dia seguinte ao Hotel Tanew.

Acordamos cedinho no dia 23 e fomos até a prefeitura para nos encontrarmos com o governador. Depois disso, fomos aos Aquário Chura Umi onde pude ver diversos tipos de animais marinhos e o famoso ‘grande aquário’; vimos show dos golfinhos que foi muito lindo quando eles dançam kacha-shi- e fomos até a praia Emerald. Lá, na praia, entramos na água e jogamos vôlei na areia. Nos divertimos bastante, posso garantir.

No dia 24, fomos ao Hijiootaki, fizemos caminhada e eu caí na água! Molhei tudo, inclusive a câmera e meu livro. Voltamos ao hotel e fizemos ‘barbecue’ que, comparado ao do Brasil, tem muitas opções de comida. Vai de milho à yakissoba. Após o ‘barbecue’, participamos de uma gincana preparada pelos STAFFs e, depois, a fogueira. Cantamos “Shima Uta” em volta da fogueira, o que foi muito emocionante. Dançamos tudo o que tínhamos direito.

No dia 25 fomos ao Shurijo e depois ao Tenbutsukan

onde confeccionamos um ‘colagem no prato’ que não lembro o nome. Voltamos ao Rekucenter e iniciamos os treinos de eisá com o Kuniyoshi sensei.

No dia 26 fomos ao Museu da Paz, onde assistimos a uma palestra dada por um sobrevivente da guerra. Embora todos nós estivéssemos com muito sono, conseguimos notar como foram aqueles tempos de guerra, o desespero dentro das escolas e a dor da perda que cada sobrevivente leva consigo até hoje. Além da palestra, ao andar no museu, vimos objetos, vestimentas e fotos daquela época. Lá também existe uma espécie de parede de mármore onde o nome de cada vítima da guerra está escrito. É triste, mas é uma parte da história de Okinawa da qual não podemos esquecer. Após o almoço fomos ao monumento Himeyurinotou e ao ‘machigua-’ onde vimos de pertinho o mercado okinawano que é bem atrativo e divertido.

No dia 27 assistimos a uma palestra dada pelo Maehara san sobre o sentimento uchinanchu- do mundo todo. Inclusive, ele conhecia o Brasil e até o bairro onde moro!

No “Sayonara Party”, ou a nossa Cerimônia de Formatura, foi tudo muito rápido e emocionante. Só de escrever sobre este último dia, me dá uma grande vontade de chorar. Apresentamos ‘Miruku munari’, recebemos nossos diplomas e nos despedimos. Não pensei que choraria tanto. Só de pensar que no começo não sabia o nome de ninguém, não sei como, no final, tudo me emocionou tanto. Agora eu sei o real significado de ‘icharibacho-de-’ e é um pensamento que vou levar pro resto da minha vida, o pensamento de que todos somos irmãos, vindos de um mesmo lugar, a terra da alegria e da longevidade, Okinawa. Após o “Sayonara Party”, todos foram ao aeroporto, pois nós, da América Latina, iríamos voltar para casa. Tiramos ‘purikura’ que estão grudados na minha carteira, lapiseira .. em vários lugares que vejo todos os dias!

Quero que todos saibam o quanto sinto a falta de cada um. Quando vejo fotos, sei o nome e o jeitinho de cada um. Foram apenas duas semanas do outro lado do mundo, mas, com muita certeza, foi como se eu estivesse em casa.

Espero poder encontrar todos novamente. A despedida sempre é triste, mas só de lembrar o tempo que passamos juntos, eu choro lágrimas com sentimento satisfatório por ter feito parte do Junior Study Tour Team 2008. Os momentos em que cantamos no ônibus, as noites andando de quarto em quarto no Hotel Tanew e no rekucenter, as conversas, as ajudar que recebi na hora de escrever o diário de cada dia em nihongo, cada lágrima verdadeira que derramamos no último dia .. tudo isso mais a nossa união é o que conheço como ‘shimanchu nu takara’. Foi uma experiência única da qual nunca vou me esquecer!

Agradeço a todos por tudo. Queria deixar uma mensagem

pra cada um, mas é muita gente então não tem como. De coração:

ARIGATOU GOZAIMASHITA ! THANK YOU VERY MUCH ! MUCHAS GRACIAS ! MERCI BEAUCOUP ! MUITO OBRIGADA ! NIFUE- DE-BIRU !



中馬 渡慶次 カーレン

TIGUMAN TOKESHI KAREN

18歳 4世

ブラジル連邦共和国

Federative Republic of Brazil

カンボグランデ沖縄県人会



2008年ジュニアスタディーツアー

ニハーデービル！ジュニアスタディーツアーでは大変お世話になり、どうもありがとうございました。各国、各都市から一緒にツアーに参加して下さった方、新しく友達になって下さった方、沖縄で歓迎して下さった親戚の皆様、お世話して下さいました。皆様本当にどうもありがとうございました。今、私は感謝の気持ちで一杯です。今回の旅行は今まで私の一番の思い出となりました。日本に行ってみよう！という子どもの頃からの夢がやっと叶いました。これは名誉です！一世である曾祖父の国を知ることは誇りであり、私は日系人として生まれたことにも誇りを持っています。

当初、試験に通過した知らせを聞き、不安な気持ちもありました。この大きな挑戦を私は超えられるだろうか。また、ブラジルを紹介することは非常に難しく、特に今年は移民百周年ということもあり、簡単に私達の国ブラジルを紹介するのは難しいと思いました。そこで、一緒に日本に行くサンパウロの人と、ブラジルの服装や踊り、太鼓など、どのようにブラジルを紹介しようか、事前にインターネットを通して考えました。その人とは出発当日、グアルーリョス空港で初めて会いましたが、インターネットを通じて知り合っていたので既に友達のような感じでした。更に、アルゼンチン、ボリビア、ペルーからのメンバーとも合流し、皆で一緒に那覇まで行きました。旅路は順調でした。

那覇に着くと親戚が迎えに来ており、最初の一週間は曾祖父の息子の家に滞在しました。家族のことや生活スタイルなどについて、たくさん話をしました。滞在中は色々な事をしました。家族でお祝いをし、水族館、ビーチ、イルカショー、トレッキング、比地大滝、バーベキュー、首里城、平和祈念資料館、国際通りなど・・・、さよならパーティーではエイサーを披露しました。マカレナとブーツスクッティングベイビーを踊り、島人ぬ宝を歌いました。とても面白く、しかし心の中ではとても悲しかったです。さよならの時には皆泣いてしまいました。最終日は、滞在先でお世話になった沢山の人が空港に見送りに来てくれました。そして私は、タミさん、アユミさん、キメイさん、

リナさん、ナオミさんと一緒にブラジルに帰ってきました。

沖縄での滞在はとても楽しく感動的で、知り合った人たちと出来ればずっと一緒に沖縄に住み、暮らしたい気持ちでした。沖縄は、人、場所、景色、食べ物、文化、全てが素晴らしく、とてもいい思い出です。ブラジルに帰国しても、私の心は今でも沖縄にあります。私は本当に沖縄に恋をしてしまいました。是非また何度でも行きたいです。そのためにもっと沢山勉強して大学に入り、日本語を磨き、お金を貯め、そして再び日本に行き、知り合った友人にまた再会したいです。

そんな経験を通し、今の自分は以前に比べて成長したと思います。沖縄で過ごした2週間で学んだことは素晴らしいもので、今までの私の人生で一番の思い出となり、一番の時間となりました。できるだけ沢山の人たちに沖縄に行くよう勧めたいです。絶対に後悔しませんから！沖縄は素晴らしい島で、それを一つの言葉に表したら『綺麗だ』ということです。

両親、兄弟、祖父母、家族の皆、沖縄協会会長玉城ジョージさん、沖縄協会の皆様、見送りして下さいました友人、私にこのような素晴らしい経験を下さったことに感謝します。皆様本当にどうもありがとうございました。



島袋 里菜

RINA SHIMABUKURO

14歳 3世

ボリビア共和国 Republic of Bolivia

ボリビア沖縄県人会



ジュニア・スタディ・ツアーに参加して

ジュニア・スタディ・ツアー。それは沖縄県が、海外にいる沖縄県人子弟を沖縄県に招待し、沖縄の歴史、文化、自然などの体験学習を通して、県内の生徒との交流を深めること、世界に広がるウチナンチュの架け橋となる人達を育てることを目的としているものです。

私は、今年中学最後の冬休みに二週間、そのツアーに参加することができました。

私の祖母は、ウチナーグチをまぜてよく沖縄の話をします。美しい海、歌、踊り、着物、おいしい料理、キジムナーやシーサー、緑のサトウキビ畑、などなど。時には悲しい戦争の話。それを聞いている内に私は絵本で見た竜宮城をイメージしながら、沖縄を身近に感じるようになりました。いつかは祖母のふるさとを実際に見たいと思い、一生懸命日本語とスペイン語を勉強してきました。

その夢がかなったのです。くじ運のいい私は竜宮城へのキップを手にしたのです。

ボリビア沖縄県人会から、参加決定のお知らせを受けた時、うれしい気持ちと不安な気持ちでいっぱいでした。ボリビア代表者は私一人だったのです。他に海外からはブラジル、アルゼンチン、ペルー、キューバ、アメリカ、カナダ、マレーシア、ニューカレドニアの計九つの国から、十五名の参加者がいました。県内の参加者も十五名でしたが、引率者やスタッフ、ボランティアなどを含むとみんなで約六十名ほどになります。みんなの顔を見た時、世界にはこんなにもウチナンチュがいるのかとびっくりしてしまいました。わたしは、開会式での挨拶、自己紹介やボリビアの紹介をすべて日本語ですると、県内の生徒と間違えられることもありました。ちょっとした通訳を頼まれたりしている内に出会った人達とどんどん友達になりました。そんな時、日本語を勉強していて良かったな、と心からうれしく思いました。逆に、ブラジルの空港で荷物がなかなか受け取れず、ポルトガル語や英語が話せなくて困った時のことを思うと、何かを伝えたくてもそれができないとみじめでくやしい気持ちになることも知りました。やはりコミュニケーションには言葉

がとても大切だし、伝えよう・理解しようとするお互いの努力も必要だと強く感じました。

ツアーでは五つの学習プログラムがありました。自然学習、歴史学習、文化学習、平和学習、そして社会学習です。見るもの聞くもの全てに感動し、貴重な体験を沢山してきましたが、あまりにも多いのでその内容を一部だけ報告します。

①まず、自然学習。世界最大級の水族館「美ら海水族館」の60cmの厚いガラスにびっくりし、その中にある沢山の種類の魚たちの泳ぎに感動しました。大きなサメもいるので迫力満点です。また、白い砂浜のエメラルドビーチというところは、その名の通り深い緑と青の海で、そこに立った時は涙が出そうなくらい感激しました。海で泳ぎ、そこで初めて海水がしょっぱいのを味わい、体全身で沖縄を感じることができました。そこでは竜宮城の乗り物・ウミガメには出会いませんでしたが、オキちゃんという、かわいくてかきこいイルカのショーを見ることもできました。

②次に歴史学習。首里城や金城町石畳、博物館や美術館などを訪ね、沖縄が琉球王国だった頃の歴史とロマンに触れることができました。私達ウチナンチュの祖先はこんなに誇り高く、たくましく生きていたのですね。

③次に文化学習。テンブス館という所で、美しい琉球漆の黒い菓子皿に赤いハイビスカスの花を貼りつけました。記念に持ち帰ることができ、家に飾ってあります。エイサーも指導してもらいましたが、なぜか県内の生徒より海外参加者の方が慣れた動きで上手に踊っていました。実は、海外の「琉球国祭り太鼓」のメンバーが数人いて、沖縄の文化をととても誇りに思っているのです。

④次に平和学習。平和の意味を考えるためにも平和記念公園やひめゆりの塔の見学予定のはずが、私だけダウンしてしまい、大事をとって病院入院体験となってしまいました。この時の沖縄の人の親切で丁寧な対応は忘れられません。おかげで学習プログラムにはない、いい体験をしました。という怒られますね。

⑤最後に社会学習。県庁見学や国際通り散策を通して沖縄の現状を学びます。マチグラーにも案内してもらいました。ツアー中は買物禁止ということは知らされ

ていましたが、このときほど苦しいことはありません。かわいくてほしい物が目の前に沢山あるのに、おあずけ状態なのです。

竜宮城での夢のような体験話しはこれで一通り終わりますが、これから浦島太郎ならぬ私がポリビアに戻り、今感じていることを報告します。

以前、国語六年の教科書から「人類はほろびるか」というタイトルで地球環境の問題を学習したことがあります。人間は生き延びるため、そして豊かな暮らしのため、知恵を働かせ技術を持ったかも知れませんが、むやみに自然環境もこわしてきているというのです。

私が見てきた沖縄の美しい海にもさまざまな異変がおきているというのです。歌にもありますが、きれいなサンゴや魚たちが死んでいくのです。飛行機に乗った時、上空から見た南米の美しい緑もへっていくのです。私達の住むこの地球から、静かに、でも確実に、一つまた一つなくなっていくのです。

この地球上では、私達も自然の中で生かされているということをもっと自覚し、環境を守り続けようと努力しなければ、教科書にある通り人類はほろびるとまて言われているのです。

ツアーから帰ってきて、祖母に「おばあちゃんのふるさと、みんな優しい人ばかりで何もかもがきれいだったよ。」と報告しました。うそではありません。ただ、祖母の中のふるさとはもっと美しかったのではないのでしょうか。平和を願う人々の気持ちはもっと強かったのではないのでしょうか。それなのに、今でも沖縄の上空をアメリカ軍の戦闘機がひっきりなしに大きな音をたてて飛びまわっています。最近、ここポリビアでは政治問題で何人もの命が消えました。

どうか、世界中の人の心も自然も美しいままでいてください、と願う気持ちでいっぱいです。

このすばらしいツアーに参加させてくださった沖縄県の皆様、ありがとうございます。これからもポリビアで自身と誇りを持ってウチナンチュ魂をひろめていきます。

Después de participar en el Junior Study Tour en Okinawa

Junior Study Tour, es un tour que tiene como objetivo, confraternizar a los descendientes okinawenses tanto del interior como del exterior de Okinawa, a través de una experiencia conjunta de estudiar la historia, la cultura y la naturaleza de Okinawa; asimismo formar a dichos descendientes como portadores del espíritu okinawense para unir a todos los demás okinawenses que se encuentran extendidos en el mundo entero.

Yo tuve la dicha de participar en dicho tour, durante

2 semanas de mi última vacación de invierno de vida colegiala primaria.

Mi abuela, siempre me ha contado de su país natal lejano, con tono provinciano. La belleza del mar, canto, baile, kimono, comida típica, los seres de la leyenda, el verde cañaveral, etc. y también su triste historia de la guerra..A medida que fui escuchándola, Okinawa para mí fue un lugar ya muy familiar, hasta me imaginaba como si fuera el Ryugujo, lugar hermoso descrito en una fábula famosa del Japón. Entonces, sentí fuertemente el deseo de ir a conocer esa tierra natal de mi abuela, y es ésa la razón por la cual estudié el idioma japonés y español, con mucho esmero.

Mi sueño de ir a Okinawa se hizo realidad. Mis manos alcanzaron el boleto para el viaje de mi sueño de Ryugujo.

Cuando llegó el aviso desde la Asociación Okinawense de Bolivia, confirmando el viaje, sentí tanta felicidad y al mismo tiempo un poco de miedo. Fui la única participante de Bolivia. Fuimos un total de 15 participantes, desde los 9 países de Brasil, Argentina, Perú, Cuba, EEUU, Canadá, Malasia, Nueva Caledonia. Y Bolivia, y de Okinawa- Japón fueron otros 15, llegando a un total de 60 participantes incluyendo los organizadores. Para mí fue algo sorprendente ver tantos descendientes okinawenses, cuando hablé todo en japonés al hacer el saludo en el acto de apertura, la presentación de mi país y personal, mucha gente se confundió pensando que era participante de Okinawa. Además hice un poco de traducciones; lo que me ayudo a hacer amistad fácilmente. Entonces me sentí tan feliz y recompensada por mi esfuerzo al estudio. Pero por otro lado, experimenté una situación completamente reversa en el Aeropuerto de Brasil, no sabía dónde recoger mi equipaje, cuando no pude hablar portugués ni inglés, sentí tanta ansiedad y temor por no poder transmitir lo que uno desea hacer. Es ahí donde aprendí que para una buena comunicación, es muy importante el lenguaje, y se necesita un esfuerzo mutuo del transmisor y el receptor.

En el tour hubo 5 programas de estudio, los cuales fueron: Estudio de la Naturaleza, Historia, Cultura, Paz y Social. tuve muchas experiencias apreciables, éstas son algunas de ellas en forma resumida.

1. Estudio de la Naturaleza. Fuimos al gigantesco acuario donde el grosor del vidrio mide 60 cm. Dentro del cual nadaban varias especies de peces hermosas que fueron impresionantes. Y el poderoso tiburón. También fuimos a la Playa que se llama "Esmeralda", donde el mar tiene un color verde azulado tal como lo describe con el nombre, y hasta conmovedor por su belleza. Nadamos en el mar, donde por primera vez, tuve la oportunidad de comprender que el mar es salado. Es allí donde experiment

é con todo mi cuerpo y alma lo que es Okinawa. No tuve la suerte de encontrarme con la tortuga gigantesca del Ryugujo, como narra la fábula; pero vimos el show de los delfines muy inteligentes y graciosos.

2. Estudio de la Historia. Fuimos a visitar al antiguo castillo "Shuri", el camino viejo pavimentado de piedras en "Kinjo Cho", museos y casas culturales donde se pueden apreciar la era del Reino Ryukyu. Nuestros antepasado eran tan nobles y vivían con mucho rigor.

3. Estudio de la Cultura. En la casa Tenbusu, fabricamos un platillo con pintura Urushi diseñando la flor típica de Okinawa, la cual traje para la casa como recuerdo. También nos enseñó el baile Eisa, lo curioso fue que los participantes del extranjero bailaron muy bien, igual que los participantes japoneses, ya que algunos pertenecen al grupo de Ryukyukoku Maturidaiko Grupo activo en el extranjero y se sienten muy orgullosos de ser unos de sus miembros.

4. Estudio sobre la Paz. El plan era visitar la Plaza Conmemorativa de Paz y el Monumento Himeyuri, pero lamentablemente estuve en mal estado de salud, lo que me obligó a internarme al hospital. Lo cual fue otra buena experiencia inolvidable, fuera del programa porque toda la gente que me atendó fue amable y cuidada.

5. Estudios Sociales. Visitamos la Prefectura y la calle llamada Kokusaidoori (Av. internacional), para observar la realidad social. En Machigua (Mercadito), tuve un recuerdo muy duro, ya que durante el tour estaba prohibido la compra...y el lugar estaba lleno de ventas de productos muy atractivos para m,!

Todo esto ha sido una grata experiencia como en Ryugujo de la faábula El personaje principal Urashimataro vuelve a su realidad, y yo también volví a Bolivia para informar lo que siento ahora.

Expresaré mis sentimientos después de la llegada a mi país natal. Hace tiempo, había estudiado un texto japonés, sobre el problema del medio ambiente, donde redacta, que el hombre es el principal destructor de la naturaleza, por conseguir una vida prolongada y cómoda, a través de su inteligencia y avanzada técnica.

El mar hermoso de Okinawa que vi, dice que sufre de un cambio anormal donde los corales y los peces van muriéndose. La hermosa selva de Sud América que vi desde el avión, dice que también se está perdiendo, desde el planeta que vivimos, algo va desapareciendo poco a poco, en silencio y con seguridad. Debemos tener conciencia que nosotros somos parte de la naturaleza y que dependemos de ella, Si no cuidamos el medio ambiente, es casi seguro que el ser humano se extinguirá, como lo dice el autor del texto.

Después del retorno de mi viaje, informé a mi abuela, diciéndole que la gente de su pueblo natal, fue muy amable y que todo fue muy bonito. Pero me imagino que el pueblo natal que vive dentro del corazón de mi abuela, hubiese sido aún más hermoso, y que el deseo de paz de la gente, era más fuerte que ahora. Sólo deseo profundamente que los corazones humanos y la naturaleza se mantenga limpio y puro. Porque en Okinawa se puede escuchar a cada momento el estruendoso ruido del avión de combate estadounidense. Y también en mi país, en estos días, hubo algunas muertes por problemas políticos.

Agradezco a la Prefectura de Okinawa, por organizar este tour y me comprometo a difundir el espíritu okinawense, ahora que conozco mis raíces, siento con más seguridad y orgullo ser parte suya. Gracias por esta oportunidad única. Muchas Gracias.



安座間 上地 カテリーネ 直未

AZAMA UECHI KATHERINE NAOMI

16歳 4世

ペルー共和国 Republic of Peru

ペルー沖縄県人会



ジュニアスタディーツアー 2008

JSTの経験は言葉で言えないほど、すごく楽しくてよかったです。

この五日間はとてもCOOLでした。その時は毎日「沖縄にいることが信じられない」と思い、今でもまだ信じられない気持ちです。

その一週間で色々な国の人達と出会いました。アメリカ、マレーシア、ニューカレドニア、ブラジル、アルゼンチン、キューバ、ボリビア、カナダそして日本の研修生もいました。

一人一人が特別な人たちで 又、ガイドやスタッフのメンバーも皆優しくて楽しませて下さいました。その人達がいたお陰で冒険的な、いい勉強が出来ました。心から感謝申し上げます。

ペルーのリマ市から出る前は、日本へ行くことはあまり意識していませんでした。でもこれは大変なチャンスであることは知っていました。ただ、初めての一人旅なのでブラジルへ行くことがとても不安でした。ブラジルへ着いたらどうしたらいいか、誰か迎えに来てくれるか、カバンは何処にあるかもわからなくて心配していました。ブラジルへ着いた時、飛行場から出てはいけないと言われました。もしも出たらロンドンへ行くにも、また税金を払わなければいけないと言う事で余計に心配しました。だって私はポルトガル語はわからないからです。でもとても親切なカウンターの女の人が、誰か迎えに来てかを見に行きました。

丁度ブラジルの旅行会社の仲宗根さんがアルゼンチンとボリビアのJSTのメンバーと一緒に待っていてくれて、ほっとしました。その後ブラジルのJSTのメンバーも加わりました。そしてロンドンへと出発しました。ロンドンまではとても長い時間でした。その上何もする事がなくて退屈でした。ロンドンへ着いて何も見る暇もなく、走ってすぐに次の便に乗りました。

今度は東京へ行く事と南米のメンバーが揃っていた事の安心感で心が弾んでうきうきしていました。

日本に着いた最初の印象はとても暑かったことです。

成田ではちょっと時間があつたので、皆で少し買い物をして沖縄へ出発しました。皆も沖縄へ着くのが待

ちどしくて、ドキドキして長かったフライトの疲れは、もうありませんでした。

沖縄... 夢にまで見た美しくて静かな沖縄... 空から見る沖縄は写真で見た事がありました、でもあいにく行く時も帰るときも夜でしたので大変残念に思いました。

帰ってから一ヶ月たちましたが、沖縄へ行った事が今でも信じられない気持ちです。夢みたい... 美しい夢... 目覚めたくない... でもいつもの生活にもどらなきゃいけない、寂しい気持ちですが又も沖縄へ行く希望を胸に秘めて頑張っています。

沖縄の人達はとても親切で、暖かくて、訪れる人達の心を優しく包んでくれます。JSTのボランティアメンバー達もそうでした。誰一人、「楽しく過ごせなかった」と言った人はいませんでした。沖縄の人達は本当に明るくて、朗らかで、仕事が好きで、勤勉で、いつも前向きな気持ちを持った人達です。そんな沖縄の人達を尊敬します。

JSTのお陰で、平和祈念資料館で学んだ事、戦争を知らない私が第二次大戦中沖縄の人達がどんなに苦しんだことか、生き延びる為にどんなに苦勞をしたことかをいくらか理解できるような感じがしました。平和の大切さもわかりました。

沖縄の文化、歴史、自然も学び、そして新しい友達もでき一生忘れる事のない思い出になりました。

前にも述べたように、沖縄は私の夢でした。私はペルー代表として選ばれた事を光栄に思います。

私を推薦してその夢を叶えて下さいましたペルー沖縄県人会 会長フェルナンド親泊様、JSTを企画された沖縄県庁の皆様、担当を受け持った皆様並びにボランティアの学生の皆様に心から厚くお礼申し上げます。

ペルーで生まれ育った私ですがウチナーンチュの子孫であることを誇りに思います。

JUNIOR STUDY TOUR 2008

La experiencia que viví mientras estuve en el JST es increíble. Tanto así que ni tengo palabras para describir exactamente todo lo que sentí. Creo que eso es, prá

cticamente, imposible. Esos 5 días que estuve con todos en el TOUR fueron, simplemente, geniales. Ahi, todos los días me ponía a pensar... y decía: "no puedo creer que esté en Okinawa". Y créanme que, hasta ahora no lo hago.

Durante los días en los que estuve en el TOUR conocí a muchas personas, todas muy buenas y de distintos países: Estados Unidos, Malasia, Nueva Caledonia, Brasil, Cuba, Argentina, Bolivia, Canadá y Japón. Todas estas personas tienen algo que los hace especiales y que hace que los quiera mucho. Todo esto que digo sobre las personas que conocí no es sólo para los miembros que participaron del JST, sino también a los guías y miembros del staff que, por cierto, hicieron un muy buen trabajo por lo que quiero agradecerles desde el fondo de mi corazón, ya que, si no fuera por el esfuerzo que ellos pusieron al estar al tanto de todo lo que pasaba, no habría tenido la oportunidad de participar en el tour y así experimentar esta aventura.

Cuando estaba en Perú, a punto de salir, estaba, a decir verdad, normal. No me sentía tan emocionada como cuando ya estaba en Tokio, pero yo sabía que esa era una gran oportunidad y que iba a disfrutarlo al máximo, es sólo que estaba más preocupada, en ese momento, en qué era lo que iba a hacer llegando a Brasil porque se suponía que íbamos a encontrarnos todos los sudamericanos allá, lo cual significaba que tenía que salir de vuelos en conexión y de donde estaban las maletas hacia el aeropuerto en sí. El problema fue que me dijeron que no podía salir. Me dijeron que si salía, para volver a entrar y partir hacia Londres, tendría que pagar impuestos, así que me empecé a preocupar. Felizmente apareció una señorita que hablaba español – porque de portugués solo sabía decir gracias – y me dijo que vería si había alguien afuera esperando por mí. Cuando regresó me dijo que, efectivamente, había alguien de apellido Nakasone esperando por mí, así que salí y conocí a las argentinas y a la boliviana. Más tarde llegaron las brasileras y partimos a Londres. El vuelo fue muy largo y, lamentablemente, no había mucho que hacer en el avión. Llegando a Londres no tuvimos mucho tiempo, así que prácticamente tuvimos que correr para llegar a tiempo al siguiente vuelo, el que iba hacia Tokyo. En ese momento ya me sentía un poco más tranquila porque no tenía que ir sola de un lado para otro, sino que estaba acompañada; y me sentía mucho más emocionada porque ahí sí decía "¡¡¡vamos para Tokyo!!!", lo que significaba que íbamos directo a Japón.

La primera impresión que tuve de Japón fue: "¡Hace mucho calor!", y es que era verano.

Para mi suerte – y la de los demás, también – pudimos estar un tiempo en el aeropuerto y comprar unas cuantas cositas. Llegada la hora de partir hacia Okinawa, todos estábamos emocionados y no podíamos esperar más.

Desde hace mucho tiempo, soñaba con ir a Okinawa porque me parece un lugar muy lindo y tranquilo. He visto, por foto, cómo es que se ve Okinawa desde el cielo, pero verlo 'en vivo y en directo' debe ser muy diferente. Pero no tuve la oportunidad de hacerlo debido a que llegamos en la noche del 18 de Julio y partimos en la noche del 29 del mismo. Siempre recordaré todos los momentos que viví mientras estuve en el JUNIOR STUDY TOUR y a la gente que conocí.

Ya ha pasado un mes desde que volví y aún no puedo creer que fui a Okinawa. Es como un sueño... un sueño o muy lindo del que desearía no haber despertado, ya que vuelvo a la vida normal que tengo aquí, en Perú.

Mientras estaba allá, pude ver que las personas que son de Okinawa tienen un calor especial en cada uno que hace que todos los que vayan hasta allá se sientan muy bien. Todas las personas trataban de hacerte sentir una tranquilidad única. Hacían que, de una u otra manera, te sintieses bien. En verdad, admiro mucho a los okinawenses que, aparte de estar siempre alegres, son luchadores, perseverantes y con la mirada siempre hacia adelante.

Gracias a esta beca, pude conocer muy de cerca todo lo que vivió Okinawa durante la Segunda Guerra Mundial, la forma en la que trataron de sobrevivir y, aunque no puedo sentir qué es lo que ellos sintieron, de alguna u otra forma pude entender lo importante que es la paz para los okinawenses.

Pude, también, conocer la cultura de Okinawa en los tiempos antiguos visitando el Castillo de Shuri, así como la naturaleza de Okinawa en el mar y las montañas. Conocí muchos amigos de diferentes países y nunca los olvidaré.

La gente de Okinawa es muy amable y cálida con sus visitantes. Lo mismo puedo decir de los que participaron como voluntarios, todos muy amables. Los okinawenses son alegres, trabajadores y positivos por lo cual los admiro.

La visita del Museo por la Paz en este Tour me hizo ver lo que sufrió la gente para sobrevivir en la época de la Segunda Guerra Mundial y la importancia de la paz.

Siempre recordaré lo aprendido sobre la cultura, historia, naturaleza y mis nuevas amistades.

Tal como lo mencioné anteriormente, conocer Okinawa era mi sueño, y ser elegida como representante de Perú fue un honor.

Agradezco de corazón al Sr. Fernando Oyadomari, Presidente de la Asociación Okinawense del Perú por su recomendación y por hacer mi sueño realidad, a los organizadores del JST, encargados y estudiantes voluntarios.

Estoy orgullosa de ser descendiente okinawense y de haberme criado en Perú.



饒平名 さゆり

SAYURI YOHENA

18歳 3世

アルゼンチン共和国 Argentine Republic

在亜沖縄県人連合会



ジュニアスタディーツアーでの思い出

1枚の紙にたくさんの思い出や気持ちを書くのはとても難しいです。この2週間で経験したことは他と比べられない、唯一の経験であり、言葉をも超えるものでした。他のジュニアスタディーツアーのメンバーとも分かち合える気持ちです。同時に、私たち一人ずつが他とない違うことを経験しており、私たちの中にずっと残るものになるでしょう。

私たちは一緒にたくさんのことを経験することができました。初めて顔を合わせる者同士、出身地に関係なく理解しあい、「ウェルカム・パーティー」から始まり、名護への視察（水族館や滝までの散歩）、ゲーム、前ジュニアスタディーツアー参加者とのキャンプファイヤー、部屋での長話、「お風呂」、首里城見学、沖縄の漆塗り、県立博物館見学、トシとのエイサー練習、戦没者慰霊碑の視察そして移民についてのお話（最後の二つは私の祖父母が苦勞したことや、現在私たちが今生きているためにどれだけの苦難を乗り越えたか理解するのにとても役立ちました。私たちは自分が現在、存在することができてとてもラッキーだと感じました）このような経験を通して、一生の友としてお互いを受け入れることができました。最後の「さよならパーティー」はとても感動的で、ほろ苦くて、皆で笑い、泣き、歌い、踊ったが誰も「さよなら」を言いたくありませんでした。

沖縄で知り合った人々、ぬくもり、親切さ、初めて会ったときから暖かく迎えられた思い出は沖縄の一番素晴らしいものです。沖縄に着いた日は誰とどのように会うのか全く分かりませんでした。皆さんのような素敵な人々に出会えることができて、とても嬉しいサプライズでした。

沖縄ではとても充実したときを過ごす事ができ、このまま沖縄にいたくてアルゼンチンに帰るときはとても辛かったです。

このような素晴らしい経験を与えてくださったことに感謝します。特に沖縄県には深く感謝いたします。そして、沖縄で過ごした素晴らしい2週間の間に会った方々に感謝します。これらはいつまでも決して忘れることはなく、必ず将来再会できる日を信じてい

ます。

OTSUKARESAMA DESHITA!

Mi experiencia en el Junior Study Tour

Difícil es, realmente plasmar en una simple hoja tantos recuerdos, tantos sentimientos... Lo que viví en las últimas 2 semanas fue algo único, inigualable, que traspasa los límites de estas palabras. Es algo que compartimos con los demás miembros del Junior Study. Pero al mismo tiempo, cada uno de nosotros vivió momentos diferentes y únicos, que van a quedar guardados dentro nuestro siempre.

Compartimos demasiadas experiencias juntos: desde ese "Welcome Party" en el que, sin nunca habernos visto la cara nos entendimos y pudimos aceptarnos el uno al otro, como amigos de toda la vida, sin importar de dónde proveníamos; pasando por las excursiones en Nago (el acuario y la caminata hasta la cascada en Yambaru); los juegos, los paseos y el fogón con los chicos de los Juniors anteriores; las largas charlas entre nosotros en los cuartos; el "ofuro"; la visita al castillo de Shuri; el laqueado okinawense; la visita al museo de arte de Okinawa; las prácticas de Eisa con Toshi; la conmoviente visita al monumento a los caídos por la guerra y la charla sobre la inmigración (Éstas dos últimas me ayudaron a entender y a valorar la difícil vida que tuvieron nuestros abuelos y todo por lo que tuvieron que pasar para que hoy día nosotros estemos donde estamos. Llegué a pensar que cada uno de nosotros estaba allí de suerte.); llegando al "Sayounara Party", ese emocionante pero amargo final en el que reímos, lloramos, cantamos, bailamos, pero ninguno queriendo despedirse.

Comenzamos el Junior Study separados por el idioma y las diferencias culturales, y nos fuimos cada uno por su lado pero todos unidos por una amistad lograda desde el primer día, y por el sentimiento de pertenencia a Okinawa, el hogar de nuestros ancestros.

Y de todo aquello lindo que tiene Okinawa con lo que más me quedo es con toda esa gente que conocí, con la calidez y la amabilidad que me brindaron desde el primer momento y la forma que nos atendieron. El día que llegué no tenía

ni idea con qué o con quién me iba a encontrar, y fue una grata sorpresa haberme topado con gente tan abierta.

Llegué a disfrutar esta "isla uchinachu", que sentí una tristeza y una congoja muy grande por no querer volverme, como un vacío dentro mío. Y no entendía cómo en el mejor viaje de mi vida podía estar también uno de los días más tristes que viví.

De cualquier forma fue una experiencia hermosa y única, y doy gracias a Dios haberme presentado aquel día para la entrevista. Le estoy profundamente agradecida a la gobernación de la prefectura de Okinawa por haberme dado esta oportunidad increíble. También a todas aquellas personas que me acompañaron y que estuvieron a mi lado en esas 2 maravillosas semanas. Es algo que no voy a olvidar nunca, y espero con todas ansias que en algún momento se repita y pueda volver a Okinawa y verlos a todos nuevamente.

OTSUKARESAMA DESHITA!



名城 エベリン マルセラ

NASHIRO EVELYN MARCELA

17歳 3世

アルゼンチン共和国 Argentine Republic

在亜沖縄県人連合会



ジュニアスタディーツアー 2008

どうして沖縄に行こうと思いますか。この答えに対しては色々な理由を述べる事が出来ました。日系人はさまざまな国の文化や日本の文化が学べるという特権を持っています。そして、それらの素晴らしい部分を吸収することができます。さらに、沖縄県系人はウチナー文化を習うことができます。

今回のジュニアスタディーツアーをとおして、沖縄の習慣を改めて大事に思うことができました。祭太鼓の研修で、カチャーシーを踊ることによって、私たちはウチナーンチュの喜びを感じ、理解することができました。また、沖縄の歴史を学び、集中して忍耐強くお皿も作りました。このような経験や沖縄で経験したすべての活動は失われてはならないと思います。私たちにはウチナーンチュの血が流れており、忘れてはいけません。

ジュニアスタディーツアーで学んだことを言葉で表すのはとても難しいです。

ウチナーンチュの気持ちを引き継ぎ、次世代の人たちが私たちと同じ気持ちになれるよう、伝えるのは私たちだと実感しました。遠く離れていても、培われた絆は決してなくなることはないでしょう。私たちを繋ぐのはウチナーンチュの血であり、先祖であり、思い出であり、私たちの想いだと感じています。

参加者、ボランティアの皆さん、スタッフの皆さんメルシー！ムイトオブリガーダ！サンキューベリーマッチ！ムーチャスグラシアス！（ありがとう）忘れられない思い出、そして皆さんに会う機会をいただきとても幸せです。参加者、ボランティアの皆さん、スタッフの皆さん、それぞれが特別な思い出を残してくれました。だから私は皆さんそれぞれの素敵な思い出を持って帰ります。

私たちの先祖や日系人の皆様が今日までに築いたものが失われないよう、私はこれからも日本語の勉強を続け、協力もしていくつもりです。また、若い世代に対して与えられている沖縄への研修制度、留学制度はとても大切で、私たちの義務を果たす上でとても大事だと感じます。このような経験を通して、人間として

成長し、私たちのルーツを理解し、大切にすることを教えてくれます。

沖縄での生活、教育、仕事、歴史や習慣がどのようなものなのか、疑問に思っていました。沖縄へ行き、最大限にこれらのことを学び、理解するのが目的でした。間違いなく、私はこれらのこと以上に学び、持ち帰ることができました。たとえば、初めて親戚に会えた時の感激、エイサーや三線の音を聞いた時の感覚、これらはすべて説明できないほど美しい瞬間でした。そして、はっきりとウチナーンチュの血やルーツはとても強く私たちの中に残っていると証明されました。

沖縄県と在亜沖縄県人会にこのような貴重な経験をさせてくれたことにとっても感謝いたします。

ジュニアスタディーツアー2008のような美しく、二度とない経験することができ、もっと色々な人に伝えて、他の若い人たちが沖縄での研修や交流会に参加するよう勧める事が出来ます。

元留学生や元研修生たちが沖縄の思い出を語る時やウチナーグチでのフレーズを言うたびに目を潤ませていたのを思い出します。今では、彼らの気持ちや涙の意味が分かります。今では「イチャリバ・チョーデー」というフレーズを聞くたびに涙が流れ、沖縄での思い出がよみがえります。

皆さん、この絆をありがとうございました。

JUNIOR STUDY TOUR 2008

¿Por qué te gustaría ir a Okinawa? Esta pregunta la pude ir respondiendo con varios motivos.

Los nikkei tenemos el privilegio de aprender de la cultura de cada país y de la japonesa, dándonos la posibilidad de absorber lo mejor de cada una de ellas. Además, los descendientes de okinawenses tenemos la ventaja de aprender la cultura uchinanchu.

En este Junior Study Tour 2008 revalorizamos algunas de las costumbres de Okinawa.. Pudimos disfrutar y comprender la alegría uchinanchu a través de talleres de matsuridaiko, al bailar kachashi o ver odori, aprendimos de la historia de Okinawa y nos concentrarnos pacientemente al hacer el plato. Pienso que estas actividades como todas

las que aspiramos desde Okinawa, no deben desaparecer, tenemos sangre uchinanchu y no podemos olvidarlo.

Es difícil explicar con palabras todo lo que se siente en el Junior Study Tour.

Comprendí que en un futuro vamos a ser nosotros los que sigamos con este legado tan importante del sentimiento uchinanchu para que otros jóvenes puedan vivir lo que nosotros sentimos. Los lazos formados a pesar de las distancias, vamos a seguir juntos, porque hay algo que nunca nos va a separar: nuestra sangre, nuestros antepasados, nuestros recuerdos, nuestros sentimientos.

A los participantes, voluntarios y staff les digo MERCI! MUITO BRIGADA! THANK YOU VERY MUCH!

MUCHAS MUCHAS GRACIAS! DOUMO ARIGATOU! inolvidables los recuerdos! feliz de haber tenido esta oportunidad de conocerlos. Cada uno de los participantes, staff y voluntarios le puso algo especial y de cada uno me llevo una sensación preciosa!!!!

Voy a seguir estudiando nihongo y apoyar en lo necesario para que todo lo que han logrado nuestros ancestros y nikkei hasta el día de hoy, no se pierda. Para eso me parece que los intercambios y becas a Okinawa destinadas a los jóvenes son muy importantes, ya que las generaciones más jóvenes y las futuras debemos mantener, perseverar y mejorar las cosas que nos fueron y serán legadas. Cada una de estas experiencias nos hacen crecer como personas, nos ayudan a comprender y valorar nuestras raíces.

Me preguntaba cómo serían los okinawenses, cómo sería su estilo de vida, la educación, el trabajo, la historia y sus costumbres. Fui a Okinawa con el objetivo de observar al máximo y tratar de aprender y comprender a los okinawenses. Sin dudas traje mucho más que todo eso, las sensaciones al ver por primera vez a mis parientes, al escuchar eisa, un sanshin o alguna de las tantas canciones que cantábamos todos juntos, esas sensaciones y momentos son inexplicables y hermosas. Son las que siguen afirmando que la sangre y las raíces son muy fuertes.

A la prefectura de Okinawa y al Centro Okinawense en Argentina les agradezco por esta grandiosa oportunidad.

Habiendo podido disfrutar de una experiencia tan hermosa, única e irrepetible como lo fue Junior Study Tour 2008 tengo muchas ganas de poder contar todo lo vivido y alentar a que más jóvenes tengan iniciativa y quieran participar de las becas e intercambios. Espero que muchos chicos más puedan sentir algo tan fuerte como lo que sentimos cada uno de los Junior Study.

He escuchado tantos lindos recuerdos y vivencias de los ex – becarios a Okinawa, y a muchos de ellos les brillaban los ojos cuando escuchaban o decían una frase en uchinanchu que yo no comprendía. Ahora los entiendo, ahora las lá

grimas, recuerdos y sensaciones aparecen cuando escucho ICHARIBA CHOODE!!!

A TODOS GRACIAS POR ESTE HERMOSO “LAZO”!!!



ガルシア ウエマ ダニエル

GARCIA UYEMA DANIEL

15歳 4世

キューバ共和国 Republica de Cuba

キューバ沖縄県人会



沖 縄

僕にとってジュニアスタディツアーに参加できたことは、すごい経験となりました。まず、この素晴らしいイベントへの参加を実現させてくれた沖縄県、そしてすべての関係者へ感謝します。自分の中で言葉で説明するのは難しい、ある感情を覚えました。祖父母や叔父との8年ぶりの再会は本当に嬉しかったです。お互いの頬を流れ落ちる涙だけがその感動を物語っていました。

ツアーが始まる前、祖父母や叔父と一緒に沖縄の習慣を学びました。沖縄料理を味わい、寿司、天ぷら、そば、豆腐を食べ、豊富な種類の野菜や果物も楽しみました。アイスクリームは食べたらとまりませんでした。ある日、人々が他人へ振舞う行動が常に尊敬と礼儀正しさを含んでいることに気づきました。年配の方への気配りもその一つで、その年配の方々がこれまで教えてきたことを、今の人はそれを自然にやっているんだろうなと思いました。

家族・親戚と過ごせた時間はとても有意義でした。正直、終わって欲しくなかったです。キューバの両親・妹・友達のことさえ忘れたほど、言葉に表せないほど幸せなひと時でした。

ツアー初日、言葉の壁から皆にとけこめず、自分自身にブレーキがかかりましたが、このイベントを運営してくれた人たちは、言葉の壁は問題じゃないと、ゲームや歌、おしゃべりを通してうまくまとめてくれました。特にグロリアさんと勝連さんには本当に感謝しています。2人のおかげですごく気分が落ちつけました。そして、なおみ、さゆり、エヴェリン、まう、あいみ、りこ、みんなありがとう！参加者全員にもいろいろ助けてもらってとても感謝しています。ありがとうございました。

各国紹介は、皆がどんな生活をしているのかを知ることができてとても勉強になりました。出身地はそれぞれ異なりますが、共通する部分がたくさんあったのも発見の一つです。

かんぼレクセンターとホテル・タニューは施設もスタッフの対応も素晴らしく、快適でした。

沖縄県庁訪問では、参加者がそれぞれの国を代表し、

各国国旗を手にし、歓迎され感動しました。

海洋博記念公園と美ら海水族館では巨大な教室にいる感じがしました。海の多様な生き物、それを保護する人たちなどいろいろ学びました。イルカショーも楽しみました。ビーチもとてもきれいでした。

比地大滝もとても楽しかったです。ガイドの説明も面白く、森林・川・動植物の大切さなど自然について多くのことを学ぶことができ、すごく為になりました。全部自分たちで準備して作ったバーベキューは、私にとっては何もかもが初体験でした。これまでの私は、そんなこと頼まれても、どうせできないと思って、やっていなかっただろうと思います。でも、できないと思っていたことをやれた、人は努力と興味次第で何だってできるものだ気づきました。

首里城を目の前にした時、その大きさに圧倒されました。沖縄伝統芸能の保存振興の拠点として機能する県立博物館、テンプス館も素晴らしかったです。伝統芸能は若い世代にうまく受け継がれているようで、その一つであるエイサーを実際に体験できたことに嬉しく思います。また、琉球漆器のお皿作りも最高に楽しかったです。

今回見学した中で一番衝撃を受けたのは、間違いなく平和祈念資料館でした。戦争という出来事が当時の人々にとってどんなに恐ろしいことだったか、戦争生存者の体験談を交えて、改めて震え上がる思いをしました。僕たち若い世代が戦争に対してノーと声上げ、平和を望むことが重要だと思います。皆のところが常に平和でいられるように、僕たち若い世代の県系人がこのような実際にあった出来事をしっかりと伝えなければならぬという重要性を考えさせられるものでした。

お別れはあっという間にやってきました。さよならパーティでは皆でエイサーを踊り、それぞれの目には喜びと寂しさが一緒になった涙で一杯でした。このツアーに参加できたことで、沖縄の歴史、文化、習慣、自然、平和を学ぶことができました。本当に感謝しています。一生忘れません。

この素晴らしい体験の日々の中で、ウチナーンチュとして、自分自身が成長した気がします。この経験は間違いなく僕の人生を考えさせるものとなりました。

今は皆と離れ離れになったことの寂しさで一杯ですが、同時にエネルギーに満ちています。平和を愛し、自分たちの伝統を残せる未来のために頑張ろう。どこにしようとも、ウチナンチュであることは誇れることであり、僕たちがこの財産を未来に継承していく必要性を感じています。

最後になりますが、僕たちを育て、そして僕たちを形づくってくれる沖縄、いつまでも感謝しています。

Okinawa

Para mí participar en el Junior Study Tour 2008, fue una experiencia grandiosa, no quiero dejar pasar por alto el profundo agradecimiento a la Prefectura de Okinawa por hacer posible nuestro sueño de participar en tan magno evento, así como a todas las personas que de una forma u otra nos ayudaron e hicieron realidad este viaje. Lejos estaba de imaginar lo que sucedería dentro de mí como persona pues experimenté sentimientos que son difíciles de explicar, el reencuentro con mis abuelos y tíos luego de más de 8 años sin vernos fue de tanta alegría que sólo las lágrimas de nuestros ojos son capaces de traducir todo el amor y cariño que se manifestó.

Con ellos aprendí a convivir con las costumbres de Okinawa, y a saborear los más variados platos típicos de esta región, aprendí a comer sushi, tempura, soba, tofu, pude apreciar la gran variedad de vegetales y frutas tropicales que existen y cómo se cultivan algunas de ellas, además no dejé de probar varios sabores de helados, además pude darme cuenta de lo abnegados y sacrificados que son las personas, el respeto y la educación con que se conducen hacia otras personas, además del cariño y amor que se transmite a los ancianos, pues son ellos los que enseñan y muestran el camino a seguir.

Puedo decir que los días que pasamos juntos en familia fueron tan agradables que no quería que hubieran finalizado, la nostalgia hacia la ausencia de padres, hermana y amigos junto a mí, fue sustituida por la felicidad que sentimos todos al estar unidos de nuevo, y experimentar esa sensación que no es posible explicar con palabras.

Cuando nos reunimos para dar inicio a las actividades del Junior Study, al principio fue difícil para mí poder integrarme pues la barrera del idioma constituyó un freno para mí, pero las personas que organizaron este magnífico evento supieron a través de juegos, cantos y conversaciones que esto no fuera el abismo que nos separara, debo agradecer profundamente a la Srta Gloria Uchida y al Sr Katsuren por la cooperación, preocupación y ayuda que en

todo momento me brindaron y que hicieron posible que me sintiera en casa, además a todo el colectivo de estudiantes que participó en dicho evento, en especial a la Srta Naomi Azama, Sayuri Yohena, Evelin Marcela, Mau Tomori, Aimi Ikemura, Riko Kaneshiro, en fin agradezco a todos los participantes la gran ayuda brindada.

Aprecié mucho la presentación de cada país pues me sirvió para conocer sus costumbres y como viven, además de mantener vivas las tradiciones que son legadas por las generaciones precedentes, pudimos observar que tenemos muchas cosas en común, a pesar de ser oriundos de diferentes países, muchos hábitos son mantenidos.

Las instalaciones donde nos ubicaron Kamporekucenter y Hotel Tanew, son magníficas y el trato del personal hacia nosotros igualmente, en ellos nos sentimos muy bien atendidos pues son muy confortables.

La visita a la Prefectura de Okinawa fue muy impresionante pues todos los que participamos en representación de cada país mostramos las banderas y fuimos recibidos muy cordialmente y de forma organizada también pudimos agradecer este gesto.

Luego partimos hacia el Ocean Expo Park y al Acuario Churami, aquí me pareció estar en un aula gigante pues aprendí la diversidad marina que existe, el fondo marino y los cuidados que se tienen para conservarlo, el show de los delfines fue un espectáculo indescriptible, pude apreciar además la belleza de las playas y tomar baños de mar.

Otra cosa que me agradó mucho fue la visita a las Cataratas del Hijiootaki, pues de una forma muy amena el guía nos transmitía los conocimientos que nos ayudaron a conocer mucho acerca de la naturaleza, su cuidado, la importancia de los bosques y ríos, los animales, además de conocer como se formó parte de los suelos, en fin no perdimos tiempo pues a la vez que disfrutábamos del hermoso paisaje, aprendíamos, sin percatarnos de ello. Al regreso participamos en una parrillada, que para muchos fue algo inusual pues fuimos nosotros mismos los que preparamos la cena, para mí fue la primera vez que lo hacía así que constituyó un juego más, pero luego me pude percatar que de esta forma estaba siendo útil pues aprendía a realizar algo que tal vez si me lo pidieran no lo haría pues hubiera creído que no era capaz, eso nos demuestra de una forma muy sencilla y práctica que somos capaces de realizar muchas cosas, solo es necesario el esfuerzo y el interés nuestro para lograr algo.

Otra escuela lo constituyó la visita al Castillo Shuri, pues conocimos de cerca algo que habíamos visto en películas, pues verlo frente a nosotros fue algo muy impactante, al igual que el Museo Prefectural y el de Bellas Artes, donde pude observar cómo se mantienen las tradiciones culturales

y folklóricas de Okinawa, y son transmitidas a los jóvenes, y como parte de esto aprendimos a bailar Eisa, creo que fue maravilloso poder hacerlo, así como el lacado de la vajilla, que de forma insuperable fuimos enseñados por profesores que con dedicación nos mostraron como hacerlo.

La visita que más nos conmocionó sin dudas fue el Museo Conmemorativo de la Paz, aquí pudimos vivir lo que fue la guerra para el pueblo, lo devastador y horroroso que es, nos estremecimos oyendo las vivencias de los que aún viven, pero que nunca han superado lo vivido, creo que es importante que nosotros los jóvenes del mundo nos pronunciemos y alcemos nuestras voces en contra la guerra, a amar la paz, pues aún existen muchos países que sufren por esta causa, esta visita nos hizo reflexionar acerca de la importancia que nosotros los descendientes más jóvenes transmitamos esta experiencia vivida para que en nuestros corazones siempre viva la paz.

La despedida nos llegó de forma inesperada pues el tiempo voló tan rápido que no nos percatamos de ello, sólo el día de la clausura fue que se hizo consciente que el término estaba por llegar, hicimos la presentación final del Eisa, con los ojos llenos de lágrimas mezcla de alegría y tristeza agradecemos haber participado en estas actividades, que nunca podremos olvidar, pues gracias a ello conocimos acerca de la historia, cultura, las costumbres, la naturaleza, el amor a la paz.

Como uchinanchu, siento haber madurado en estos hermosos días vividos, sin dudas la escuela pasada en apenas 15 días me hizo ver el camino a seguir, pues nuestros antepasados trazaron un camino que para ellos fue muy difícil y que nosotros conocimos a través de este maravilloso programa, ahora llenos de nostalgia por la separación y partida pero llenos de energía regresamos a nuestros hogares con la seguridad que tenemos que trabajar por un futuro donde se ame la paz, se mantengan vivas nuestras tradiciones, y donde quiera que exista un uchinanchu pueda decirse de él que es un digno representante del legado que nos dejaron, ahora nos toca a nosotros impedir que tanta cultura, sabiduría y amor encontrados en este maravilloso pueblo quede en el olvido, seremos capaces de mantener y perpetuar lo aprendido, solo me queda por decir: OKINAWA ESTAREMOS ETERNAMENTE AGRADECIDOS POR SER LA ISLA QUE NOS NUTRE Y QUE NOS FORJA.



森部 マーシ 美幸

MORIBE MARCIE MIYUKI

15歳 4世

アメリカ合衆国

United States of America

ハワイ沖縄連合会



ジュニアスタディーツアーを終えて

今回のジュニアスタディーツアーは、私に沖縄文化をいままで以上に学ぶチャンスとなりました。また文化だけではなく、沖縄の歴史、世界中にいるウチナーンチュの沖縄スピリットも学ぶことができました。

この沖縄への旅行は、私にとって初めてのことでありでした。一人で旅をすることや、世界中にいるウチナーンチュに会うことも初めてでした。これらのことを沖縄への旅行で経験をする中で、一人で世界中にいる友達に会いに行けるような、グローバルな人間になった気持ちがしています。

沖縄の歴史、文化を学ぶことが、今回の旅行の目的でした。沖縄で過ごしている間、クラフト、ハイキング、レクチャーをうけたりしました。

1日目は、色々な国から集まった人達と会い、交流を深めました。キューバ、マレーシア、ニューカレドニア等にもウチナーンチュがいると知りませんでした。私たちは、言葉を学んだりして、ほかの国についても勉強することができました。日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語、フランス語が飛び交うことにも驚きましたが、それらをウチナーンチュの人たちが話していることにも、とてもびっくりしました。

また、沖縄の旅でみた自然もとても素晴らしいものでした。沖縄でのハイキングは、今回が初めてでした。比地大滝へのハイキングでは、自然にかこまれて、その美しさに息もつけないほどでした。深い、深い緑で、その昔が、どんなであったか想像できるほどでした。とかげ、カメレオン、へびも見ることができ、とても素晴らしいアドベンチャーでした。滝に行くまでに、私はびしょり汗をかいていて、まるで海で泳いだあのような感じでした。滝は、とても高く美しく、水のおちる音を聞くととてもリラックスしました。水に足を付けてみると、とても気持ちがよかったです。沖縄で、こんなに素晴らしいハイキングをすることができ、たくさんのことを知ることができて、こころから「ありがたい」と感謝しています。

自分自身のアイデンティティの一部として、自分自身の文化の歴史を学ぶことは、大切です。

私達は、首里城の歴史と沖縄で起きた戦いについて

学びました。沖縄での戦争は、一番私の心に、響きました。人々が、苦しんでいる写真を見るのは、とてもつらいものでした。なにもできず、泣いているだけでした。長田さんから、戦争の話聞き、生き残るために互いに助け合えなかったこと、その中で友達や家族を失ったことなど、彼の痛みを感じました。自分たちだけが、生き残ることを考えた時に、人々のモラルは消え、“戦争は、人々を悪魔に変えた”と長田さんは、話されていました。

私は、戦争を体験していませんが、沖縄の平和へのメッセージをしっかりと理解できます。ウチナーンチュの人々は、戦争の間中、たくさん苦しみを経験し、二度と同じことが起きてはいけないと思っています。このスタディーツアーは、いかに沖縄が、世界中から人々が集まり、友達を作っていくことで、多くの国々に、平和を広めていこうと努力しているかが、よく伝わる例だとおもいます。

海に行ったり、ハイキング、漆の器作りも、素晴らしい思い出ですが、何よりも世界中の人々と、友達になれたことは忘れられない思い出です。たくさんの国から来た人々と出会うことで、「視野を拓ける」という目標を達成することが出来ました。沖縄で、出会った友だちを通して「ウチナーンチュスピリット」を学びました。「イチャリバチョーデー」の意味を彼らは教えてくれました。一度会う人は、皆家族という意味の「イチャリバチョーデー」。このスタディーツアーの間、自分たちの家族を作っている気持ちになりました。皆忘れられない一生の思い出を作ることができて、お互い苦しい時も、楽しい時も助け合える仲間です。

世界中にウチナーンチュが散らばっていたとしても、皆同じウチナーンチュスピリットをしっかりと持っているのだということを学びました。例えば、お互いが違う言葉で話したとしても、大家族のようにいつもつながっているような感じです。もっと言うなら、皆「カチャーシー」を知っていて、それに参加したりしました。私にとって、この旅行は、自分の視野を拓げ、大きな世界のコミュニティーの1人になれるという、素晴らしいチャンスをくれました。

2008年のジュニアスタディーツアーに参加することが出来たことに、心から感謝しています。この沖

縄旅行は、運命の旅だったと思います。自分のルーツを探し、文化を学び、新しい友達に会う旅以上に素晴らしい旅など、あるでしょうか。私は、この旅行でウチナーンチュとしてのアイデンティティーを見つけることができ、世界中のウチナーンチュとつながることが出来ました。

沖縄の人々、また私に沖縄ですばらしい時間をすごせるチャンスを与えてくれた沖縄県庁に、とても感謝しています。自分達に与えられた素晴らしいチャンスに、私も、今回のツアーで出来た私の友達も、感謝しています。沖縄で学んだこと、経験した思い出どれも決して忘れることはないでしょう。「ニフェーデービル」、本当にありがとうございました。

Okinawa Junior Study Tour 2008

Receiving the Okinawa Junior Study Tour scholarship gave me the opportunity to learn about the Okinawan culture. On this tour, not only did I learn about the culture and history, but I learned about the Okinawan spirit, that of which Uchinanchu all over the world possess. This Okinawa trip was a lot of firsts for me, it was the first time traveling by myself and it was my first time meeting Uchinanchu from abroad. Both of these firsts were learning experiences. I am now an independent traveler, brave enough to visit my friends all over the world, and I have become a global citizen.

The main purpose of the Okinawa Junior Study Tour was to teach us about the Okinawan history and culture. During the study tour, we did everything from lectures to hiking to hands on crafts. The first day of the tour was to network and meet the other participants from the different countries. I did not know that there were Uchinanchu in places like Cuba, Malaysia, and New Caledonia. We had language lessons and we learned about each other's countries. I was amazed to hear all of the Japanese, English, Spanish, Portuguese, and French being spoken in the same room. It was so astonishing because they were all Uchinanchu speaking those languages.

I really enjoyed the nature aspects of the study tour. It was my first experience going to an Okinawan beach and going hiking in Okinawa. It was so breathtakingly beautiful to be surrounded by nature when we were hiking to Hiji Falls. There was so much greenery; I could imagine what it must have been living in the old days. It was such a great adventure, we saw many kinds of lizards, and chameleons, and we also saw a snake. I was so hot and sweaty by the time we got to the waterfall; it looked like I went swimming. The waterfall was beautiful, it was so tall, and the sound was so relaxing. Dipping my feet in the water

was so refreshing. It was such a wonderful experience to have gone hiking in Okinawa; I really appreciate what I learned.

Learning about the history of one's culture is an important part of discovering one's identity. We toured Shuri Castle and learned about the glorious days of the Ryukyu Kingdom, and we also visited the Peace Park to learn about the Battle of Okinawa. Learning about the history of war in Okinawa affected me the most. Seeing the pictures of people suffering in war torn Okinawa was heartbreaking, I could not help but cry. Hearing the first hand story of war from Mr. Nagata, I could feel his pain. I could never imagine what it was like not being able to help others in order to survive, or what it was like to have lost his friends and family. Mr. Nagata said that "War makes human beings demons" because our morals disappear when thinking about the survival of ourselves. Although I have not experienced war, I understand Okinawa's peace message clearly. The Uchinanchu experienced so much suffering during the war that they do not want it to happen again. This study tour is a perfect example of how Okinawa is trying to promote peace among many nations, by giving us the opportunity to make friends from around the world.

Some of my favorite things on this tour were going to the beach, hiking, and making the lacquer plate, but my most memorable experience of this study tour was making lifelong friendships with people from around the world. I definitely achieved my goal of broadening my horizons by befriending so many different people. Through these friendships I learned about the Uchinanchu spirit. These friendships taught me more about "Ichariba Chôde" and the meaning behind it. The saying "Ichariba Chôde" means once we meet we are family. During the Junior Study Tour, it felt like we had created our own family. We created memories that will be remembered forever, and we will always be there to support each other through our ups and downs. I learned that even though we are Uchinanchu living in different countries, we all have the Uchinanchu spirit inborn in us. For example, even though there were language barriers, we all seemed to connect with one another and form one large family. Another example is how everyone knew how to dance kachaashi, and everyone joined in when the music started playing. This Study Tour was such a great opportunity to expand my horizons and become a part of a larger world community.

I greatly appreciate being able to participate in the Okinawa Junior Study Tour for 2008. This trip to Okinawa was the trip of a lifetime for me. What could be better than to travel to find one's roots, to study culture, and forming friendships that will last a lifetime? This trip has helped

me to find my Uchinanchu Identity, and has connected me with Uchinanchu all over the world. I am so grateful to the people of Okinawa and the Okinawan Government for giving me the chance to visit Okinawa and learn about my heritage. My friends and I all appreciate the opportunity that we were given. We will never forget the lessons that we learned and the memories we made together.



上運天 クリスティーナ アイ

UEUNTEN CHRISTINA AI

17歳 4世

アメリカ合衆国

United States of America

サンフランシスコ沖縄県人会



ジュニアスタディーツアー2008

ジュニアスタディーツアーは一生に一度だけの貴重な経験だと思います。もしジュニアスタディーツアーがなければ絶対にこの様な仲間と出会う事もなく、多分こんな素晴らしい経験を共にする事は無かったと思います。

世界中より仲間が集まりました。

アルゼンチン、ブラジル、ボリビア、ペルー、キューバ、ニューカレドニア、米国、カナダ、マレーシアそしてもちろん沖縄です。

今はそれぞれの国に違いはあれ、もとはみな同じ沖縄人なのです。短い期間でしたが、私達は共に過ごし、より親しくなり多くを学びました。

私達は、沖縄の文化が私達の生活の中にどう息づいているかを話し合いました。そこから沢山の事を私は彼らから学びました。

このツアーの中で、私のお気に入りの一つは、山の中をハイキングしたことでした。ハイキングしている間に、友達とより多く話す事ができ、彼らをもっと知る事ができました。皆それぞれ話す言葉が違うため、コミュニケーションをとるのが難しいにも関わらず、ジェスチャーや手を使って話すことで もっと楽しくなりました。

私達は「ありがとう」という言葉を選び、スペイン語、ポルトガル語、フランス語、英語、日本語、そしてウチナーグチでどう言うかを学びました。そして、ツアーの間、ずっとその言葉を使いました。私はまた美ら海水族館も楽しかったです。私はいつもそのことについて聞いてはいましたが、今回幸運にも遂に行くことが出来ました。私はテレビでしか見たことの無い色々な種類の魚を見ることが出来ました。他の友達が「ニモ、ニモ」と言っているのが聞こえた時、とても可笑しかったです。だって、私も同じ事を考えていたからです。ジンベエザメも見ました。長さはなんと、私の五倍！またそこに行きたいです。

私たちは沖縄の歴史と文化を沢山学びました。私は結構知っているつもりでいましたが、それはほんの少しだけだというのを知りました。

沖縄は今、とても平和で幸福な島のように見えます。

でも私は学びました。昔戦争で悲しみ、苦しんだことを...海外移民をした沖縄の人々が苦労しながらどのようにして次世代にその独自の文化伝えて来たかを...

私はジュニアスタディーツアーはとても画期的なプログラムだと思います。なぜならば、沢山の沖縄独自の文化を若い世代の人々が受けついでいく手助けとなるからです。また、ただ文化を学んだだけではなく、世界中に友達ができることです。今回私は、沢山の国々に友達が出来たのでいつかその友達を訪ねたいと思います。それから私が幸せに思うのは、地元沖縄にも沢山の友達が出来たことです。その友達を訪ねて行くとき、私はもうただの観光客ではない気がします。

時間はあっという間に過ぎました。私たちは最後まで笑っていました。私たちはそれぞれ違う言葉で話しても、皆その笑いの意味を十分に理解できたことが嬉しかったです。このツアーを通して、私は沖縄を深く知る事ができ、その文化をより身近に感じる事が出来ます。

ここで私が学んだすべてを、まだ沖縄のことをよく知らない人々に伝えて行きたいと思います。

私は世界のウチナーンチュに沖縄の文化に興味を持たせたいです。なぜなら、沖縄文化は私の一部でありそのことを忘れたくは無いからです。

私は本当に沖縄が大好きです。海や美しい景色を眺めたりしているとここは私の故郷だと感じます。私は十月から石垣の高校に通うことを決心しました。それは私がずっと考えていたことです。

沖縄に住む機会がなかった私にとって、これはとても大きなチャンスです。私はそこでも沢山のことを経験して学べたらと思います。

このジュニアスタディーツアーで多くを学んだように...

Junior Study Tour

The Junior Study Tour was truly a once in a life time experience. If it wasn't for the Junior Study Tour I would probably never have met all the people I got to share this wonderful experience with. There were people from all over the world; Argentina, Brazil, Bolivia, Peru, Cuba, New

Caledonia, United States, Canada, Malaysia, and of course Okinawa. No matter how different we are, we all share the same roots from Okinawa. Over the short time we spent together we became very close and learned so much. We all shared about our homes and how Okinawan culture exists in our lives. Everyone had something to share and I learned so much from everyone.

One of my favorite parts of the tour was hiking in the mountains. During the hike I got to talk to more of the members and learn a lot about them. Even though we had a hard time communicating because of the language barriers, it made the experience more exciting with all the gestures and hand motions we used. We started to pick up words in different languages and learned how to say "thank you" in Spanish, Portuguese, French, English, Japanese, and Okinawan, which we all used throughout the tour.

I also enjoyed going to the Chura Umi Aquarium, I have always heard about it and was so lucky to finally be able to go. I saw all kinds of fish that I only got to see on television, I could hear voices from other members saying "Nemo! Nemo!" and it was funny because I was thinking the same thing. There were stingrays, sharks, and creatures five times my size! I hope to go back there again.

We also learned a lot about the history and culture of Okinawa. I thought I knew a lot, but now I know that there is so much more. Even though Okinawa seems like such a peaceful and happy place now, I learned about the war and suffering that happened long before. We learned about the overseas immigration of Okinawans and how the culture was carried on for generations in other countries despite many hardships.

I think the Junior Study Tour is a great program because it teaches a lot about Okinawa to the younger generations and helps carry on the unique culture of Okinawa. Not only did I learn a lot, but I also made many friends from all over the world. Now I have connections in many countries and I hope to be able to visit them someday. I am also glad that I made lots of friends in Okinawa because now I have friends to visit in Okinawa and will feel less like a tourist. Time went by so fast and we smiled until the end. I am glad that no matter what language we spoke, we all understood the meaning of a smile.

Throughout the tour I have come to understand Okinawa in a much deeper way and I feel closer to my culture. I hope to take all that I have learned and share it with people who do not know much about Okinawa. I want to strike an interest in other Okinawans to learn more about Okinawan culture because it is a big part of me and I don't want it to be forgotten.

I really love Okinawa, somehow I feel at home when I

see the ocean and the beautiful scenery. I have decided to go to Ishigaki in October to study in a high school there because it is something that I have wanted to do for a long time. I never really got to live in Okinawa and I feel this is a great chance for me. I hope that I can learn a lot from this experience too, like I have learned so much from the Junior Study Tour.



ウィレット ザックリー

WILLETT ZACHARY

13歳 2世

アメリカ合衆国

United States of America

ワシントン州沖縄県人クラブ



ジュニアスタディーツアー2008年

僕にとってジュニアスタディーツアーはとても楽しく、たいへん勉強になりました。自分の持つ文化を沢山学べたし、文化学習を通して大勢の人達との出会いがありました。琉球の歴史や沖縄の人々が世界中のあちこちに移民して行った事もよく解りました。

ツアーの1週間は楽しいアクティビティーでいっぱいでした。2日目に県庁訪問をし副知事と会った事や、海洋博記念公園へ行った事はとてもウチナンチュとしての大切な経験をしたと思います。その他、国際通りや漆器工芸の店へ行ったり、ひめゆりの塔では沖縄戦の被害者達の苦しい思いの話を目の前で見たり、聞いたりしました。

ツアー中、僕は色々な所から来た人達に会いました。国が違う、言葉も違う僕たちには文化という共通点がありました。その共通点を通してとても大切な時間をお互いに分かち合うこともできました。ツアーが始まる前、僕は自分の日本語力が心配でしたが、その心配は必要なく通訳の方達がいてとても助かりました。通訳の方達が居なければ、ツアーの経験を理解するのに困難だったと思います。通訳の方達に助けられながらでしたが、自分の日本語力もどんどん上手くなって行きました。ツアー3、4日目あたりからは少しずつ日本語でルームメイトと会話も出来る様になり、又、沖縄の生徒達も英語を少しずつ学び、ツアーの最後の方では英語の会話が出来ようになっていてとてもびっくりさせられました。

日本語に少し自信がついたことで、これからはもっと上手になり次回沖縄を訪ねる時には、長期滞在してみたいと思います。

ツアーで出会った友達や沖縄の親戚とはこれからもずっと連絡を取り合っていきたいと思っています。一番簡単な方法はインターネットを通じたメールのやりとりです。それからワシントン州の沖縄県人会へもっと参加したいと思います。沖縄の事を知り沢山知識が増やせた今、これからは県人会の行事などがもっと理解出来て楽しめると思います。何よりも沖縄の事を思うたびにジュニアスタディーツアーでの経験や思い出が脳裏に焼きついて忘れることなく、これか

らも何度も何度も思い出すと思います。

ツアーでは楽しい遊びやゲームなども沢山ありました。僕はエイサーをやったことが無かったので特別な印象が残っています。それとキャンプファイアーを囲んで皆で歌を歌ったり踊ったりする時間も組み込まれていました。

色々な場所をたずねた中で、ひめゆりの塔が一番好きでした。4年前に行った事があるのですが、その時の事はあまり覚えていませんし、又、沖縄戦のことに関してはほとんど知らなかったのです。

マチグワァを歩いて見学をした時に、今日の沖縄の人々の暮らしをよく知ることが出来ました。小さなお店があちこち並び、そこでは沖縄でしか見れない物が沢山並べてありました。そんなお店をもっと時間をかけて沢山見たかったです。

あつと言う間に日にちが過ぎ、さよならパーティーの準備をしなければなりません。ひとりひとりの生徒がツアーの経験のスピーチをする時には、とても感動的でした。その後でのパーティーはちょっと悲しかったけど、とてもおもしろかったです。最後に皆でさよならを言ってお互いの連絡先を交換し合いました。

ジュニアスタディーツアーはこれからも何年も何年もずっと続けていって僕達のような子供達に大切な文化経験学習をするチャンスを与えてもらえると思います。

Junior Study Tour 2008

The Junior Study Tour was a very exiting and educational experience for me; I learned a lot about my culture and got to meet new people along the way. I got to learn about Ryukyu history as well as the immigration that spread Okinawan culture across the globe.

The whole week was full of fun activities. By the second day we were already experiencing unique Uchinanchu culture; we went to be greeted by the Prefectural vice Governor and visited the Ocean Expo Park. We later went to other unique features of Okinawa such as Kokusai-dori, the lacquer store and the Peace Memorial Museum, were

had the chance to listen to a first hand account of the horrors inflicted on the victims of the "Battle of Okinawa."

During the trip I got a chance to meet people from all over the world. Even though we came from different countries or spoke different languages, we all had something in common; our culture. We quickly got together and got to share our amazing experiences during the tour. Before the tour, I worried about understanding Japanese speakers during the tour. I was glad that once the program began the problem was quickly addressed. I was impressed at all three of the English interpreters. Without them I would have had a much more difficult learning experience. Even though I used the translator I found myself improving my Japanese. By the third or fourth day I found I could converse with my roommate in Japanese. I was just as surprised how fast some others learned English. By the end of the tour I could talk to someone in Japanese or English. I found this very inspiring and decided that, I would continue to improve my Japanese so that, someday I could return to Japan and stay for a long time. From now on I will try to learn with same determination and enthusiasm as the people I met in the Junior Study Tour.

I intend to keep in touch with many of the people I met at the tour as well as my relatives. The easiest way for me is by email and other internet applications. I also plan to participate more in kenjin-kai activities. I feel like I can connect to the kenjin-kai better now because I got to learn a lot about Okinawa. Of course I will always remember the junior study tour vividly and probably think about it often.

The tour was not just about education though, I had lots of fun along the way. The eisa practice was very entertaining for me, I had never tried to learn eisa before so it was a very unique experience for me. Of course dancing at the campfire as well as singing on the bus was also a very fun way to pass the time.

The places we went to see during the tour taught me a lot about Okinawan culture. I especially liked the visit to the Peace Memorial Museum. I had gone there before but it was over 4 years ago so I did not remember much about my trip there. I think it was a very educational experience for me because I knew next to nothing about The Battle of Okinawa.

Walking though the marketplace was an experience that gave me the most insight of present day Okinawa. I saw many small vendors selling food and souvenirs you can only find in Okinawa. There were so many interesting stores I wanted to look in; I wished I had more time to look around.

All too soon our four days were over and we had to get ready for farewell party. Giving our speeches as well as

listening to other participants' speeches was very touching. Afterwards, we had a celebration. The party was sad but also a very fun event. We all got one last chance to say our goodbyes as well as get each others contact information.

I feel that the tour should be continued for many more years to come to offer kids a unique and fun way to learn about their culture.



チョ アレクサンダー デイ ジン

CHO ALEXANDER DAE JIN

16歳 3世

アメリカ合衆国

United States of America

沖米沖縄県人会



ジュニアスタディーツアー2008年

最初に、ジュニアスタディーツアーへ招待して下さった仲井眞弘多県知事に感謝します。またジュニアスタディーツアーに御尽力頂き、大変思い出深いものにして頂いた山城恵さんにも感謝します。私は、このツアーでの勉強や経験を土台にして一生懸命頑張ります。

18時間ものフライトは、赤ちゃんの泣き声が耳について、耐えられない状態でした。しかし、色々な出来事がありました。とても価値のある重要な旅でした。家族や友達に再会しました。私はアメリカ合衆国代表4名のうちの1人としてジュニアスタディーツアーに招かれました。参加者は、それぞれ参加国の代表者というだけでなく、ジュニア大使でもありました。今回は、沖縄の歴史や文化、伝統や生活様式、生き方などの勉強が出来るまたとない機会でした。

正直に言うと、第一日目のオリエンテーションに参加した時、「これはとても長い一日になる」と思いました。ジュニアスタディーツアーの間、ずっとイスに座って本を勉強する学校形式の勉強だけをするツアーなのだと思います。しかし、このツアーは、文化や伝統的な生活を学ぶだけでなく、世界中から来た人々と知り合える、素晴らしく計算されたイベントでした。私は、英語を話す北米の参加者とだけ、コミュニケーションできるのだろうと考えていましたが、それは違っていました。

グループ活動でお互い自己紹介をした時、すぐにお互いの心と心のつながりを感じました。お互いの間につながりを感じたのは、ただ沖縄県系人の子孫であるだけではなく、純粋に相手の魅力を感じたからでしょう。そして、ジュニアスタディーツアーが進んで行けば行くほど、参加者の絆は強くなるばかりで、次第に一生忘れられない深い思い出になりました。このツアーのお陰で、一生大切にしたいと思える経験や、将来社会に貢献するのに役立てたいと思える経験をさせてもらえました。

日が経つに従って、皆非常に良い友達になり、感情を込めてお互いに話す様になりました。良いこと、悪いこと、面白いこと、堅苦しいこと、嬉しいこと、そして悲しい事などがありました。行く先々で様々な感

情が飛び交っていましたが、それがお互いに理解しあい、絆を深める方法と言えます。私はこの機会を生かして、参加者全員と触れ合いました。

ジュニアスタディーツアーでやったイベントは、とても驚くものばかりでした。毎日グループ一緒になって、何らかの記憶に残る活動をしました。あるときは勉強したり、あるときは遊んだり、何をしても参加者同士一緒に楽しみました。しかし一番大事な事は、多くのイベントから何を学びんだかということです。私が得たものは友情、文化への理解、そして責任という様々なものでした。

一日一日皆と一緒に過ごしている間に、自分自身のアイデンティティーを意識し始めました。これまで13年間、私の人生から沖縄は省かれていました。四歳以降は沖縄に帰ったことがなく、それからずっとアメリカにて、沖縄の影響をさほど受けずに生活をしてきたからです。私はエイサーと空手を習っていますが、それらの事からどれくらい沖縄の伝統を学ぶ事が出来るのでしょうか？私は、今年沖縄に帰るまで、エイサーや空手の本来の意味を全然理解していませんでした。沖縄で家族や友達と共に、エイサーと空手の歴史について学びました。エイサーや空手だけでなく、自分の先祖の歴史や沖縄の伝統についても勉強しました。ジュニアスタディーツアーに参加出来たおかげで、このように様々な歴史的側面を、直接見たり聞いたりすることで、より深く理解することができました。

ジュニアスタディーツアーのおかげで、「本当の」沖縄を見ることが出来ました。私達は自然学習で海洋博公園と、比地大滝に行きました。そこで沖縄の自然環境を、海と山の両方から勉強することが出来ました。そこに生息している沖縄で知られている多くの生き物について学習しました。それから、首里城や沖縄県立博物館・美術館を訪ね、沖縄の歴史や文化を学びました。そこで古代の沖縄や市民生活について学びました。しかし、一番印象深かった場所は、第二次世界大戦について学んだ平和祈念資料館でした。そこで、平和の礎を通して私の家族の由来を顧みることが出来ました。そして、最後に国際通りとまちぐわー散策で、沖縄の社会生活を学びました。このツアーから沖縄の信頼性と清らかさを経験でき、色々な事を習いました。

ジュニアスタディーツアーが終わるときは本当に感動的でした。さよならパーティーは、友達によれば「Oh、すごい！」ものでした。私がこれまで行った中で最高のパーティーでした。私たちは今日が最後で、自分の国に帰らなければならないと分かっていました。世界中からきた素晴らしい友達が出来たと思ったら、あっという間にさよならで別れるのはとても辛い事でした。しかしポジティブに考えると、世界中から来た新しい友達と知り合いになり、沖縄への旅から実に色々なことを習いました。このような機会を与えられて私はとても幸運な若者だと感謝しています。

最後に、ジュニアスタディーツアーから得た一番大事な事は、世界中からの参加者とつながる機会を得たことと、参加者の皆で、世界中に沖縄の歴史、文化そして「チムグクル」を広め、沖縄の将来を築く事です。私は帰国後、ジュニアスタディーツアーで出来た世界中の友達と連絡を取り合っています。

私たちは、沖縄のよい将来を築こうとお互い刺激しあっています。

Junior Study Tour 2008

First, I would like to thank the Governor of Okinawa, Mr. Hirokazu Nakaima, for inviting me to participate in the Junior Study Tour. I also appreciate Ms. Megumi Yamashiro for her time and effort to make the Junior Study Tour of 2008 the most memorable and successful one. Based on knowledge that learned from this Tour, I am planning to work hard for Okinawa.

Over eighteen hours of flight was nearly unbearable with a baby crying in my ear, but I knew that no matter what obstacles were in my path, it would all be worth the entire trip. I was able to reunite with my family and friends. I was accepted in The Junior Study Tour 2008 of Okinawa, one of four representing the United States of America. Not everybody can say that they are not only a representative of their native country, but a Junior Ambassador. This was an opportunity of a life time to learn about the history, culture, and traditions of Okinawa.

When I first sat down in the opening orientation, I thought "Wow, this is going to be a long day." I figured that we were going to receive these types of lectures the entire time in the Junior Study Tour. I expected the Junior Study Tour to be full of books and academic fulfillment. But no, the Junior Study Tour is rather a perfectly organized tour to not only learn about the cultural and traditional life of Okinawa but also to meet new people from all over the world. I figured I could only communicate among the North American people, but that wasn't the case. When we introduced ourselves in a group activity, there

was this bondage among us all. There was this connection among us, not because we are all of Okinawa descent but because of a simple attraction. As we progressed through the Junior Study Tour, this connection grew stronger and eventually became a fond memory that all of us will never forget. The Junior Study Tour allowed us to experience something that we would cherish forever and hopefully made use for the greater good of our communities.

All of us became so close to each other that at times it reached to a point where emotional feelings were exchanged. There was the good and the bad, the funny and the stern, and the happy and the sad. All types of emotions were flying where ever you went, but that's how people learn to understand each other and grow into relationships. I was one of many in the Junior Study Tour to exchange these types of emotions with one another. I took full advantage of this opportunity and created relationships with all of the students.

The events that we did in the Junior Study Tour were astonishing. Every day we all did something together as a group that we would never forget. There were times where we studied, and there were times where we played, but no matter what we did we had fun doing it together. But the most important thing was what we benefited from those events. For me, there wasn't just one thing I benefited from; I gained friendship, culture acknowledgement, and responsibility.

As the days progressed during the Junior Study Tour, I began to realize who I really am. Throughout thirteen years of my life I have been missing out on Okinawa. I haven't been back to Okinawa since I was four years old and since then, I have been living the American life without much influence of Okinawa. I do Eisa and Karate, but how much can you learn of Okinawa tradition from it? I never knew the true meaning of Eisa and Karate until I came back to Okinawa. There, I studied with my family and friends on the historical aspect of Eisa and Karate. Not only did I learn the history of Eisa and Karate, but also the history of my ancestors and traditions of Okinawa. The Junior Study Tour enabled me to analyze these types of historical aspects by direct observation and hand to hand analysis.

The Junior Study Tour allowed us to see the "real" side of Okinawa. Our tour went on two nature studies; The Ocean Expo Park and the Great Hiji Falls. There we were able to study the natural world of Okinawa, both from the aquatic and mountainous aspects. We learn of many species that are known in Okinawa and learned of their inhabitants. We also learned the history and cultural aspects of Okinawa by visiting the Shuri-jo Castle and the Okinawa Prefectural Museum and Art Museum. There we learned of

the ancient times of Okinawa and its civilization. But the most intriguing study for me was learning about World War II at the Peace Memorial Museum. There I was able to look back at the origins of my family through the Cornerstone of Peace. Last but not least, I was also able to learn the social life of Okinawa by visiting Kokusai-dori Street and the Machigua Market place. I learned a lot of from that tour because I was able to experience the authenticity and purity of Okinawa.

When it came to the end of The Junior Study Tour, it was really emotional for all of us. The Sayonara party was "OH SUGOI!" according to a friend of mine. This was the best party I have ever been to, no doubt-hands down. We all knew that time was up; we all had to go back home. That was the hardest thing to deal with knowing that I made great new friends from all over the world and then all of a sudden I have to say good bye. That was hard, but I have to look at it in a positive way; I made new friends from all over the world and learned many new things from this trip to Okinawa. I was one of the fortunate ones to have this great opportunity.

Finally, the most important thing came from this Junior Study Tour is the opportunity to network with participants from all over the world and building the future of Okinawa by working together to promote Okinawa history, culture, and "Chimugukuru" throughout the world. I have been communicating with participants throughout the world ever since I returned home. We encourage each other to build the better future of Okinawa.



山城 清光昭 ブレット

YAMASHIRO BRETT ALEXANDER

16歳 4世

カナダ Canada

カルガリーオキナワクラブ



ジュニアスタディーツアー 2008

今年初め父から「世界中の沖縄の若者達が沖縄に集い、その伝統と文化を学ぶというプロジェクトに参加したくないか」と聞かれました。

当初私は余り乗り気ではありませんでした。それは英語が話せる参加者が少ないだろうと思ったからです。しかしその後これは一生に一度のチャンスだと思い直し、参加することに決めました。

空港内の煩雑さや混雑をすり抜けるのに苦労したものの、沖縄に到着した後は全ての心配事は消えてしまいました。素晴らしい海の香りに心が洗われた気がしました。肌に張り付くような湿気の高い空気が、自分が以前ここに来たのは何時だったろうかと考えさせました。長時間にわたる、つらい飛行機での移動に耐えた甲斐がありました。空港でスタッフや運営の係りの方々に温かく出迎えて頂けるとは思っていませんでした。

初日は非常に興味深いものでした。最初は少し緊張気味でした。というのも、おそらく英語が話せる人が余り無く、周りの人と親しくなるのが難しいだろうと予想していたからです。しかし驚いたことに、それぞれの学校で英語が必修となっているおかげで、殆どの人達が英語を話すことが出来ました。様々な言語の単語を学んだり、それぞれの言語で名前や出身国等を答えてもらうゲームをしたりしました。その他に以前のジュニアスタディーツアーの人たちがエイサーを踊るところを撮ったものを観賞しました。その時私はいずれその踊りを自分たちも学ぶのだと知っており、素晴らしいことだと思いました。その他にはジェスチャーのようなゲームもしました。これは言葉が必要ではないので、大いに楽しみました。

その後我々はマカレーナダンスや他のダンスをしました。これらのダンスは私自身は知らなかったのですが、今回の旅行を通して何度も踊る機会があって、すぐに覚えてしまいました。初日は本当に素晴らしいものでした。多くの素晴らしい人達と出会い本当に楽しい一日でした。夜ベッドに入って考えたのは、「最初の日だけでこんなに楽しかったということは、今回の旅行は本当に素晴らしいものになるだろう！」とい

うことでした。

沖縄県庁に行った時には私はとても心配でした。それは知事さんの前でスピーチをしなければならないからでしたが、最終的には非常に上手く出来ました。その後、前から楽しみにしていた「沖縄美ら海水族館」へ向かいました。バスの中では皆でカラオケをして楽しんだお陰でバスでの移動がずっと短く感じました。またバスの中では前日に会うことが無かった人達とも話をする事が出来ました。水族館には驚きました。世界で一番大きい水族館であると聞かされていましたが、確かに私が知っている中では最も大きいものでした。言葉の障害はあるものの大勢の生徒達と出会い、彼らと仲良くなる事が出来ました。エメラルドビーチへ行った時は、ものすごい暑さでした。水に飛び込み暑さを凌ぐことが出来たのはよかったです。バレーボールもしました。ボールを落とさないように力を合わせなければならないこのゲームのお陰で、皆が本当に仲良くなれたと思います。タニユーホテルに到着後夕食をとりました。食事の間、友達から日本の食事でのマナーを教えてもらいました。例えば、お箸を使っていない時は何処に置くかとか、食事の前には「いただきます」ということ、そして食事が済んだら「ごちそうさま」という事等です。

山登りでは驚きの連続でした。良い運動になったのはもちろんですが、沖縄の素晴らしい美しさに触れることが出来、そして学ぶことが出来ました。汗にまみれて歩くこと一時間半、やっと比地大滝にたどり着きました。驚くような滝で、冷たい水に飛び込んで火照った体を冷やすことが出来ました。色々な思い出の中でも最も記憶に残る思い出は、キャンプファイヤーです。キャンプファイヤーの夜は数々の楽しいゲームとダンスで盛り上がりました。首里城へも行きました。素晴らしいものでした。また私達は沖縄平和祈念公園も訪れました。歴史に興味のある私にとって大変良い経験をしました。沖縄にこれほど多くの興味深い施設や場所があるとは思いませんでした。

今回の経験は一生の思い出となることでしょう。たくさんの方々が出来、多くの事を見たり経験したりしました。沖縄の人達が第二次大戦中に祖国のために戦ったことや、世界中のどの国の人達よりも長生きで、

ゆったりとそして他の人を思いやる暮らしを続けていることに本当に驚きました。

私は沖縄生まれでも沖縄育ちでもありませんが、ここが自分の祖国であり自分が本当に沖縄県民であると確信し、そして何よりそのことを誇りに思っています。我々に続く世代の人達も、私と同じ思いを持つと確信いたします。

残念ながらこの楽しい旅を終える時が来ました。最終日、私達は教えてもらったエイサーを踊り、挨拶をし、修了証をいただきました。最後は歌と踊りで終わりました。皆誰もが感動し涙を流しました。私達はあっという間に仲良くなり、お互いを家族のように感じていました。もう二度と会うことが無いかもしれないと思うと、お別れをいうのが本当に辛く、皆の事を決して忘れないだろうと思いました。

ジュニアスタディーツアーでの思い出は、今でも昨日のこのようにはっきりと心に残っています。私の人生で最高の一週間でした。この素晴らしい旅の思い出は、たとえ一部でも決して忘れることは無いでしょう。近い将来、私が祖国と思うようになったこの美しい島を再び訪れることでしょう。

最後に2008年ジュニアスタディーツアーに参加する機会を与えて下さった沖縄県に、そして人生最高の経験をさせて下さった皆様に、心よりお礼申し上げます。このような機会を得たことは、本当に素晴らしいことですが、世界中の生徒達と共に体験出来たということで、より一層素晴らしい経験となりました。

Junior Study Tour 2008

Early on in the year, my dad asked me if I wanted to participate in this program where Okinawan youths from around the world travel to Okinawa to learn about their heritage and cultural background. At first I was hesitant about applying since I thought that there would be very few students that spoke English, but I then realized that this is a once in a life opportunity, so I applied.

Going through the confusing and busy airports was quite a hassle, but once I arrived in Okinawa all of my worries just drifted away. The clean, crisp smell of the endless ocean cleansed my soul. The immense amount of moisture in the air that stuck to my skin reminded me of how long it had been since I had last been there. The long, agonizing plane ride was definitely worth it. I had no idea the tour organizers and staff were going to greet us at the airport when we arrived. I felt very welcomed.

Day one posed to be an interesting day. I was feeling a bit nervous at first as I pondered the thought that nobody would be able to speak English, so making friends would be a challenge. To my surprise, almost all of the people

could speak a little bit of English thanks to it being taught as a subject at school. We learned how to say some words in all of the other languages and then played a game where we had to ask people their names, countries, etc. in their language. We also watched previous Junior Study Students perform Eisa dancing, which I thought was pretty cool, considering the fact that we were going to learn how to do it. We also played a game that was like charades, which was great since language was not a problem! Then we did the Macarena and some other dance that I did not know, but learned really fast since we ended up doing both dances numerous times throughout the trip. The first day was great! I met a lot of nice people and had so much fun. As I lay in my bed at night, I thought that if this was just the first day, then the rest of the tour is going to be awesome!

At the Okinawan Prefectural building, I was extremely anxious about the speech that I had to do for the Governor, but in the end it went pretty well. After that we headed off to the Chraumi Aquarium, which I was looking very forward to. Everyone sang karaoke on the bus as well which made the bus ride feel a lot shorter than it actually was. I also struck up conversations with some people I had not met on the previous day on the bus. The aquarium was amazing! I had heard that it was the largest one in the world! It was definitely the biggest aquarium I had ever seen! I met a ton of new students and started to really get to know some of them, despite the language barrier. It was scorching hot when we arrived at Emerald Beach. It was very nice to jump in the water and cool down. We played volleyball, which I think brought everyone closer together as you have to work together to keep the ball in the air. When we arrived at the Tanyuu Hotel, we had dinner. During dinner I had learned some Japanese etiquette from some of my friends, such as what to do with chopsticks when you are not using them, saying "itadakimasu" before eating and "gochisosama" after finishing a meal.

The mountain hike was so amazing. Not only was it great exercise but I got to see the vast beauty of Okinawa and learn a lot about it. After the sweaty hour and a half hike, we finally arrived at Great Hiji Falls. It was an amazing waterfall and we could jump in the water and cool off a bit. One of the most, if not the most memorable experience, was the campfire. The night of the campfire was full of fun and games, as well as more dancing. We also went to Shuri-jo Castle which I thought was also very cool. We also visited the Okinawa Prefectural Peace Memorial Museum. I really enjoyed the Museum as I like learning about history. I never knew that there were so many interesting places to visit in Okinawa!

I know that I will remember this trip for the rest of my

life. I made many great friends and saw and experienced many wonderful things. I thought it was amazing how the Okinawan people fought for their land in World War II, how they live longer than any other people around the world, and how laid back and kind everyone is. Even though I was not born or raised in Okinawa, I feel that it is my homeland and that I truly am Okinawan and am extremely proud of it. I am confident that the generations to come will share the same knowledge as I.

Unfortunately, everything has to come to an end sometime. On the last day we performed the Eisa dance that we learned in the last few days, did a speech and received a graduation certificate. It ended with dancing and singing. Everyone was emotional and started to tear up. We had all bonded so quickly and were like family. It was very hard to say good bye to everyone, as this may have been the last time I would see, but never forget them.

All of the great memories from the Junior Study Tour are still as clear as if they just happened yesterday. Those were definitely the best week of my entire life! I do not think that I will ever forget a second of this amazing journey. Sometime soon I will return to this island of beauty that I now consider my homeland. I would like to sincerely thank the Okinawan Government for allowing me to participate in the 2008 Junior Study Tour, and everyone else that contributed to this once in a life time experience. To have this opportunity was phenomenal and being able to share it with students from around the world made it even better!



福里 友理

YURI FUKUZATO

15歳 2世

マレーシア the Federation of Malaya

マレーシア沖縄会



ジュニアスタディーツアー

「どうしよう。みんなと友達になれるかな？」ジュニアスタディーツアー参加が決まってから、毎日毎日が不安で一杯でした。そんな毎日が何日も過ぎ、ついに沖縄に行く日がやって来ました。飛行機の中、私は一睡も出来ず、不安と同時にワクワク気分でした。

ホームステイの日もあっという間に過ぎ、いよいよドキドキのツアー初日が始まりました。周りにはいろんな人がいて、どう馴染めばいいのか分かりませんでした。でも、周りの皆から優しく声をかけてくれたりし、だんだんと話も出来るようになりました。そして皆とゲームや、ダンスをしているうちに、今までの緊張感がどこかへ消えていきました。

2日目から本格的にツアーが始まりました。県庁、美ら海水族館、そしてエメラルドビーチへ行きました。美ら海水族館では、初めて見る魚や生き物がいっぱい、びっくりしました。そして、改めて沖縄の海の美しさを知りました。

3日目、ツアーの中で、最も楽しみにしていたトレッキングの日でした。美しい植物、滝、そして橋の上から見た景色は、今でも忘れられません。沖縄の自然もやっぱり美しいなと改めて思いました。そして、その日の夜に、楽しみにしていたキャンプファイヤーをしました。それぞれのチームでゲームもし、皆とより深い絆が芽生えたと思います。

4日目、沖縄で有名な観光地、首里城へ行きました。実際に見た首里城は、本などで見る首里城ではなく、ものすごく美しく迫力があって、とても魅力的でした。県立博物館にも行きました。そして、その日の夜から3日間、エイサーの練習が始まりました。もともとエイサーに興味はありましたが、踊った事は一度もなかったのが、最初はとても難しく3日間でマスター出来るかどうか心配でした。しかし、練習していくうちに段々と踊れるようになり、最後まで踊れた時の気持ちは、最高に嬉しかったです。

5日目は平和祈念資料館、ひめゆりの塔、そしてボランティアの先輩達と平和通りへ行きました。平和祈念資料館での初めて聞く戦争体験談は、思ったより

も自分にとって大きく、ショックを受けました。正直、戦争の事などについて、考えたこともなく、自分には関係ない事だとずっと思っていました。でも資料館を見学したり話を聞いていくにつれ、戦争そして平和について深く考えさせられました。それから先輩達と商店街、市場通りを歩いていたら、沖縄の人々達の温かさにとっても癒されました。誰とでもフレンドリーな沖縄の人々は、すごいなーと思いました。

6日目、皆で沖縄と世界のウチナーンチュの心について考えました。ゲームをしながら、沖縄移民の歴史を学び、ワークショップもやりました。

そして、7月28日、7日目。とうとうツアー最後の日になりました。学習成果発表をし、さよならパーティーが行われました。正直なところ、ここまで良い出会い、そして思い出が出来るとは思ってもいなかったです。このツアーのおかげで、沖縄をはじめ、世界の事について、もっと知りたいと思えるようになりました。

長かったようで短かったこの一週間で学んだことは、私にとって、かけがえのない宝物で、一生忘れる事はないでしょう。そして、この一週間は私にとって将来、役に立ついい経験になると思います。今後、ジュニアスタディーツアーで知り合った友達とは、メールで連絡を取り合い、いつかまた、沖縄に行く時に再会出来たらいいなと思っています。皆は私にとって、かけがえのない一生の友達です。皆さん、本当にありがとうございました。

ジュニアスタディーツアー万歳！



ヴォニティシ ゼノキ モルガン ファビエラ テレーズ

VONITIHSI-ZENOKI MORGANE FABIELLA THERESE

19歳 4世

ニューカレドニア Nouvelle-Caledonie

ニューカレドニア沖縄日系人会



ジュニアスタディーツアーの感想

沖縄はニューカレドニアに大変よく似ているところ
です。それは景色や自然においてです。でも異なる点
もいくつかあります。カレドニアの西海岸では牛や鹿
の放牧、海老の養殖が見られ、夏はとても暑いです。
一方で私たちの住んでいる東海岸では農業、花の栽培、
漁業を営んでおり、とても涼しいです。カレドニアは
訪れてみるべき素晴らしいところです。

ニューカレドニアの首都は南にあり、ヌメアと言
います。北部のポアンディミエから300kmです。ポ
アンディミエは私の村で東海岸にあります。私はネヴァ
ホという山あいでも暮らしており、ジャンピエールや
セラも同じです。その山あいの村で私たちはみんな日
本の子孫です。曾祖母も叔父、叔母等も日系人です。
混血も多く、ちなみに私の祖父は日本人子孫ですが、
祖母は白人のメラネシア人でした。

私の旅行は本当にいい経験でした。なぜなら今まで
旅行したことがなかったからです。飛行時間がとても
長くて、帰りはもっとひどかった！それを除けば私は
この旅行が大好きでした。旅行によって素敵な人や、
沖縄の家族とも知り合うことができました。親切で、
丁寧で、礼儀正しく、もてなしの心を持った人、ミゲ
ールさん、三木さん、友視さん、喜美枝さんみたいな
人たちです。彼らの歓迎、寛大さ、親切さにとても驚
きました。

研修の期間、私はみんなに対して心を開くことが
できました。というのは私はどちらかといえば内気だ
からです。私は英語とフランス語が話せて、日本語は
話せませんが、友視さんと喜美枝さんの助けを借りて、
フランス語に訳してもらいました。彼女たちに感謝し
ています。

私は素晴らしいものをたくさん見ました。美ら海水
族館、そこで巨大な魚、サメ、イセエビ、イカなど
を見て、びっくりしました。それとイルカショーが気
に入りました。

私の家族が日系人なので、日本の歴史は非常に興
味深かったです。城を見学したり、その歴史を知るの
も初めてでした。建物は壮大で高かったです。沖縄県
立博物館は楽しかったです。沖縄のダンスはきれいで、

歌もまたよかったです。

私はいい友達ができました。彼らを忘れることはな
いでしょう。戦争を生き延びた男性の話に心が熱くな
りました。彼の話に関心を持ちました。私は私たち(参
加者)の間の雰囲気が好きで、私にとっては家族のよ
うでした。ゲームやホテルタニューのキャンプ・ファ
イヤーも楽しくて、面白かったです。

この小さな旅行は本当によかったです。私は参加者
との連絡をきちんと続けていくつもりです。こんなふ
うにまた出かけるか、そうでなければ皆がニューカレ
ドニアに来るかして、いつかまた彼らと会いたいです。
この旅を決して忘れないでしょう。あまりにもすばら
しかったからです。家族や素晴らしい人に出会うこと
ができて、とてもうれしかったです。

今回の旅行を企画したすべての人、また私の面倒を
みてくれたすべての人に感謝したいです。私はあなた
を忘れません。あなたはずっと私の心と記憶に残るで
しょう。あなたはニューカレドニアでいつでも歓迎さ
れます。

Mon voyage a été une très bonne expérience, car je n'
avais jamais voyagé de ma vie. Ça a été trop long le vol et
encore pire le retour ! Sinon, j'ai bien aimé ce voyage. Il m'
a permis de connaître des personnes importantes et aussi
de connaître de la famille à Okinawa. Des personnes qui
sont gentilles, respectueuses, polies et accueillantes comme
Mr. Miguel, Miki, Tomomi, Kimié, etc... L'accueil de ces
personnes m'a beaucoup surpris ainsi que leur générosité et
leur gentillesse.

Pendant cette période de stage, j'ai pu être ouverte
envers des gens, car je suis plutôt timide. Malgré que je
ne parlais pas japonais, je parlais anglais et français mais
heureusement pour me traduire les paroles en français j'
avais l'aide de Tomomi et de Kimie que je remercie
beaucoup.

J'ai vu beaucoup de choses magnifiques. L'aquarium,
c'était surprenant de voir des gros poissons, requins,
des langoustes, calmars, etc... Et j'ai beaucoup aimé le
spectacle des dauphins.

L'histoire japonaise était très très intéressante, à cause de la famille, les générations. C'est aussi la première fois que je vais visiter un château et connaître son histoire. Les monuments sont magnifiques et très hauts. Le musée est très sympa. L'histoire du monsieur qui a vécu pendant la guerre m'a fait très chaud au coeur. Les danses d'Okinawa sont très belles à voir et aussi les chansons qui sont très bien à écouter.

Je me suis fait de très bonnes amies que je ne vais jamais oublier. J'ai bien aimé l'ambiance entre nous tous, on dirait une famille pour moi. Les jeux étaient très sympas et amusants comme les feux de camps ainsi que la petite fête à l'hôtel Tanyuu.

Trop trop bien ce petit voyage parmi vous et bien sûr je compte bien continuer à communiquer avec les participants. J'espère un jour les revoir, soit en repartant parmi vous, ou alors si vous venez en Nouvelle-Calédonie. Ce voyage je ne pourrais jamais l'oublier car il était trop excellent. J'ai été très heureuse de voir de la famille et connaître des personnes importantes.

Je voudrais remercier toutes les personnes qui ont organisé ce voyage et aussi ceux qui se sont occupés de moi. Je ne pourrais pas vous oublier. Vous resterez toujours dans mon cœur et ma mémoire. Vous serez toujours les bienvenus en Nouvelle-Calédonie. A bientôt, Morgane.

宮里 明衣子

MEIKO MIYAZATO

伊江中学校 2年



ジュニアスタディツアーを通して

私はジュニアスタディツアーを通してたくさん
のことを学んだと共に、最高の思い出と仲間を作ることができ

ました。

私がこのツアーに応募した理由は、海外からの参加者と触れ合いながら、私自身が生まれ育った沖縄や他のいろいろな国の歴史や文化について学んでみたいと思ったからです。

ツアーの合格通知が届いたときはとっても嬉しくて、家族や先生方も一緒になって喜んでくれました。ツアー初日は不安と緊張の中、オリエンテーションに参加したのを今でも覚えています。海外参加者も日本人そっくりで、日本語も上手なのでとても驚きました。交流していくと、みんなとっても優しく、いい人で安心しました。ツアーの中には嫌なことなど一つもなく、何もかもが新鮮で、とても楽しく充実した日々を過ごすことができました。

自然学習の水族館見学やトレッキングは私に、みんなと仲良くなる時間を与えてくれました。そのおかげで私は、たくさんの人と友好を深めることができました。そして歴史学習や平和学習、社会学習は私に、沖縄について学ぶ時間を与えてくれました。どの学習も欠かすことのできない、とても素晴らしい時間を私に与えてくれました。

私はこのツアーを通して、気持ちの大切さに気付かされました。何をやるにも一番大切なのは気持ちで、気持ちがあれば自分が伝えたいことを相手に伝えることもできるし、夢実現に少しでも有利になると思います。そして私は人の温かさを実感することもできました。このツアーの参加者はみんな、優しくとても素晴らしい人達ばかりでした。そんな人達から私は、相手の立場になって考えること、相手を思いやるということを学ぶことができました。いろいろな意味で私は、このツアーのおかげで成長できたと思います。

私はこのツアーに参加する機会を与えてくれた家族、学校の先生方にとっても感謝しています。それと同時に、こんなにも素晴らしく、貴重な体験をさせてくださったスタッフ、ボランティアのみなさん、参加者全員には言葉で現すことができないくらい感謝しています。ありがとうございました。

これからもジュニアスタディ8期生ということで沖縄からの参加者、海外からの参加者みんなと連絡を取り合ってずっとずっと交流していきたいと思っています。いつか機会があれば、またみんなと会えたらいいです。そして私は、ボランティアとしてまたジュニアスタディツアーに参加したいです。

約一週間でこの夏の一番の思い出をつくることができました。このツアーで学んだことを一生忘れず、将来に生かしていきたいです。本当にありがとうございました。

下門 楓

KAEDE SHIMOJO

潮平中学校 1年



ジュニアスタディーツアー

私は、7月22日から7月26日までの一週間JSTに参加させてもらいました!

私は緊張と期待を胸にJST当日を迎えました。JSTには、中学生～高校生の人まで参加しており、私は中学生4人の中の1人として参加しました。

22日カンポレクセンターで説明会が先にあって沢山の人が出て、私は皆日本人だと思って席につき書類に目を通してみると、会場にいる半分の方々が日系人と言う事が分かり、ビックリしました!私は緊張しながらも、何人かに話をかけてみたら皆優しく接してくれて、1番ビックリした事は日系人の皆さんが私より日本語が丁寧で上手でした。皆優しく、もっと皆の事が知りたくなり、不安や緊張がいつの間にか消えていました...

1日目スタートとしてレクや語学会話などをして楽しみました。

私は沢山の友達を作る事ができ、お風呂に入る時や食事をする時、色々な事を参加者とやりました!

滝に登り滑ったり、夜の就寝時間になると朝まで自国の事について教えあったり、私は少し言葉が通じなかった時は大きいジェスチャーをしたり単語を並べて伝えあいました。分かってくれた時が一番嬉しかったです。

沖縄の伝統芸能エイサー講習もしました。私はブラジル日系人のタミやカーレンなどに教えてもらいました。同じ日本人じゃない人達から、温かい優しさをもらい、この大きな経験を生かし、これからの日本と外国の架け橋、交流機会に携わる人材になりたいです。

私は今、日系人の友達を学校や周りの人に自慢出来ます。今MAILや手紙をしていて交流をし続けています。私が20才になったら会いに行く約束をしました。日系人参加者は、私に「今度は私達の国をあなたに紹介したいから、ぜひ私の所に会いに来てください」と言われました。国が違って心を通じ合える日系人が素晴らしく思います。私も将来日本と外国の架け橋になりたいと思いました。

このJSTに参加した人々は私にとってかけがえのない家族です。これからも連絡取り合いたいです。

福里 那央

NAO FUKUZATO

高江洲中学校2年



ジュニアスタディーツアーを終えて

僕は、このジュニアスタディーツアーに参加出来てよかったです。何故かと言うと、海外のウチナーンチュの

人達と交流出来たからです。

海外のウチナーンチュの人達からいろいろな事を教えてもらいました。

例えば、その国々の言葉や、観光地、それと、その国々の良いところや、悪いところなどいろんなことを教えてもらいました。

そこで、僕も海外のウチナーンチュの人達に、いろいろな事を教えました。例えば海外のウチナーンチュの人達でも知らない言葉や、沖縄の面白い所など、いろんなところを教えました。

それから、一緒に沖縄のいろいろなところに、行きました。例えば、美ら海水族館や、平和祈念資料館や、比地大滝や、首里城などのいろいろな所を海外のウチナーンチュの人達と観光しました。

その観光地でも、いろいろなことや、沖縄のかこのいろいろな出来事を学びました。

豊里 源

GEN TOYOZATO

那覇中学校 1年



ジュニアスタディーツアーを終えて

ジュニアスタディーツアーを終えて、僕が最初を感じたことは、本当に楽しかったということです。

僕はこれまで、いろんな研修をしてきましたが、このジュニアスタディーツアーが今までで一番面白く、勉強になりました。

最初はみんな、母国同士で固まって交流の様子が見えませんでした。アイスブレイキングのゲームでやったイスとりゲームやジャンケン列車などでみんなの緊張が和らげられ、だんだんとそれぞれ話をするようになってきました。

僕は最初、英語だけをわかっていけばいいかなと思っていたのですが、キューバ・ブラジル・ニューカレドニア・アルゼンチンなど世界の色々な国からきて、色々な母国語を話しているのを見て、この一週間やっていけるんだろうか、どうやって自分の気持ちを伝えていけばいいのんだろうかなど急に深く考えてしまいました。

まず、カナダやアメリカから来たブレッドやアレックスにちょっとだけ英語で話してみました。すると、それに答えて僕と会話してくれたのです。そのおかげで、会話している最中、英語がわからない質問などがあつたらジェスチャーで伝えたり、通訳の人に聞いて自分で言ったり、楽しく会話が出来ました。

2日目にもなると、みんな仲良くなり母国同士固まらなくなりました。そして、1日目にもらったジュニアスタディーツアーのTシャツを着て県庁に行きました。

3日目・4日目は名護に泊まり、美ら海水族館やビーチ、滝で遊んだりなどとても楽しいひとときを過ごせました。最後の日の学習成果発表会では、ジュニアスタディーツアーで感じたことを一分間スピーチにしたり、と～し～にい～にいから教えてもらったエイサーの「ミルクムナリ」を8期生全員で披露したりなど家族の皆さんに見せました。

このジュニアスタディーツアーで学んだことは、気持ちは言葉だけではなく、心で伝えることもできるということ。あと、言葉では言い表せないたくさんの何かを得ることが出来ました。

今後、このジュニアスタディーツアーで学んだこと、得たことを高校や交流会、そして将来へと役立てていきたいです。最後に、影で僕たちの事をサポートして下さった勝連さんや恵さんやけいこさんなどスタッフの皆さん、6期生・7期生の卒業生のボランティアの皆さん、本当にありがとうございました。来年は、ボランティアとして合う形になると思いますので、その時はよろしくお願いします。

豊永 優姫

YUKI TOYONAGA

コザ高等学校 2年



ジュニアスタディーツアーに参加して

私がジュニアスタディーツアーに参加しようと思ったきっかけは、沖縄に住んでいるのに沖縄のことを勉強する

機会が少ないと思ったことと、海外から来る県系人の人達と交流をもちたいと思ったことです。

7日間のツアーのプログラムでは、沖縄の文化、歴史、自然にふれて有意義な一週間を過ごすことができました。

1日目のかんぼレクセンターでのウェルカムパーティーでは空手、琉舞、リコーダーなどが披露されてみんなで楽しむことができました。

2日目は県庁に行ったり、ビーチに行きみんなでバレーをしたことが印象に残っています。3日目は楽しみにしていたキャンプファイヤーが行われました。ゲームをしてダンスをして一番盛り上がったと思います。サルサを教えてもらって一緒に踊り楽しく過ごしました。そして、ボランティアスタッフのみなさんのおかげでとても楽しいキャンプファイヤーになりました。

4日目は首里城に行きその後、みんなおそろいの琉球漆器を作りました!この日からはエイサー練習が始まりました。

5日目に行った平和祈念資料館での平和学習は、改めて平和の大切さが分かりました。体験者の話は戦争の悲惨さが伝わり衝撃的で悲しくなりました。

6日目は移民の講話を聞きました。私は移民についてなんとなくでしか分かりませんでした。しかし、講話を聞き、沖縄には仕事がなく貧しかったため海外に出稼ぎに行くために移民が起こったという事実をしりました。ワークショップでは沖縄の事を紹介することができ、海外の色々な場所などを知ることができました。

最後に全員でさよならパーティーをしました。3日間みんなで一生懸命練習した「ミルクムナリ」をを発表したことが印象に残っています。そして、色々な出し物で楽しみました!最後には全員舞台の上に上がり、ダンスで盛り上がった後、みんなで肩を組み島んちゆぬ宝を歌った時は本当に感動的で涙が出ました。海外参加者、県内参加者ともアドレスを交換したので、今後はメールなどで連絡を取り合おうと思います!

長いようで短かったこの一週間、とても充実して過ごすことができました。学校では勉強できないような事もたくさん学べました。海外の友達もできました!このツアーで沖縄だけでなく世界に目を向けることで私の視野も変わったような気がします。なにより、ジュニアスタディーツアーで最高の思い出と仲間ができました!!

最後に私をこのツアーに参加させていただき本当にありがとうございました。ジュニアスタディーツアーに関わったすべての人達に感謝の気持ちでいっぱいです。

新垣 美樹

MIKI ARAKAKI

開邦高等学校 2年



ジュニアスタディーツアー

高校生最後の夏、私はジュニアスタディーツアーという素晴らしい体験をしました。

スタディーツアーの存在を知ってから2年。ずっと待ち続けていた夏でした。

7月22日。いよいよツアーが始まりました。オリエンテーションでの皆の表情はとても堅かったのを覚えています。今まで聞いたことも無い言葉があちらこちらで飛び交っていて、とても不安でした。だけど、私達が仲良くなるのにそんなに時間はかかりませんでした。ウェルカムパーティーから始まり、海水浴、トレッキング、エイサー練習・・・そしてなによりも、グループ対抗ゲームから始まり、サルサで終わるまで、ずっと笑っぱなしだったキャンプファイヤー。言葉の違いも気にならずに毎日が笑顔であふれていました。

海外の子達は、最初は文化の違いで戸惑う事が多かったようですが、徐々に慣れていったようで、一週間はあっという間に過ぎていきました。

そして迎えたさよならパーティー。この日だけは絶対に来てほしくありませんでした。ダンスやエイサー、ピアノなど様々な出し物、みんなで踊ったエイサー。これでもう終わりなのだと思うととても残念でした。でも、また絶対会えるという確信があったので不思議と悲しくはありませんでした。

私達はまたきっとどこかで再会します。

私がこのツアーに参加して実感した事、それは「私は沖縄をよく知らない」という事です。今まで私は、住んでいるのだから、沖縄のことは当然知っているものだと思い込んでいました。しかし、私は首里城正殿の両脇に立っている龍が沖縄独特のものだという事も知らなかったし、また沖縄の文化であるエイサーを踊るのも小学生以来でした。

それに比べ、海外からやってきた子ども達は沖縄の事をよく知っていました。国紹介で、県人会を通してさまざまな事を学んでおり、エイサーも練習している事などを知りました。沖縄にいる私達より沖縄の事を大事にし、沖縄人精神を保ち続けているのです。

もうひとつ、このツアーを通して改めて分かったことがあります。それは、「気持ちを伝えるのに言葉は関係ない」という事です。このツアーでは私が高校で勉強している文法、語句・・・そんなものは一切必要ありませんでした。心を込めて、伝えたいと思ったら簡単な単語だけで会話が成り立ったのです。

この夏、私は一生忘れられない思い出と、かけがえのない仲間達を得る事が出来ました。

バスの中で歌った事

川の中を歩いた事

みんなでご飯を食べた事

キャンプファイヤーで手を取り合って踊った事

夜遅くまで騒いでしかられた事

共に将来の夢を語り合った事

絶対、ぜったい忘れない、忘れたくない私の宝物です。

世界中に友達が出来ました。広がった世界がぐっと縮まりました。この繋がりは切りたくありません。

沖縄で生まれ育った15人と海外で生まれ育った15人。お互い、文化、言葉が違うけれど私達の中には同じ沖縄の血が流れています。

同じ沖縄人なのです。

ジュニアスタディーツアーに参加した私達は沖縄と世界を結ぶ架け橋となることでしょう。

今後はEメールなどを通して交流を続けていきたいと思えます。

最後になりましたが、この素晴らしいツアーを企画してくださった沖縄県、山城さんそして勝連さん、太田さん、敬子さん、引率の方々、通訳の皆さん、ホテルの方々、ボランティアスタッフ・・・数え上げ切れないほどのの方々にお世話になりました。本当に、本当にありがとうございました。心から感謝しています。

小さな島の沖縄と広い世界。そんな全く違う環境で育った同世代の子ども達がここ、沖縄で繋がりをもち、とても素敵な事だと思います。これからもずっとこのツアーを続けてほしいです。

沖縄人でよかった。皆に会えて本当に良かった。

ありがとう。みんな大好きです。

酒井 知奈

CHINA SAKAI

那覇高等学校1年



ジュニアスタディーツアーに参加して

私が最初にこのツアーを知ったのは、学校の先生の紹介がきっかけでした。もともと、英語が好きでスキットコンテストなどの学校外のイベントに参加していた私に、参加すればきっとたくさんの方が学べて良い経験になるのではないかと勧めてくれたのです。しかし、ツアーに参加する以前の私は、直接海外の人と会話するといった経験がまったく無かったので、ちゃんと話すことができなくて仲良くなれなかったらどうしよう。などと不安をいただいていた。しかし、将来、国際関係の仕事に就きたいと考えていた私にとって、きっと大きな影響を与えてくれる、経験をしていて絶対に損はないものだと思います、思い切って参加しました。

しかしツアー当日、始めせつかくの話をする機会を目の前にしても緊張してしまっていて、自分の気持ちを伝えることができずにいました。けれど、ツアーで企画されていた交流プログラムやウェルカムパーティを通して少しずつ話をするのができていき、寝る前の部屋での時間では、緊張していたのもすっかり忘れてしまいうごく楽しいものとなっていて、一日目の終わりがとても短く感じました。

そして、二日目からは楽しみにしていた本格的なツアーが始まり、みんなとの絆を深めていくことができました。また、ツアーの中には県庁や博物館を訪れたり、琉球漆器を作ったりなど、私にとって初めての経験になるものもいくつかありとても良い思い出となりました。その中でも特にキャンプファイヤーは、以前からやってみたくてという憧れがあったことと、グループ対抗のゲームがすごく盛り上がったことで、とても忘れられないものとなりました。

そして、ツアーの四日目、私がこのツアーで最も楽しみにしていたエイサーの講習がいよいよ始まりました。エイサーが大好きな私は、この企画を通して県内参加者はもちろん海外参加者の人達にもエイサーの楽しさを知ってほしいと思っていました。ところが驚いたことに、海外参加者の中には私の憧れとしている琉球国祭り太鼓に所属している人もいて、もっと一緒に踊りたいという気持ちと、沖縄県の人として負けたくないという気持ちでいっぱいになって、毎晩の練習の時間は一日の中で一番といっていいほど楽しみな時間となりました。また、みんな自主練習に進んで参加したり、質問したりなどと一生懸命に取り組んでいる姿勢が見えたので、一緒に練習していてなんだか嬉しい気持ちになりました。その甲斐あって本番の学習成果発表会では、とても良い演舞を披露することができ、大成功におさめることができました。そして今、私はこのツアーがきっかけで偶然にも再び会うことができた国吉さんのサークルで四年ぶりにエイサーを始めています。

このように、このツアーではここでしか会うことができない人と出会うきっかけをくれて、その出会いの中で普段の生活では決して学ぶことのできないものを多く学ぶことができました。ここで出会うことのできた仲間は一週間で共にしたことで、私にとって家族のような存在になりました。そんな素晴らしい出会いをくれたこのツアーに参加して、自分を大きく成長させてくれた経験と、掛け替えのない仲間に出会うことができて本当に良かった！と思います。このツアーで過ごした一週間は、将来の私にとっての大きな財産となり、忘れることのない一生の思い出になることだと思います。

最後に、参加者の皆さん、スタッフの皆さん、掛け替えのない一週間でありがとうございます。

村田 ゆうこ

YUKO MURATA

那覇西高等学校1年



ジュニアスタディーツアー

沖縄に生まれているのにも関わらず、何一つ沖縄という本土とは異なった文化を持つこの島について知らな

かった私。

そんな私に沖縄について学べるチャンスが今年の夏、やって来たのです。

『ジュニアスタディーツアー』この事業を知ったのは、朝のホームルームで担任の先生が紹介していたからでした。気になってはいたものの、「部活が忙しい私には無理かもしれない」そんな考えに捕われ、結局気になっていた詳しい詳細も聞く事もせず、申し込む勇気も無いまま、時間だけが過ぎてゆきました。

しかし、「応募するだけはしてみよう」と思い、急いで必要事項を書き上げ、提出しました。そして当選した私に待っていたのは、沖縄在住のメンバーとの顔見合わせでした。

最初は性格の違いか、考え方の違いか馴れ合う事が出来なかったけれど、時間が経つにつれ、仲良くなったなと実感する事ができました。

そして、海外のメンバーと沖縄のメンバーで過ごした7日間は、ありきたりな言葉では表現できない程の想いがこもった7日間となりました。

あまりにも時間は早く、本当に別れは辛く感じたけれど、生きていればまた何処かで会える、そう思えば、彼らに笑顔で『さよなら』を言えました。

スタッフ、関係者の方々に沢山のありがとうを贈りたいです。最初は沖縄について知り学べると参加してみたら、それ以上の一人の人間として大切なことを学ぶ事が出来ました。

花城 亜紀子

AKIKO HANASHIRO

那覇西高等学校 1年



ありがとう

☆thank you☆gracias☆obligado☆merci

私の将来の夢はツアーコンダクターになることです。

ツアーコンダクターになるのは、沖縄の歴史や文化を知ること大切だし、相手の文化を知ることもちろん大切だと私は思っています。私は外国にもとても興味があり、英語もとても好きでした。そういう理由から、今回の企画に応募しました。一度、南風原町主催の国際交流ハワイ研修に応募したときは落ちたので、今回は本当に受かってればいいなと家族みんなで願っていました。だから、先生から合格通知をもらったときは、涙が出るほど本当にうれしかったです。

7月22日、いよいよこの日がやってきました。初の海外参加者との顔合わせの日です。私は日系の外国人の人たちを初めて見ました。私の最初の予想では、みんな普通の外人みたいな顔をしてるのかなと思っていたんですが、日本人っぽい顔をしていたのでビックリしました。しかも、県内参加者だと思って日本語で話しかけたら全く通じなく、おかしいなと思っていたら海外からの参加者だったという事もありました。そのくらい、私たち日本人と、彼ら日系人は変わりがないように感じました。

私の感覚としては、外人ってアメリカ人とかイギリス人のイメージしかなかったけど、実際に来ている参加者の中にはボリビアやペルー、ニューカレドニア、キューバから来ている人達もいて、世界って本当に広いんだなと思いました。私個人としては、ブラジルの多美や、阿弓、カーレンがとても親しみやすかったです。それも昔の、沖縄とブラジルの移民の歴史などと少しは関係があるのかなと思いました。アメリカからの参加者達も、会ったその日から、とてもノリノリで喋りやすかったです。私がみんなと喋っていくうちに思ったことは、それぞれの国によって性格とか考え方とか違うんだなということです。みんな住んでいるところがバラバラなので文化や環境が全く違うというのも当たり前のことなんだと思いました。そして、このことを通して、日本人の悪いところ、いいところがわかった気がしました。その日の夜、ウェルカムパーティーをしました。この時に、みんなと喋ってそして仲良くなるのが出来たので楽しく過ごすことが出来ました。いろんな国に興味を持ちました。

23日、私たちは名護の海に海水浴に行きました。そこではバレーボールや、ドッチボールをしたり、みんなで泳ぎました。楽しかったです。その後、名護のホテルタニューにいきました。標高が高くて耳が痛くなりました。アイスも普通なら50円のアイスが150円だったのでビックリでした。私はモルガンと同じ部屋でした。モルガンは日本語がしゃべれなかったけど、私の乏しい英語力でも通じたのでうれしかったです。それは、このツアーでとてもうれしかった出来事の一つです。英語がうまく話せなくてもどうにかして伝えようという気持ちが私にあれば、相手も必死に理解しようとしてくれて通じるんだなって思いました。英語がうまくしゃべれないからって消極的にならず、積極的にコミュニケーションをとるべきなんだと思いました。モルガンとはニューカレドニアの生活や、学校の様子、家族の話をしました。ニューカレドニアでは、日本の学校のバケーションとは全く異なっていて、春・夏・冬にそれぞれ長い期間の休みがあるのではなく、4ヶ月のまとまった休みを一気にとるような形式になってるそうです。詳しく聞くことは出来なかったのですが、それも何かその国の気候や文化に関係してるのかなって感じました。

24日、私は山登りをしました。その時一緒だったアルゼンチンのサユリとアメリカのアイちゃんも県内参加者の祥子と私で好きなアーティストの話をしました。そのとき、私はビックリしました。アルゼンチンでは日本の映画やドラマが放送されてるそうです。そのため、サユリは日本の俳優や歌手にとっても詳しくかったです。その話を聞いたとき、日本人がアメリカに憧れるように、世界各国からも日本は意外にも注目されてるのではないかなと感じました。日本人はもっと自分に国に誇りを持つべきだと実感しました。夜の交流プログラムではゲームなどをやって、もっと他のメンバーと仲良くなるのが出来て嬉しかったです。その後にやったキャンプファイヤーで国籍関係なくみんな楽しくダンスをすることができ、嬉しかったです。アルゼンチンの2人と、ロベルト、グローリアの4人を中心としたタンゴダンスは盛り上がり嬉しかったです。その時思ったことは、海外の人たちは自分の国の文化や歴史をちゃんと理解しているのと比べて、日本人は自国の文化などを知らなさすぎるのではないかなと思いました。県内参加者の中で、日本または沖縄の伝統芸能を、自信を持ってみんなの前で踊れる人なんていないような気がしました。キャンプファイヤーではゲームなどを通してみんなと仲良くなる事が出来て、本当にいい交流企画だったと思います。名護での2泊3日の企画はとても楽しかったです。

25日は、沖縄の歴史や文化を主に見学し学びました。私たちは沖縄に住んでいながら、沖縄の事を全然分から

なかったのに、とてもいい機会だったと思います。初めて琉球漆器も作って、沖縄の文化を肌で感じる事が出来ました。夜にエイサー講習がありました。最初は正直言って、面倒くさかったんですが、やってみると楽しくって自由時間の時にも先生に見てもらって、みんなで自主練習しました。さよならパーティーの本番に向けてみんな一生懸命頑張りました。その日はボリビアのリナとジャニーズの話をして盛り上がりました。本当にみんな日本が好きなんだなと思いました。

次の日も沖縄の歴史、戦争のことを学びました。前原さんは日系移民のことについて色々知っていてすごいなと思いました。その後のゲームで驚いたことは、海外参加者は自分の今住んでいる国では「自分は日本人だ」と答えるが、日本では「アメリカ人だ」と答える、という話にみんながうなずいていたことでした。その後の自国を自慢するワークショップの時では、みんなそれぞれ自分の国の自慢できる場所をはっきりと誇らしげに話していたので、それも日本人と違うところだなと実感しました。その夜にエイサーの最終練習がありました。最初はあんなにやりたくなかったのに、仕上がっていくうちに楽しくなったし、もうみんなでこうやって練習することもないんだなと考えると寂しくもなりました。

28日、修了式とさよならパーティーの日です。今まで練習してきたエイサーの発表も無事終わることができ、みんなで踊ったダンスもとても楽しかったです。その後に島人の宝を全員で歌っているときは、もうみんなが集まることもないんだなと考えるととても寂しくて泣いてしまいました。

私がこの企画に参加したのは最初、将来のためという理由ももちろんあったのですが、外人と喋りたいとか仲良くなりたいたいという単純な理由の方が強かったと思います。でも、こんなにいろんな事が学べると思わなかったし、いい思い出になるとも思いませんでした。みんなと話していて気づくことも多かったし、これからもっと英語を頑張ろうっていう強い気持ちも生まれてきました。だから、これからはこの経験を通してわかったことを活かして、自分の夢にむかって大きく前進していきたいです。

スタッフの皆さん、本当にたくさんすばらしい経験をさせていただいてありがとうございました。そしてみんなに出会えたことにとってもとても感謝しています。ありがとう。

玉那覇 祐利香

YURIKA TAMANAHA

西原高等学校 2年



最高！だったJunior Study Tour 2008

ハイタイ！私は、この「Junior Study Tour 2008」に参加することができて、本当に嬉しく思いました。でも、正直、私は「一週間は、ちょっと長いな」と思う気持ちを持ちながら、当日の7月22日を迎えました。

その日はとてもワクワクして、朝早くから準備を済ませ、どんな人達に出会えるのだろうか？どんな日々を過ごすのだろうか？みんなと仲良になれるかな？と、ドキドキ、ワクワクな心境でした。

オリエンテーションも始まり、気持ちも落ち着き始めましたが、いざ海外に住んでいる人たちと話すとなると、頭が真っ白になり、うまく話が出来ませんでした。しかし、それも徐々になくなり、下手な英語だけど、少しずつ話すことが出来ました。

また、私はCグループのリーダーでした。リーダーとしての役割をうまく果たすことが出来なかったけど、「リーダー、リーダー」といつでも協力してくれて、本当に嬉しかったです。Cグループのメンバーには、いつも支えてもらって本当に助かりました。ありがとうございました。Cグループのリーダーで、本当に良かったです。

キャンプファイヤーは、本当に盛り上がり楽しかったです。

6,7期の卒業生が計画してくれたゲーム。グループ対決で、見事！Cグループが1位になりました。最後に点火がありました。その時、感動したことを今でも覚えています。

火花が散って、色々大変だったけど、みんなで楽しく踊って1つになれた気がしました。6,7期の卒業生が色々計画してくれたり、ちゃんと進行もしてくれて、楽しいキャンプファイヤーになりました。感謝の気持ちでいっぱいでした。1日、1日がたくさんの思い出ばかりです。

楽しいことだけでなく、勉強の面でも色々思い出があります。

私はポルトガル語を初めて聞きました。発音がまず難しく、聞き取るのが大変でした。同じようにフランス語、スペイン語も難しかったです。

でも毎回「ありがとう」をそれぞれの言葉で言っていくうちに、英語が少し話せて少し聞き取れるように、ポルトガル語もフランス語もスペイン語も勉強したいなと思いました。英語も、授業で学んでいる事ではなく、英会話を学びたいと思いました。また、沖縄に住んでいながら、沖縄のことについて、まだまだ無知だと思いました。

海外に住んでいる人から、方言の事を質問され、答えられなかった自分がいました。情けないと思いました。まず、自国の事を知ってから、他国を知るべきだと思いました。それに、沖縄に住んでいるけど、まだ行ったことがない場所に、JST 8期メンバーの皆で行くことが出来て、とても楽しく良かったと思いました。

最後に、7月28日に行われた「さよならパーティ」は今でも忘れられません。私はまだ皆とのお別れに実感がなく、1分間スピーチも、エイサーも、皆で踊ったダンスも、いつものように楽しむことが出来ました。その後、6,7期生から8期生メンバーに贈る言葉をもらいました。その瞬間「皆とお別れなんだ」と実感しました。すると、自然に涙が溢れ出しました。

私は、ジュニアスタディーツアーに参加することが出来て本当に感謝しています。そのお陰で、私は皆と出会う事が出来ました。そして、たくさんの思い出が出来ました。

素晴らしい企画を考えてくださったスタッフの皆様にも、本当に感謝しています。

色々ご迷惑をかけてしまいましたが、サポートしてくださり、多くのスタッフの皆様感謝の気持ちでいっぱいです。エイサーのご指導もありがとうございました。また、通訳の皆さんも、質問などをたくさんの言葉に通訳して頂き、ありがとうございました。

6,7期生の皆さん。アドバイスを下さったり、楽しい企画をありがとうございました。そして、8期生メンバー。1週間、楽しい思い出をありがとう。みんなと出会えて本当に良かったです。

最初「1週間なんて、長い」と思っていたんですが、充実していてとても短く思いました。1週間は物足りなかったです。

これから先も皆とのつながりが途絶えないように、連絡は取り続けたいと思っています。色々報告しあえたらいいな、と思いました。

何度も言っていますが、Junior Study Tour 2008に参加出来て本当に良かったです。皆と出逢えることが出来て本当によかった。ありがとう。

皆さん、楽しい思い出をありがとう。また、皆と会える事を期待しています！！！！

ありがとうございました。(また是非参加したいです！！)

宜保 有樹

YUKI GIBO

中部農林高等学校 2年



ジュニアスタディーツアー

私は、このジュニアスタディーツアーへ参加する事ができて本当に良かったと思うし、ツアーでは県内のメン

バーだけではなく、海外の色々な国からの参加者がいたので言葉や文化の違いやノリの違いなどたくさんの刺激を受ける事ができて、私の今までの人生の中できっと一番濃い内容の一週間だったと思います。

美ら海水族館の見学や、海でのビーチバレー、首里城見学、他にもここでは言い表す事ができないくらいたくさんの思い出を作る事ができたのですが、その中でも私の中で特に印象に残っているのが「さよならパーティー」です。

一週間という本当に短い期間だったのに、最後にはみんなが別れを惜しんで泣く程のパーティーができたという事は本当に最高だったと思いました。

ここまで最高のツアーにする事ができたのは、私自身や誰か個人の力ではなかったと思います。まず私がどうしたらいいかわからない時にずっと支えてくれたリーダーのあいみ、ゆりか、みき、ゆうこに本当に感謝したいと思ったし、私達のために陰で支えてくれた勝連さん、太田さん、山城さん、そして、よしやを中心とするボランティアの皆さんにも感謝したいと思っています。

最後に、私はこのジュニアスタディーツアーに参加して本当に楽しかったし、海外の事も少しだけど知る事ができたし、そのおかげで海外の事についてもっと知りたい、もっと勉強したいと思うようになりました。また、みんなを引っ張る事や積極的にみんなに指示をだしたりする事で、人見知りな性格が変わる事ができたと思います。

このジュニアスタディーツアーで学んだ事、感じた事を自分自身にプラスに活かせるようにしたいと思ったし、このツアーを通して仲良くなれた友達とはずっと仲良くしていきたいなと思いました。

池村 愛美

AIMI IKEMURA

豊見城高等学校 1年



イチャリパチョーデー

私はJSTを通して沢山の事を学びました。そして沢山の仲間と出会いました。

最初はドキドキして…ちゃんと上手く話せるか心配だったけど、予想外に皆と話したり出来ました。

1日目はちょっと緊張しました。ウェルカムパーティーは、なおの空手凄かった!愛美ギター失敗しちゃったよ…でも2曲目はバッチリだ!!その後、あいちゃんもりーなもバッチリ盛り上がったね!!楽しかったね!夜は皆で遊んで気持ち良く眠れました。

そして、美ら海水族館でも沢山騒いで楽しんで、海でも鬼ごっこもビーチバレーも楽しかったね!その日の夜の温泉…最高だった!そして次の日は、山に登ったね。凄く楽しかったけどクモは本当に苦手で目に涙流れたよ…。皆で助け合いながら登って最後の滝は最高に楽しかったね!その後の温泉も最高だったよ。そして夜はキャンプファイアーで、最初はチーム対抗で凄く盛り上がったね!あの小麦粉は吐きそうだったよ。誰か隣から「ヴォォエ」って言った人!!本当に気持ちわかる。その後に、キャンプファイアーに火を点火してダンスしたり、心が1つになったね。あの時凄く嬉しかった。そしてその後からまたまた温泉でゆったり…。でもその日の夜は、頭の中は山登りの時のクモが浮かんで来てなかなか眠れませんでした。

そしてアツという間に4日目で、その日は私は沖縄に生まれたのに、行った事がなかった。首里城!初めてでドキドキしてました。赤と白のシマシマな城でした。その日は色々な歴史の体験などしました。

そして5日目は平和学習で、平和祈念公園に行って沖縄であった地上戦の話を沢山学びました。そしてマチグウー散策で毎日のように通る道を詳しく知る事ができました。そしてエイサーも練習しました。

そして6日目は、エイサーしたり沖縄の移民について沢山知りました。6日目は泣きそうでした…。そして7日目はさよならパーティー…本当に沢山の仲間に出会いました。そして1分間スピーチでアドリブでいきました。頑張りました。そしてエイサー踊ったり、ダンス踊ったり、歌を歌ったり、本当に大切な時間が早く過ぎました。皆涙が止まらなかったね。今でも泣きそうです。皆と出会ったばかりなのに直ぐお別れ。あつという間に過ぎた7日間は思い出に変わって大切な仲間と出会えました。皆で笑ったりお互いの気持ちが理解出来ずぶつかりあったり。でも、今では、思い出に変わって記憶に残っています。私はフィリピンに留学して、勉強してフィリピンで歌手になるのが大きな夢です。JSTを通し、夢に自信を持てるようにもなりました。

皆!愛美頑張るよ!JSTの参加者の皆!スタッフの皆さん!周りで支えてくれた皆さん、本当にありがとうございます。皆さんに出会えて感謝します。このJSTというツアーは終わっても絆は一生あります!また皆が揃って会える事を楽しみに待っています。本当に本当に皆ありがとうございます。

友利 麻羽

MAU TOMORI

首里東高等学校1年



ジュニアスタディーツアー

私はこのツアーに参加して、本当によかったと思っています。

最初は、どうなるかな？話せるかな？という不安でいっぱいでした。でも、みんなとたくさん話し、交流を深めると共に、不安も無くなっていきました。スペイン語、フランス語、ポルトガル語が、話せないのは悔しかったです。

このツアーが終わりというのは本当にさびしいですが、次は私自身が各国へ訪問したいな～と思いました。

この一週間で、本当に短かったです。

また、このツアーを通して学んだ事を行かして、これからの生活をやっていきたいとおもいます。

私は、このツアーを通して、色々と学ぶ事ができました。さまざまな文化を学ぶ事で、たくさんの異文化と触れ合い新たな発見ができました。最初のウェルカムパーティでは、緊張してて頭が回らなかったけど、声をかけてくれた人がいたから、緊張もほぐれました。初日から、夜中まで遊んでたのしかったです。

次の日の美ら海も楽しかったです。

エメラルドビーチでは、たくさんの人と遊んで、仲が深まったとおもいます。

本当に一日一日が楽しかったです。毎日毎日が本当に楽しくて、一日が終わるのが、早かったです。

琉球漆器造りは、貴重な体験で沖縄にすんでる人でも体験をしたことのない事だったので、本当によかったとおもいます。

エイサーもこのJSTのメンバーでできたからこそ、いい思い出ができました。

最後のさよならパーティでは、本当に終わりなんだなと思う気持ちがあり涙が止まりませんでした。

最後の最後まで楽しくて、笑いあり、涙ありでした。

このJSTで学んだ事をこれからの人生に活かせたらなと思っています。

本当に一週間たのしかったです。

ありがとうございました。

新城 祥子

SHOKO ARASHIRO

八重山高等学校2年



今回のツアーで学んだこと

私は7月22日、遠い離島からは一人での参加と聞いていたので、ものすごく緊張しながら集合場所のかんぼレクセンターへ向かいました。時間通りに着いたつもりが、ほぼ全員が集まっていたのでビックリしました。そこには、沖縄県代表として選ばれてきた15名の中高生と、9ヵ国から集まった15名の生徒達がいる、最初からこのジュニアスタディーツアーに参加することが素晴らしいことを実感しました。その中に私が選ばれて、とても嬉しかったです。本当に選んで頂いて、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

そして1日目、初対面の人とはあまり話せない私に、参加しているみんながいっぱい話しかけてくれたので、すぐ仲良くなる事が出来て楽しかったです。初日は、みんなと仲良くなるためのレクレーションやウェルカムパーティーがあり、色んな国からの参加者達と話したり、写真を撮ったり、ご飯も食べながらたくさん絡んで仲良くなりました。

2日目、私はこれから一週間、沖縄について学習するために気持ちを切り替えました。県庁では、副知事やカメラをもったたくさんの方が来ていて、とても緊張しました。そこでは、ペルー代表のなおみと一緒にペルーの国旗を持ちました。初めて、母国以外の国旗を持って皆の前に立てたので、とても光栄でした。そして、県庁からまた移動するとき、引率の先生が交代ということで2名も代わったので、最初は不安でした。しかし、次に行った美ら海水族館やエメラルドビーチで話して、とても親切で面白かったので、不安はすぐ消えていました。水族館では、色んな魚が見られて楽しかったです。2回目の来館だったけど、とても良かった。エメラルドビーチでは、最初海に足だけつかりに行って、その後は皆でビーチバレーをしました。私は、スポーツや動くことも大好きなので、とても楽しかったです。ケガしたのはちょっと悲しかったけど。太田さん、付き添ってくれてありがとうございました。

3日目は、トレッキングで山登りをしました。予想以上のきつさで大変だったけど、一緒に登っている皆も頑張っていたので、私も負けないように頑張りました。その時に、沖縄の自然を体感することが出来たと思います。その上、案内してくれたまーぼや、のっちが比地大滝に生息する生き物などの説明やその生き物たちがずっと残れるために、大切な環境問題について色々話してくれて、とてもためになりました。ありがとうございました。その日の夜は、バーベキューをして、卒業生と一緒にまたレクやゲームをして、とても楽しかったです。一番楽しかったのは、グループ別で対戦したゲームですごく盛り上がりました。写真も撮りました。みんなともとても慣れてきて、本当にエンジョイ出来ました。

4日目、私はこの日が待ち遠しかったです。なぜなら3年ぶりの首里城だからです。3年前、中学校の修学旅行で来たときは、まだ首里城の素晴らしさが解っていなかったので、適当に見学していました。だから今回は、ゆっくりじっくりちゃんと見学したいと思っていたので楽しみでした。ここでは、琉球王国時代の頃の歴史を学べて良かったです。建物の中には、色んな琉球時代の様子を表した物があり、すごかったです。

そして夕方、エイサーの練習が始まりました。エイサーは前にもやったことがあるので、簡単だと思っていたけど、意外と細かい動きなどがあってとても難しかったです。でも、皆上手でびっくりしました。この日はぐっすり眠ることが出来ました。

5日目の朝はすごいハプニングが起こりました。一緒の部屋だった楓となおみと私の3名が、集合時間の8時過ぎに起きてしまったことです。電話がかかってきてとても焦りました。だから、死ぬ気で急いで出る支度をしました。そして、バスに載るときは皆に謝って入りました。それから、この日は平和祈念公園に行って、色んな戦争の時の資料などを見て、戦争体験者の長田さんの講話も聞くことができました。講話では、約60年前に起こった悲惨で残酷な戦争という恐ろしい出来事を私達に話してくれました。しかし、その時私は一生懸命に話してくれている長田さんの話を、集中して聞けずに居眠りをしてしまったことをとても後悔しています。昼ご飯は、食堂で沖縄そばとジュシーを食べたので美味しかったです。そして、昼からは那覇のテンプス館からマチグワー散策で色々まわりました。とても暑くて大変でした。でも最後に食べたQuicklyは最高でした。夜はエイサーの練習を頑張りました。

6日目は、かんぼレクセンター内で元アナウンサーの前原さんが、沖縄の移民についてたくさん話してくれました。沖縄の人は、生きていくために他の国へ渡って、いろんな仕事を発展させてきたというのを聞いてすごく感動しました。そして、昼からはワークショップで、沖縄といえば思いつくものを発表したり、写真をみて気づ

いたことやどこの国の人なのかも考えて、大変だったけど頑張りました。この日の夜は、皆家に帰る日で寂しかったけど、また明日会える事を楽しみにして別れました。

7日目、長いようでとても短かった1週間がこの日で最後になりました。さよならパーティー、本当はやりたくなかったです。1分間スピーチの時、すごく泣きそうでした。今までのスライドショーの時は、色んな事を思い出して、とても感動的でした。最後、皆で舞台の上で歌やダンスをした時が、今までで一番楽しくて興奮していたと思います。

私は今回、ジュニアスタディーツアーという素晴らしい交流研修に参加することができて本当に嬉しく思い、私を選んでくれたことにも感謝の気持ちでいっぱいです。

今回のJSTでは、沖縄の自然・歴史・平和・文化・社会と全てに関して、体験し学習出来たことがとても誇りに思います。

9カ国から集まってきた沖縄県系人の人たちとの交流は、何よりも感動的で私にとってのかけがえのない経験となりました。今までは、世界共通語である英語にしか興味を持っていなかった私は、今フランス語やポルトガル語、スペイン語にも興味を持てるようになりました。そのきっかけとなったのが、このジュニアスタディーツアーです。JSTは、これからグローバル社会になっていく世の中に、対応出来る生徒を創り出していくと思います。

最後に、今回このJSTで出会ったスタッフや8期のメンバー、引率で来られた皆さんのおかげでとても充実した1週間を送ることが出来て、とても楽しかったです。本当にありがとうございました。

兼城 凜子

RIKO KANESHIRO

首里高等学校1年



ジュニアスタディーツアー

1週間のジュニアスタディーツアーを終えた今、「またみんなに早く会いたい」というのが一番の感想です。み

んなと過ごした日々は、充実していて、たくさんの思い出を作ることが出来ました。

海外参加者は、日本語を理解している人もいて馴染みやすかったです。また、日本や沖縄について興味を持っていたので、会話がはずみ、いろいろな国の学校のことやライフスタイル、家族、興味のあることを知ることができました。自然学習の美ら海水族館見学、海水浴、羽地大滝のトレッキングを通して沖縄の自然にふれあいながら、私達の仲も深まる楽しい交流となり、歴史・文化学習では今の沖縄の話だけでなく、百年前の移民のことを学びました。

平和についての学習は、戦争の事を全く知らない人もいたし、海外参加者だけでなく、自分たち県内参加者も平和、戦争、沖縄について考えさせられたと思います。

私がツアーで印象に残っていることは、タミやカレン、アユミがエイサーを楽しそうに踊っていたことです。沖縄の反対側にあるブラジルで、伝統的なエイサーがウチナーンチュの手で次の世代へ受け継がれているそうです。とても素晴らしいことだと思います。どこにいてもウチナーンチュの心には変わらないな、と嬉しく思いました。そのことに刺激を受けて、私もエイサーを習いたいと思っています。タミ達に負けないように、私なりに頑張ります。

このツアーの前まで、英語だけ話せばいいよね、と思っていました。だけど、世界には英語だけでなく、ポルトガル語、スペイン語、フランス語、たくさんの言葉があります。英語だけ出来ればいいという私の考えが甘いことに気づきました。メールや手紙でみんな続けて、もっと仲良くなりたいので、英語だけでなくたくさんの言葉を習得したいです。

この仲間は、私を大きく成長させてくれました。みんなの笑顔で私も笑顔になりました。みんなと会えない今のうちに、たくさん勉強して、次会う時びっくりさせたいです。

国際交流の第一歩となったこのツアーに感謝して、これからも多くの事にチャレンジしたいです。来年はボランティアとしてジュニアスタディーツアーに携わっていきますので、またよろしくお願いします。

皆さんありがとうございました。



垣花 輝明

KIMEI KAKINOHANA

67歳 2世

ブラジル連邦共和国

Federative Republic of Brazil

ブラジル沖縄県人会



JUNIOR STUDY TOUR 2008

引率者

2008年7月15日、ブラジル沖縄県人会子弟で構成された「ジュニアスタディーツアー 2008年度」は沖縄県で開催されるプログラムに参加するため出発しました。

このプログラムは、沖縄県庁の企画で、13歳から18歳までの沖縄県系人子弟に呼びかけられたのでした。

ブラジルを代表して参加したのは、サン・マテウス支部のレニラ阿弓天久（15才）、ピラ・カロン支部の与那嶺モニカ多美（15才）、カンポ・グランデ支部の中馬渡慶次カレン（17才）、ブラジル沖縄県人会本部の引率者、垣花輝明でした。

その他代表して参加した国は、フランス、カナダ、アメリカ、キューバ、ペルー、ボリビア、アルゼンチンでした。

7月17日より21日まで若い参加者達は、祖国沖縄に在住する親戚の家庭でホームステイを行ない、それぞれが地域での生活を体験しながらお互いの絆を深め合う事を目的としたものでした。

そして、7月22日よりカンボレセンターにおいて「ジュニアスタディーツアー」が外国からの参加者15名と沖縄県から152名の学生で開催されました。

翌日は、沖縄県庁を表敬訪問した後、エメラルドビーチでの海水浴や美ら海水族館を見学しました。

7月24日は、比地大滝までハイキングしました。

ホテルタニューでブラジルから参加した少女達が発表したテーマは、ブラジル沖縄県人会について（レニラ阿弓天久）、ブラジルの地理について（与那嶺モニカ多美）、ブラジル日本移民100周年について（中馬渡慶次カレン）、とても素晴らしい発表を行いました。

7月25日、カンボレセンターへ帰る前に首里城と県立博物館を見学しました。

7月26日、平和祈念資料館では世界大戦で沖縄が経験した歴史を聞く事ができ、私達は大変強い印象と感動を受けました。

7月27日、前原信一講師の講話があり、沖縄県民の海外移住歴史と世界の中での沖縄子孫の自覚を聞きました。

7月28日、お別れパーティでは、参加者一人一人が

この機会を企画して下さったスタッフやボランティアの方々へ感謝の言葉を表しました。そして、初めて出会った親戚との喜び、交流で得た新しい友達、帰国してからもお互いにメールや電話で近況を報せあうことを誓うなどと、それぞれが報告したメッセージは大変感動させるものがありました。

交流会が終了したらお別れしなければならないことは知っていても、別れのつらさは悲しく、参加者達が一緒に過ごした楽しかった日々の思い出、まだ帰国したくない気持、お互い涙をかみしめながら抱擁しあう姿は2週間という短い期間でありましたが、意義深い交流だったことを十分に示すものでした。

ブラジルに帰国し、ふり返って見ますと短期間滞在した沖縄県でしたが、多くのことを学びました。

例えば、前原信一講師が講演されたように、私達もブラジルの沖縄移民のことについてもっと調査しなければならない事、このブラジルと沖縄県のジュニアスタディーツアー事業を継続させるためにも会員子弟、子供たちが日本語を学ぶ事の出来るように協会にお願いする事などです。

最後にこの機会を与えて下さいました沖縄県庁の皆様、企画に携わったスタッフ、ボランティアの皆様、そして「ジュニア交流ツアー」事業に参加するために送り出してくださいましたブラジル沖縄県人会の皆様にご心より感謝申し上げます。

大変貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。

JUNIOR STUDY TOUR 2008.

No dia 15 de julho de 2008, o grupo de jovens brasileiros viajou à Okinawa para participar do Programa “Junior Study Tour 2008”.

Este programa destina-se a todos os sócios da Associação Okinawa, com a idade entre 13 anos e 18 anos, sob o patrocínio do governo da Província.

Representando o Brasil, foram Ayumi Lenira Ameku (15 anos) da Associação Okinawa de São Mateus, Tammy Mônica Yonamine (15 anos) da Associação Okinawa Vila Carrão, Karen Tokeshi Tiguman (17 anos) da Associaç

ão Okinawa de Campo Grande e Kimei Kakinohana da Associação Okinawa Kenjin do Brasil.

Participaram também, representantes de outros países, como Argentina, Bolívia, Peru, Cuba, Estados Unidos, Canadá e Nova Caledônia.

De 17 a 21 de julho, os jovens ficaram hospedados na casa de parentes (sistema home stay) para permitir uma maior aproximação com os parentes que lá residem e vivenciar o cotidiano do povo da região.

O programa Junior Study Tour começou no dia 22 de julho, no Hotel Kamporecenter com atividades de integração entre 15 jovens estudantes de Okinawa e 15 jovens que vieram de outros países.

No dia seguinte, além de visitar o Governador de Okinawa, fomos à praia de Emerald Beach e visitamos o Aquário Chura Umi.

No dia 24 de julho, realizamos caminhadas até a Catarata de Hiji Otaki.

No Hotel Tanew, as meninas do Brasil fizeram uma bela apresentação sobre os temas: Associação Okinawa Kenjin do Brasil (Ayumi Lenira Ameku), Geografia do Brasil (Tammy Mônica Yonamine) e Centenário da Imigração Japonesa no Brasil (Karen Tokeshi Tiguman).

No dia 25 de julho, antes de retornar ao Hotel Kamporecenter, visitamos o Castelo de Shuri e o Museu da Prefeitura.

No dia 26 de julho, no Parque Memorial da Paz ficamos sensibilizados ao ouvir as histórias sobre a guerra.

No dia 27 de julho, assistimos à palestra do expositor Shinichi Maehara sobre a História da Imigração e o Sentimento Okinawano no mundo.

No dia 28 de julho, na festa de despedida, ficamos muito emocionados com as mensagens transmitidas por cada participante, relatando a alegria de conhecer os parentes e os novos amigos, fazendo promessas em continuar o intercâmbio por meio de e-mails, telefonemas e cartas. Além de agradecer aos organizadores, aos voluntários e ao pessoal do staff.

Foi a parte mais triste, todos se abraçavam e choravam pelos momentos felizes que haviam passados juntos. Sabiam que havia chegado ao final e ninguém queria regressar ao seu país.

De volta ao Brasil, sentimos que em duas semanas que passamos em Okinawa aprendemos muitas lições.

Como, por exemplo, devemos também pesquisar a História da Imigração, como faz o expositor Shinichi Maehara. Bem como, incentivar na Associação, o ensino da língua japonesa às crianças e aos adultos para dar continuidade ao Programa de Junior Study Tour e ao intercâmbio cultural entre Brasil e Okinawa.

Agradecemos ao Governo da Província, aos organizadores, aos voluntários, ao pessoal do staff e a Associação Okinawa Kenjin do Brasil pela oportunidade que me foi dada em participar do programa Junior Study Tour.

Meu muito obrigado.



大城 ディエゴ セバスティアン

OSHIRO DIEGO SEBASTIAN

21歳 3世

アルゼンチン共和国 Argentine Republic

在亜沖縄県人連合会



引率者

9年ぶりの沖縄

「沖縄に行ってみない?」。初めてそう言われた時、何のことだか分かりませんでした。

話を詳しく聞きジュニアスタディーツアーがある事を初めて知りました。

9年ぶりに沖縄に行けると言う気持ちは喜びであふれていました。

今回アルゼンチン、ペルー、ボリビアの引率者として行く事になって、出発日まで不安と心配ばかりでした。しかしその不安も、国を出て他の参加者や旅行会社の人達に会うと自然と消えていきました。

ブラジルに着く直前に空港で質問などをされた時は良く伝わらなかったのですが、後々参加者の家族と話していくうちにポルトガル語が分かるようになりました。

ブラジルを出てロンドン、成田と言う長時間の飛行の末、無事沖縄に着く事が出来ました。沖縄では、スタッフの皆さんや参加者の家族がみんなをあたたく出迎えてくれました。僕は自分のお婆がどういう人だったのかが分からなかったのちょっと心配でしたが、彼女の方が僕を見つけてくれました。

スケジュールでは1週間ホームステイ、1週間ツアーとなっております。

はじめの1週間はずっと外にいました。色々な場所を見回って、考えていた以上に沖縄は昔いった時より変わってることに気付きました。

次の1週間ではツアーで自然学習、歴史学習、社会学習、平和学習など誰にとっても満足のいく内容で盛り沢山でした。

自然学習では、美ら海水族館で驚くほどの美しさの魚を見たり、海水浴したりしました。

もう一つはヤンバルの登山でした。行く前に長時間かかると言われ驚きましたが、スタッフの丁寧な説明や緑に囲まれた綺麗な山や川を見ながらする登山は、時間を忘れ皆楽しく登っていました。

歴史学習では、首里城に行き、沖縄の琉球国時代の遺産を見せて頂きました。やはり沖縄は日本とは違うことに気付きました。

社会学習では、前回参加者のボランティア達と一緒に

に町の色々なところを見学しました。

平和学習では、平和記念資料館で沖縄の悲しい記憶を聞かされました。そこで戦争がどんなに悲しいことだったのかを聞かされ、胸がとても痛みました。僕のおじは戦争に行っておらず、あまり戦争の事については聞かされていなかったの、戦争の経験者であった人から聞かされて衝撃的でした。いまだに戦争を続けている国がありますが、早く終わることを願います。

この他にも、スタッフの方々や、前回参加者のボランティア達の交流ゲームやキャンプファイヤー、バーベキューと言うイベントもあり、参加者たちはますますお互いに集まるようになりました。

最後の日に行われたさよならパーティーでは、初めの日には慣れていなかった参加者達全員が、まるで一つの家族のように涙の別れを惜しんでいるところを見てとても感動しました。

こうして2週間という短い期間を過ごしましたが、じつにいい経験をさせてもらいました。

このジュニアスタディーツアーは本当に素晴らしいです。勉強だけではなく、世界中のウチナンチュ達がお互いに手を取り合い、友情を生むと言う事が出来るからです。言葉や国境は関係なく、みんな互いにコミュニケーションが取れると言うのは本当に素晴らしいことです。正直日本語を知らない参加者はどうするのだろうと思っていましたが、みんな一緒になり助け合っているところを見ると、このツアーのすごさに感動します。

僕は今回、引率者で責任が重大ということで気を配っていましたが、特に問題は無く参加者として参加させてもらった気分でした。彼らを見てると色々参加したくなりました。そして自分はウチナンチュであって本当に良かったと思っています。

このツアーでは感動や思いで、色々なことを学びましたが、気付いたことがあります。

それはどんなに違う国であって、言葉が伝わらなくても、人は必ず通じ合えると言うことです。これからも、この素晴らしいツアーの継続と成功を祈ります。そして全世界のウチナンチュが互いに手を取り合う事を願います。

最後になりますが、沖縄でお世話になった親戚の方、

スタッフの方々、この素晴らしい経験を可能にしてくださったアルゼンチン沖縄連合会、そして沖縄県庁に心から感謝申し上げます。

みなさま本当にどうもありがとうございました。
Muchas gracias Merci beaucoup Muito obrigado
Thank you very much イッペーニヘーデービル

Okinawa después de 9 años

"Te interesaría ir a Okinawa?", cuando me dijeron eso realmente no entendía a que se refería. Luego me enteré que existía un tour de estudio llamado Júnior study tour. El sentimiento de ser uno de los integrantes e ir a Okinawa me llenó de alegrías.

Me ha tocado ir de acompañante, no sólo de Argentina sino también de Perú y Bolivia, estaba muy ansioso y nervioso hasta antes de partir, mis nervios fueron desapareciendo al encontrarme con las participantes de Perú, Bolivia y Brasil. Cuando llegamos al aeropuerto en Brasil no entendía las preguntas que nos hicieron, pero luego fue comprendiendo a medida que conversaba con los familiares de los participantes.

De Ezeiza partimos hacia Brasil donde nos encontramos con las participantes de Perú, Bolivia y Brasil, desde allí partimos hacia Londres y desde Londres a Narita y al fin luego de un largo viaje llegamos a Okinawa.

En el aeropuerto de Naha nos esperaba el plantel del tour que nos recibió cálidamente. El familiar que me esperaba era oba a la cual no veía desde hacía 9 años, no sabía si me iba a acordar de ella, pero para sorpresa mía fue ella la que me reconoció.

Según la agenda del tour, era una semana de hospedaje en la casa de los parientes y la otra semana en el hotel.

La primera semana paseaba por todos lados, y ahí me di cuenta de que Okinawa había cambiado en 9 años.

La siguiente semana empezaba el tour que ya estaba armado de la siguiente manera: Estudio de la naturaleza, estudio de historia, estudio de la sociedad, estudio de la paz, era bastante y todo muy interesante para cualquier persona.

En el estudio de la naturaleza fuimos al Churaumisuzoku kan(acuario Churaumi) donde vimos cualquier cantidad de peces increíbles, también fuimos a nadar a las playas cerca de esa zona.

Además fuimos a las montañas de Yambaru. Antes de partir nos habían dicho que tardaríamos bastantes horas para subirla, pero gracias a las explicaciones claras que daban los encargados de acompañarnos y a los ríos y montañas rodeados de hermosos verdes, el tiempo pasaba rápido y todos subían divirtiéndose.

En el estudio de historia fuimos a ver el castillo de Shuri, la herencia de la época en que Okinawa se llamaba Ryuukyuu. Al ver eso me he dado cuenta que Okinawa es distinto de Japón.

En el estudio de la sociedad, junto a los participantes del año o anterior fuimos a recorrer distintos lugares de la ciudad.

En el estudio de la paz, fuimos al museo conmemorativo de la paz, en donde escuchamos la triste historia de Okinawa. Allí escuchamos lo realmente triste que era la guerra.

Mis abuelos no estuvieron en la guerra por eso no tuve ocasión de escuchar sobre la guerra, pero escuchar los relatos de una persona que estuvo en la guerra fue un impacto bastante fuerte.

Aún hay países que están en guerra, yo sólo deseo que se termine pronto.

Aparte de estos estudios también hubo fogata y juegos para asociarse entre los participantes, organizados por el plantar del tour y los participantes de años anteriores.

En la fiesta de despedida que se hizo el último día, todos los participantes que en el primer día no se juntaban estaban llorando por la despedida como una familia, me conmovió mucho esa imagen.

Así pasaron dos semanas cortas, la verdad que fue muy buena experiencia.

Este Júnior study tour es realmente increíble, no sólo se trata de estudio, sino también que todos los uchinanchu del mundo se dan la manos y se forma una nueva amistad.

Sin importar el idioma ni la nacionalidad poder comunicarse, es realmente increíble.

En un momento estuve pensando, "qué harán los chicos que no saben hablar japonés?" Pero al verlos ayudarse entre ellos para tratar de entenderlo me sorprendió de vuelta lo increíble que es este tour.

Esta vez me tocó ir de acompañante que tenía mucha responsabilidad, y estuve tratando de estar atento en todo momento, pero no hubo problemas en especial y estuve integrado como un participante. Al verlos a ellos también me daban ganas de participar juntos. Estoy muy contento de ser uchinanchuu.

En este tour hay muchos recuerdos, emociones y cosas nuevas que aprendí. Pero me di cuenta de una cosa, que no importa que sean de distintos países ni entiendan el idioma, las personas siempre se pueden entender entre ellos.

Espero que este tour siga con su éxito como lo está haciendo y que todos los uchinanchuu se den la mano y se unan.

Para terminar quisiera agradecer a mis parientes por hospedarme, a todas las personas de Okinawa, a los planteles del tour por el increíble trabajo en especial al centro Okinawense que me hizo posible esta increíble

experiencia.

Muchas gracias a todos de verdad, doumo arigatou
gozaimashita, Merci beaucoup Muito obrigado Thank
you very much Ippe ni he de biru



サンチェス タマキ ロベルト

SANCHEZ TAMAKI ROBERTO

44歳 3世

キューバ共和国 Republica de Cuba

キューバ沖縄県人会



引率者

沖 縄

沖縄のことを話すとき、たくさんの思い出や感情が頭の中に駆け巡り、すべてを説明するのは不可能ですが、何よりもまず我々がキューバからのツアー参加実現に向けてお手伝いいただいた皆様方へ感謝いたします。また、今回の滞在中に学んだ沖縄の伝統や習慣そして文化を今後我々子孫たちの中で維持していくことの大切さを感じております。長い間失われていた家族・親戚間との絆も今後さらに深めて行きたいです。

ツアー参加の話初めて知らされたとき、文化や習慣、気質の異なる国の様々な世代のウチナーンチュが集まるということが一体どんなものなのか全く想像が付きませんでした。ツアーを終える頃には、沖縄系であるということそれ自体が一つの同じ言語であり、文化、教育、同胞愛であるということが判りました。誰がどんなに遠くにいようと、海がどんなに我々を引き裂こうとも、我々は一つである、今回のツアーはそれを証明してくれました。

那覇空港に到着した際、自分たちがまるで祖父母から聞かされていたおとぎ話の中にあるような、何か魔法に包まれた気分になりました。言葉で表すのは難しいですが、そこからすべてが始まりました。最初に家族・親戚との出会い、そしてジュニアスタディーツアー。ツアーの組織・内容すべてがすばらしかったです。一つの部分もおろそかにすること無く、主催者たちは親切でエネルギーで、そして常に笑顔を持って私たちに接してくれました。そのおかげで、まるで自分の家にいるような、エデンの園にいるような、そんなリラックスした気分になりました。

家族・親戚と過ごした時間では、よく祖父母が沖縄料理作ってくれたことや歌や踊りを教えてくれた当時を思い出しました。また、亡くなった方への祈りと尊敬、年長者を敬うということ、特に、どんなに厳しい状況の中にあっても、家族で団結し頑張っていかなければならないということも思い出しました。

各国紹介のコーナーでは、皆がそれぞれの国でどんな風に生活しているのか、沖縄の外で生まれたにもかかわらず、悪戦苦闘しながらもその伝統や習慣を世代から世代へどのように受け継いできたのかといったこ

とを知ることができました。

ツアー中は、沖縄そば、豆腐料理、ゴーヤーチャンプルーなどの芸術とも呼べる伝統料理を味わうことができました。野菜や果物の種類の豊富さとそれらの色彩で飾られているテーブルを大いに楽しみました。

今回いろいろな場所を見学しましたが、その中でいかに自然を愛するかということを理解しました。訪れたそれぞれの場所が学校のように、例えばちゅら海水族館では、自分たちがまるで深海にある大きな劇場にいるかのような感じで、多種多様な魚類やサンゴを見ながら、これらの保護について考えるなど、言葉に表せない、調和の取れた融合を実践的にそして楽しく学ぶことができました。また、比地大滝を散策しながら、その途中の風景の美しさをガイドの説明と共に観察することができました。

未来を担う若い世代に沖縄戦をきちんと知ってもらいたい、そして平和の尊さをもっと広げて欲しい。沖縄県平和祈念資料館。戦争が続いた長い年月の間の、県民の恐怖と苦痛を肌で感じました。そこでは、人間の尊厳を何よりも重視し、戦争を拒絶し、人間性の表れとして文化を愛するという“沖縄のこころ”というものを理解できました。この“沖縄のこころ”を世界中の国々に、今なお戦火にさらされる国々に平和が築かれ、それが維持されるよう、伝えなければなりません。

エイサーの練習では、それが祖先の霊を送り出すための伝統的な踊りであることを学びました。

平和を守るということ学んだこの場所を後にし、尚王朝の歴史を感じられる首里城を見学。日本、中国そして琉球の建築様式の融合を見ました。その後、テンプス館を訪れ、沖縄文化および伝統の継続教育の重要性を肌で感じました。

ツアーも終わり。家族や親戚と一緒に時間を分かち合えた感動、沖縄の歴史・文化・自然・平和への愛をこんなに短い期間で学べた喜び、一方で別れを惜しむ寂しさがそこにありました。今回学んだことをそれぞれの国に持ち帰り、我々の先祖がその土地に広めたように、今度は我々が後世へ向け伝承していきたいと思えます。そうすれば彼らもきっと、我々と同じように、自分の体に沖縄の血が流れることを誇りに思うでしょう。

常に“その前”と“その後”というものがありますが、それを言うことは全く苦ではありません。沖縄に行く前、沖縄が好きでした。沖縄を知った後、つまり現在、沖縄を愛しています。どんなに離れていても、我々はいつも沖縄と一緒にしょう。沖縄が、世界中のウチナーンチュを見守ってくれているように、我々も沖縄をずっと見続け、想い続けます。

沖縄。その存在に、その伝統文化を今日まで維持してきたことに、そしてそれらを世界中のウチナーンチュと共有できるということに感謝いたします。私たちはそのスピリットを持ち続けていきます。ウチナーンチュであるというこの感情が決して消えないために、世界中に根を張るウチナーンチュの木々は花を咲かせ、そして新たな種をまくのです。世界中のあなたの子供たちは、あなたが教えてくれた連帯・友愛・同胞愛に感謝し続けることでしょう。あなたは我々の心にしっかりと根を下ろしているのだから。

沖縄、我々の心はいつもあなたと一緒にです。

Okinawa

Al hablar sobre Okinawa, se reúnen en nuestras mentes tantos sentimientos que es imposible explicarlos todos, el primero en aparecer es el sentimiento de gratitud hacia todas las personas que hicieron posible nuestro viaje y las que mantienen viva la idea del Junior Study; de nostalgia hacia todo aquello que vivimos y aprendimos; de entrega pues desde que nos despedimos sabemos que tenemos el deber de mantener las tradiciones, las costumbres y la cultura entre nuestros descendientes; sentimos que debemos mantener los lazos familiares perdidos durante décadas y que al retomarlos nos damos cuenta que siempre estuvo latente entre nuestras familias el amor y la esperanza del encuentro.

Cuando fuimos informados de que participaríamos en el Junior Study Tour 2008 estábamos lejos de imaginar lo grandioso que sería la fusión de varias generaciones de uchinanchus de varios países, con diferentes culturas, costumbres, idiosincrasias, al final comprobamos que ser descendiente okinawense significa un mismo idioma, una misma cultura, educación, amor al prójimo, no importa lo lejos que estemos unos de otros, los mares que nos separen, esta convivencia nos demostró que somos uno solo en el mundo, con los mismos intereses, sentimientos, costumbres.

Al llegar al aeropuerto fuimos envueltos en algo mágico que nos hizo creer que estábamos dentro de una historia de hadas contada por nuestros abuelos, sucedió todo de una forma tan encantadora que es difícil expresar con palabras,

primero el encuentro con la familia, luego el inicio de las actividades que de manera tan organizada comenzó con la integración de los estudiantes participantes en el evento, no se descuidó ningún detalle, lo cual hizo que nos sintiéramos en casa, los organizadores del evento siempre estuvieron atentos a que todo fluyera sin tropiezos, de forma incansable e incondicional, y con la sonrisa en los labios trataron que durante todo el tiempo nos sintiéramos en el Edén.

Con nuestras familias recordamos la época en que los abuelos nos preparaban comidas típicas, nos enseñaban algunos cantos, bailes, a rezar y respetar a los fallecidos, acerca de cómo debíamos comportarnos, del amor y respeto a los ancianos, y sobre todas las cosas la familia, la unión que debía prevalecer aún en los momentos más difíciles.

Conocimos a través de cada participante cuando presentó su país cómo viven, cómo mantienen viva las tradiciones, y costumbres legadas de generación a generación, cómo a pesar de haber nacido fuera de la isla se respeta toda la sabiduría y enseñanzas que nos dejaron los que labraron este camino que para ellos fue ancho y difícil.

Durante nuestra estancia en las instalaciones pudimos apreciar el arte culinario tradicional, pues nunca faltó la soba en el desayuno ni el tofu, así mismo probamos la goya y nos deleitamos con la variedad de vegetales y frutas tropicales, que con todo su colorido adornan las mesas.

En las visitas realizadas nos percatamos cómo se ama la naturaleza, cada sitio es una escuela donde aprendimos todos los detalles, por ejemplo en la visita al Ocean Expo Park y al Acuario Churami, aprendimos de una forma muy práctica y amena, como si estuviéramos en un gran teatro el fondo marino, su vida, y como preservarla, vimos gran variedad de especies marinas, corales, en fin disfrutamos cada parte aprendiendo a la misma vez en una fusión armónica e indescriptible; igualmente al caminar hasta las Cataratas Hijiootaki conjuntamente se pudo observar la naturaleza, lo bello del paisaje y a la vez oír de la voz del guía las explicaciones de todo el entorno lo cual constituye sin dudas una forma novedosa de aprender.

Con el objetivo de que las jóvenes generaciones independientemente del lugar de residencia se nutran de lo vivido por la población de Okinawa, y se extienda el amor por la paz, el Museo Conmemorativo de la Paz de la Prefectura de Okinawa, es una caminata real hacia lo que aconteció en aquella época, el horror y el sufrimiento del pueblo durante los años que duró la guerra, fue entonces que comprendimos lo que significa El Corazón de Okinawa, a valorar la dignidad personal por encima de todo, repudiar la guerra y amar la cultura como expresión suprema de la humanidad; nosotros que gracias a este

maravilloso programa tuvimos la suerte de revivir la desgracia del pueblo okinawense debemos transmitir esta magnífica lección para que la paz sea mantenida en todos los países del mundo, y en los que aún viven los horrores de la guerra.

Luego de este pasaje necesario donde aprendimos a preservar la paz, la parte histórica antigua de las Dinastías Sho se recordaron con la visita al Castillo Shuri, donde apreciamos la fusión de las características arquitectónicas de Japón, China y Ryukyu; perfectamente conservadas y cuidadas. Transitamos luego por el fabuloso Museo de Bellas Artes, donde sentimos una enseñanza continua hacia la cultura y las tradiciones okinawenses, vivimos algo que sabíamos que existía pero de una manera lejana, conocimos la historia del Sanshin de Plata, culminamos la tarde con el fabuloso laqueado de vajilla con la flor típica, fue algo que aprendimos haciéndolo enseñados de forma magistral por profesionales.

A todo esto se une la práctica del Eisa con la cual se rindió tributo a nuestros ancestros, pues aprendimos su danza tradicional.

Luego llegó la hora del término de la jornada y la clausura, felices por haber conocido y compartido con la familia que a pesar de la distancia y el idioma no fue impedimento para la comunicación, por habernos mostrado tanta historia, cultura, naturaleza, amor a la paz en tan poco tiempo, pero a la vez muy tristes pues la fiesta de despedida representa la separación, el retorno a nuestros hogares llenos de una sabiduría legada de una forma muy familiar, y muy propia del okinawense con todo el amor que se desprende de sus corazones siempre sonrientes, todo esto representa para nuestros países una fuerza increíble para desde nuestras familias y nuestros kenjinkai transmitir lo que desde épocas lejanas nuestros ancestros supieron repartir por todo el mundo, pues ahora sentimos que somos ellos retornando a casa después de una jornada muy productiva llenos de felicidad, sueños y por sobre todas las cosas mantener una cultura milenaria para que las generaciones venideras al igual que nosotros se sientan orgullosos y dignos de llevar dentro sangre de Okinawa que representa dignidad, esfuerzo, amor al trabajo, a la vida, a la familia, a la paz.

Siempre hay un antes y un después, y esto no estaremos cansado de decirlo, antes de venir a Okinawa queríamos a esta isla, después de conocerla, no la queremos; la amamos, y siempre estaremos unidos a ella por muy lejos que nos encontremos, no importa los impedimentos que tengamos siempre velaremos por ella igual que ella lo hace por todos sus hijos que viven fuera de ella.

Muchas Gracias Okinawa por existir, por mantener vivas

tus tradiciones y por compartirlas con los Uchinanchus del mundo, no te defraudaremos, sabremos mantener el espíritu ante el trabajo, la perseverancia, la dignidad, la cultura y el amor que nos dejaron los que ya no están pero de alguna forma hicieron posible el encuentro, tus raíces están en todo el mundo y el árbol Uchinanchu florece, y esparce semillas para que nunca muera el sentimiento de ser lo que somos, puedes estar tranquila tus hijos del mundo sabremos agradecer este gesto de solidaridad, hermandad, amor al prójimo que nos inculcaste aún sin saber que existíamos en los más diversos lugares del planeta, pues estás plantada con base muy firme en nuestros corazones, ahora tenemos respuestas a muchas interrogantes, somos así porque somos hijos de la misma isla, de la misma madre, que nos educó y nos forjó a todos con el mismo acero; no importan los océanos que nos separen : OKINAWA NUESTROS CORAZONES ESTAN JUNTO A TI.



稲福 紀子

NORIKO INAFUKU

24歳 1世

アメリカ合衆国

United States of America

ワシントン州沖縄県人クラブ



ジュニアスタディーツアー 2008

引率者

まず始めに、ジュニアスタディーツアーと言う素晴らしいプログラムを毎年主催され、世界中の若いウチナンチュの為に運営して頂いている沖縄県に心から感謝します。そして、沖縄県観光商工部交流推進課を始め頑張っていたいただいたサン・エージェンシーのスタッフの方々、通訳の皆さん、そして多くのボランティアの皆さんにも大変お世話になり、感謝の気持ちでいっぱいです。2008年のジュニアスタディーツアーは、私にとっても、若い参加者達にとっても、最高に思い出深い経験になったと思います。本当にありがとうございました。

今回ジュニアスタディーツアーの経験を振り返ると、私がまだ10代の頃にもこの様なプログラムがあれば良かったなと思わずにはいられませんでした。幸い、引率者に選ばれ参加させて頂き、その知らせを受けた時は大喜びでした。以前から、私が常に大事にしている2点が重なり合い、その要素をプログラム化し、更に自分が参加出来た事は夢が叶えられた様にも思います。その二つの点とは「沖縄」と「子供達と一緒に」ということです。

特に、私はアイデンティティーのトピックについてとても興味を持っています。アメリカで育った私もアイデンティティーの悩みは個人的に経験したので、若い参加者達とその事について話し合えるワークショップの機会は、私にとって最も貴重な経験でした。

私は他の国からの子供達がどのようにアイデンティティーと向かい合ったか、さまざまな参加者の視点や意見を聞いた事は大変勉強になりました。

特にブラジルからの参加者のアイデンティティーの意見がとても興味深かったです。私はブラジルの参加者に「あなたは何人ですか。」と質問されたらどう答えるかと聞きました。子供達は質問された場所によって答えが違うと言っていました。例えば、彼女達は日本で質問されたら「ブラジル人」と返事し、ブラジルで質問されたら「沖縄人です」と答えるそうです。その答えは私が想像していた答えと全く違っていたので、ではアメリカで同じ質問されたらどう答えるかと聞いてみました。すると「ブラジル育ち沖縄人だ」と

答えるそうです。参加者はさまざまな世代であり、もちろんそれを考慮しなければいけません、私は一世で18年間アメリカに住んでいるにもかかわらず、どこで質問されても私は「沖縄人」と答えるので、子供達の場所によって答えが変わるという回答に驚きました。もっと時間が許されていたら他の参加者のアイデンティティーの意見も聞きたかったです。

また、他の国からの参加者達が強いウチナンチュというプライドという意気込みをしっかりと抱いている事に私は感動し、触発されました。アメリカからの参加者も沖縄の文化に興味を持っている事を知り嬉しく思いました。そして、その参加者何人がツアー期間中、踊りや太鼓のパフォーマンスを各自披露してくれた事はとても嬉しかったです。それから、あちらこちらの国々で数多くの沖縄県人会が存在し、沖縄の文化を広げ引き継いで行く為に積極的に活動している事を知り、大変喜ばしいと思いました。

ジュニアスタディーツアーで経験し学んだ事を生かして、私自身もワシントン州沖縄県人クラブでもっともって活躍して行きたいと思っています。県人会の若いメンバーと何か始めたいと願っていたところだったので、積極的に計画を進めたいとやる気が沸いてきました。このツアーは県内外の沖縄の血を受け継いだ次の世代の子供達の為に、これからも長年続いていってほしいと願います。

このツアーの素晴らしさとは、皆沖縄で繋がっている事だと思えます。ツアーに参加した子供達は言葉が違っていてもお互いの繋がりをとても大切に、コンピュータネットワークを通しメールや、チャット、ブログなどを使って常にコミュニケーションをとっています。子供達は、常に沖縄とお互いをとても恋しいと言っております。私も子供達と一緒にあって、彼らのコミュニケーション仲間としてずっと繋がりを続けていきたいと思えます。

今年のジュニアスタディーツアーに参加でき、この様な大変貴重な経験を与えて頂いた事に感謝の気持ちでいっぱいです。ツアーの事、出会ったスタッフや、参加者、そして経験を大切な思い出として心の宝物にします。ありがとうございました。

JUNIOR STUDY TOUR 2008

To begin, I would like to first thank the Okinawa Prefectural Government for sponsoring and creating such a wonderful program for the young Okinawans from all over the world. I would also like to extend my appreciation out to the very hard working Okinawa Prefectural Government Exchange Promotion Division, Sun Agency, the many translators and the staff volunteers who were involved in the 2008 Junior Study Tour. I believe that the tour was the greatest memorable experience for me and especially for the young participants. Thank you very much.

As I look back at my Junior Study Tour experience, I cannot help but wish this type of program was available for me when I was a teenager. Fortunately, I was able to take part as a chaperon and I was overjoyed to be selected to participate. Even before I was selected as a chaperon from the United States, I knew that this kind of program was a dream come true for me. It is a dream program because it incorporates my two passions of Okinawa and the opportunity to work with teenagers at the same time.

In particular, I have always been interested in the topic of identity. It was something that I personally struggled through while I was grew up in the US and to have the opportunity to discuss with the youth on the topic of identity during the workshop was the most valuable experience for me. I was educated by the different perspectives from the children in how they dealt with their identity in different parts of the world.

In particular, the participants from Brazil's discussion were eye opening to me. When I asked them how they would answer to "Who are you?" they informed me that their answers would change depending on where they were asked. For example, if they were in Japan, they would answer that they are Brazilians; and if they were in Brazil, they said they would answer that they were Okinawan. Because the answers were very different from how I would have answered, I was curious as to how they would answer if they were in the US to which they responded, "Brazil raised Okinawan." Of course, generation factor comes in to consideration, for I am a first generation and the children were at different generation; but even though I have lived in the US for about 18 years, I still consider myself fully Okinawan where ever I am in that I was surprised to hear that where the children resides mattered in what nationality they considered themselves as. I wish to have had more time to hear other participants' perspective on identity.

Furthermore, I was inspired and moved by the strong existence of Okinawan pride and spirit in the children from other countries. I was happy to find that some of the US

participant's interests were culturally Okinawa related. I was excited that some were able to show their involvement in Okinawan culture through their performances during the tour. Also, I was delighted to find out about many other Okinawa Kenjin Clubs established all over the world and how organized and active in the continuation and expansion of Okinawan culture in other parts of the country.

Having the opportunity to be part of Junior Study Tour was very educational and has motivated me to do more for my own Okinawa Kenjin Club in Washington State. I have always wished to start something Okinawa and youth related so this opportunity has influenced me to be proactive with my plans. I hope this program continues for the benefit of all youth in Okinawa and all over the world.

The fact that we were all connected one way or another with Okinawa is what makes this tour so wonderful. Even though they might have language barriers, the participants are keeping in touch with each other through social network sites, email, instant messaging and blogs. The children are constantly communicating how much they miss Okinawa and each other very much. I hope be part of the communication and keep up with the youth so that I can continue keeping in touch with them.

Again, thank you so much for the wonderful opportunity to take part in this year's Junior Study Tour. I will treasure the wonderful memories of the staff, participants and the experience of the Junior Study Tour in my heart forever. Thank you.



小出 友視

KOIDE TOMOMI

歳 世

ニューカレドニア Nouvelle-Calédonie

ニューカレドニア沖縄日系人会



ジュニアスタディツアーに参加して

このたび、ニューカレドニアから初参加となったヴォニティシ・モルガンさんの付き添いとして、ジュニアスタディツアーに参加しました。

私は沖縄に暮らして3年余りになりますが、世界に比類のない美しい海に囲まれた島では独自の祭事、伝統芸能、様々な風習が今なお、日常生活のなかに生き続けています。

沖縄の生活のなかで、最も私の心を捉えたのは、「人のつながり」でした。つながりの縦軸が時間で祖先から子孫を表現し、横軸が空間で兄弟、つまり同胞を意味するとしたら、このつながりが縦にも横にも非常に濃いのが沖縄の特徴で、ジュニアスタディツアーは、アイデンティティの源である祖先の地で、次の世代を担う若者たちが縦横の絆をより深める研修だと思いません。

私が参加したのは、主に研修の前半ですが、驚いたのは、海外からの参加者が日頃、私の周囲にいる人より、「ウチナンチュ」であることを意識していることでした。一般的に国を離れるということは、イコール自分のアイデンティティを認識することだと思いますが、彼らの大半は、日本語が流暢であったり、エイサーや琉球舞踊など沖縄の文化に普段から親しんでいる様子で、移民先でウチナンチュであることを誇りに、単に家族だけではなく、組織的に文化の継承に取り組んでいることがうかがえました。また参加者による自国紹介では、周到に準備された発表から、この研修に対する並々ならぬ意気込みが感じられ、彼らがいかに今回の訪問を楽しみにしていたかが伝わってきました。

たった一週間でしたが、参加者たちは研修を通して、気持ちを通わせ、再会を約束して、それぞれの待つ家族のところへ帰っていきました。沖縄は全国有数の移民県ですが、移民した県系人子孫にとって、ここは祖先の生誕地であり、親戚に会える場所でしょう。でもひょっとしたら、この島そのものが「帰る家」なのかもしれません。その人たちを島じゅうで暖かく迎えるのが「ウチナンチュ」の精神だと思います。

私たち協会は、今後も沖縄とニューカレドニアの交

流を支援していくとともに、今回研修に参加したモルガンが近い将来、二つの島を結ぶ中心的な役割を果たしてくれることを期待しています。

研修中、多くの方にお世話になりました。海外・県内参加者の子どもたち、主催の沖縄県観光商工部交流推進課のみなさん、サン・エージェンシーのみなさん、ジュニアスタディツアー卒業生のみなさん、本当にありがとうございました。

引率者

資 料 編

受 入 実 績

(1) 海外参加者・引率者の国別内訳 【() はそのうち引率者の人数】

国名	年度	H13 (ウチナー大会)	H14	H15	H16	H17	H18 (ウチナー大会)	H19	H20	計
ボ リ ビ ア		5(1)	2	3(1)	2	2	5(1)	3(1)	1	23(4)
ブ ラ ジ ル		7(1)	3(1)	2	3(1)	3(1)	5(1)	3(1)	3(1)	29(7)
〃 (カンボグランデ)		3(1)	1	2(1)	1	1	2	1	1	12(2)
アルゼンチン		5(1)	3(1)	2	3(1)	3(1)	3	2	3(1)	24(5)
ペ ル ー		5(1)	3(1)	3(1)	3(1)	3(1)	4(1)	3(1)	1	25(7)
ベ ネ ズ エ ラ		2(1)	0	0	0	0	0	0	0	2(1)
メ キ シ コ		3(1)	0	0	0	0	1	0	0	4(1)
キ ュ ー バ		0	2(1)	2(1)	2(1)	0	2(1)	0	2(1)	10(5)
フ ラ ン ス		2(1)	0	0	0	0	0	0	0	2(1)
イ ギ リ ス		2(1)	0	0	0	2(1)	2	0	0	6(2)
ド イ ツ		2(1)	0	0	0	0	0	1	0	3(1)
米 国(ハワイ)		0	2	3(1)	1	0	1	0	1	8(1)
〃 (グアム)		1	0	2(1)	0	0	0	0	0	3(1)
〃 (本 土)		20(4)	6(2)	5(2)	5(1)	6(1)	11(2)	6(1)	4(1)	63(14)
カ ナ ダ		6(2)	2(1)	1	1	1	2	1	1	15(3)
フ ィ リ ピ ン		4(1)	3(1)	3(1)	1	1	1	1	0	14(3)
シ ン ガ ポ ー ル		0	2(1)	0	0	0	0	0	0	2(1)
マ レ ー シ ア		0	0	0	0	0	1	0	1	2(0)
ニューカレドニア		0	0	0	0	0	0	0	1(1)	1(1)
計		67(17)	29(9)	28(9)	22(5)	22(5)	40(6)	21(4)	19(5)	248(60)

(2) 海外参加者内訳
世 代 別

国名	年度	H13 (ウチナー大会)	H14	H15	H16	H17	H18 (ウチナー大会)	H19	H20	計
1 世		0	0	0	1	2	1	0	1	5
2 世		26	5	6	6	3	14	5	2	67
3 世		21	8	10	8	9	13	8	7	82
4 世		3	7	3	2	3	5	4	7	34
5 世		0	0	0	0	0	1	0	0	1
計		50	20	19	17	17	34	17	15	189

男 女 別

国名	年度	H13 (ウチナー大会)	H14	H15	H16	H17	H18 (ウチナー大会)	H19	H20	計
男子		30	9	5	7	6	15	6	4	82
女子		20	11	14	10	11	19	11	11	107
合計		50	20	19	17	17	34	17	15	189

(3) 県内・県外参加者内訳
学 校 別

国名	年度	H13 (ウチナー大会)	H14	H15	H16	H17	H18 (ウチナー大会)	H19	H20	計
小学生		9	0	0	0	0	0	0	0	9
中学生		24	13	7	5	4	11	4	4	72
高校生		17	11	18	15	15	22	13	11	122
計		50	24	25	20	19	33	17	15	203

男 女 別

国名	年度	H13 (ウチナー大会)	H14	H15	H16	H17	H18 (ウチナー大会)	H19	H20	計
男子		15	6	4	4	5	7	3	3	47
女子		35	18	21	16	14	26	14	12	156
合計		50	24	25	20	19	33	17	15	203

平成20年度 県内参加者名簿

県内参加者名簿

	氏 名	年 齢	性 別	学 校 名
1	宮 里 明衣子 MIYAZATO MEIKO	14	女	伊江中学校
2	下 門 楓 SHIMOJO KAEDE	13	女	潮平中学校
3	福 里 那 央 FUKUZATO NAO	14	男	高江洲中学校
4	豊 里 源 TOYOZATO GEN	13	男	那覇中学校
5	豊 永 優 姫 TOYONAGA YUKI	17	女	コザ高等学校
6	新 垣 美 樹 ARAKAKI MIKI	17	女	開邦高等学校
7	酒 井 知 奈 SAKAI CHINA	16	女	那覇高等学校
8	村 田 ゆうこ MURATA YUKO	15	女	那覇西高等学校
9	花 城 亜紀子 HANASHIRO AKIKO	16	女	那覇西高等学校
10	玉那覇 祐利香 TAMANAHA YURIKA	17	女	西原高等学校
11	宜 保 有 樹 GIBO YUKI	17	男	中部農林高等学校
12	池 村 愛 美 IKEMURA AIMI	16	女	豊見城高等学校
13	友 利 麻 羽 TOMORI MAU	16	女	首里東高等学校
14	新 城 祥 子 ARASHIRO SHOKO	17	女	八重山高等学校
15	兼 城 凜 子 KANESHIRO RIKO	16	女	首里高等学校

海外参加者名簿

	氏 名	年齢	性別	世代	国名	県人会名		
1	天久 レニラ 阿弓 AMEKU LENIRA AYUMI	15	女	2世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会		
	与那嶺 モニカ 多美 YONAMINE MONICA TAMMY							
2	与那嶺 モニカ 多美 YONAMINE MONICA TAMMY	15	女	3世			ブラジル	ブラジル沖縄県人会
	中馬 渡慶次 カ レン TIGUMAN TOKESHI KAREN							
3	中馬 渡慶次 カ レン TIGUMAN TOKESHI KAREN	18	女	4世		ブラジル		
	名城 エベリン マルセラ NASHIRO EVELYN MARCELA							
4	名城 エベリン マルセラ NASHIRO EVELYN MARCELA	17	女	3世	アルゼンチン			在亜沖縄県人連合会
	饒平名 さゆり YOHENA SAYURI							
5	饒平名 さゆり YOHENA SAYURI	18	女	3世			アルゼンチン	
	安座間 上地 カテリーネ 直未 AZAMA UECHI KATHERINE NAOMI							
6	安座間 上地 カテリーネ 直未 AZAMA UECHI KATHERINE NAOMI	16	女	4世		ペル		ペル 沖縄県人会
	島袋 里菜 SHIMABUKURO RINA							
8	島袋 里菜 SHIMABUKURO RINA	14	女	3世	ボリビア			
	ガルシア ウエマ ダニエル GARCIA UYEMA DANIEL							
9	ガルシア ウエマ ダニエル GARCIA UYEMA DANIEL	15	男	4世			キューバ	キューバ沖縄県人会
	森部 マーシ 美幸 MORIBE MARCIE MIYUKI							
10	森部 マーシ 美幸 MORIBE MARCIE MIYUKI	15	女	4世		アメリカ		
	上運天 クリスティ ナ アイ UEUNTEN CHRISTINA AI							
11	上運天 クリスティ ナ アイ UEUNTEN CHRISTINA AI	17	女	4世	アメリカ			サンフランシスコ沖縄県人会
	ウィレット ザックリ WILLETT ZACHARY							
12	ウィレット ザックリ WILLETT ZACHARY	13	男	2世			アメリカ	
	チョ アレクサンダ デイ ジン CHO ALEXANDER DAE JIN							
13	チョ アレクサンダ デイ ジン CHO ALEXANDER DAE JIN	16	男	3世		アメリカ		沖米沖縄県人会
	山城 清光昭 ブレット YAMASHIRO BRETT ALEXANDER							
15	山城 清光昭 ブレット YAMASHIRO BRETT ALEXANDER	16	男	4世	カナダ			
	福里 友理 FUKUZATO YURI							
16	福里 友理 FUKUZATO YURI	15	女	2世			マレシア	マレシア沖縄会
	ヴォーティシ ゼノキ モルガン ファビエラ テレーズ VONITHSI-ZENOKI MORGANE FABIELLA THERESE							
17	ヴォーティシ ゼノキ モルガン ファビエラ テレーズ VONITHSI-ZENOKI MORGANE FABIELLA THERESE	19	女	4世		ニュカレドニア		

海外引率者名簿

	氏 名	年齢	性別	世代	国名	県人会等名
1	垣花 輝明 KAKINOHANA KIMEI	67	男	2世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
	大城 ディエゴ セバスティアン OSHIRO DIEGO SEBASTIAN					
2	大城 ディエゴ セバスティアン OSHIRO DIEGO SEBASTIAN	21	男	3世	アルゼンチン	ボリビア沖縄県人会
	サンチェス タマキ ロベルト SANCHEZ TAMAKI ROBERTO					
3	サンチェス タマキ ロベルト SANCHEZ TAMAKI ROBERTO	44	男	3世	キューバ	ペル 沖縄県人会
	稲福 紀子 INAFUKU NORIKO					
4	稲福 紀子 INAFUKU NORIKO	24	女	1世	アメリカ	ワシントン州沖縄県人クラブ
	小出 友視 KOIDE TOMOMI					
5	小出 友視 KOIDE TOMOMI	/	女	/	ニュカレドニア	沖縄ニュカレドニア友好協会

平成19年度 県内参加者名簿

県内参加者名簿

	氏 名	年 齢	性 別	学 校 名
1	栗 國 志 帆 AGUNI SHIHO	14	女	真和志中学校
2	金 城 華 奈 子 KINJO KANAKO	13	女	潮平中学校
3	宮 城 玲 奈 MIYAGI RENA	13	女	美里中学校
4	安 里 巽 ASATO TATSUMI	14	女	与那原中学校
5	玉 城 美 耶 子 TAMAKI MIYAKO	16	女	那覇西高等学校
6	上 間 瑞 樹 UEMA MIZUKI	17	女	開邦高等学校
7	与那覇 智 都 YONAHA CHISATO	16	女	開邦高等学校
8	瑞慶山 美 咲 ZUKEYAMA MISAKI	17	女	コザ高等学校
9	宮 城 聖 乃 MIYAGI SYONO	15	女	コザ高等学校
10	狩 俣 友 恵 KARIMATA TOMOE	17	女	宮古高等学校
11	上 原 善 男 UEHARA YOSHIO	21	男	南部工業高等学校
12	宮 城 和 哉 MIYAGI KAZUYA	18	男	西原高等学校
13	川 満 大 祐 KAWAMITSU DAISUKE	17	男	西原高等学校
14	岸 本 りいま KISHIMOTO RIIMA	16	女	宜野湾高等学校
15	許 田 侑 加 KYODA YUKA	18	女	興南高等学校
16	源 河 花 乃 子 GENKA KANOKO	17	女	首里高等学校
17	宇 座 愛 希 UZA AIKI	15	女	浦添高等学校

平成19年度 海外参加者名簿

海外参加者名簿

	氏名	年齢	性別	世代	国名	県人会名
1	宮里 賢征 MIYAZATO UETA MAURY MASSAYUKI	17	男	3世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	上江洲 小百合 シルビア UESU SILVIA SAYURI	15	女	4世		
3	ヴィヴィアネ ユミ ハラサキ VIVIANA YUMI HARASAKI	17	女	3世		カンボグランデ沖縄県人会
4	新城 パブロ アリエル PABLO ARIEL ARAGUSUKU	18	男	4世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
5	仲宗根 ゆかり YUKARI NAKASONE	17	女	2世		
6	真栄城 仲宗根 カリーナ 初江 KARINA HATSUE MAESHIRO NAKASONE	17	女	3世	ペル	ペル 沖縄県人会
7	伊佐 与儀 幸子 カロリ ナ SACHIKO CAROLINA ISA YOGUI	16	女	3世		
8	大城 広大 KODAI OSHIRO	13	男	3世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会
9	クダカ 美咲 MISAKI KUDAKA	15	女	3世		
10	ジャスティン トヨサト JUSTIN TOYOSATO	13	男	4世	アメリカ	北米沖縄県人会
11	麗矢 マ ロウ LAIYA MARLOW	14	女	2世		コロラド州沖縄県人会
12	マケラ レネ コル MICHAELA RENE COLE	17	女	3世		アトランタ沖縄県人会
13	トモコ レネ レオナ ド TOMOKO RENEE LEONARD	17	女	2世		インディアナ沖縄県人会
14	クリスティ ナ チハル ヘンリ CHRISTINA CHIHARU HENRY	17	女	2世		スペースコ スト沖縄県人会 ゆいまーる会
15	ジョシュア マイケル キャンベル JOSHUA MICHAEL CAMPBELL	15	男	4世	カナダ	レスブリッジ沖縄県人会
16	クリスチアン サン MACALINTAL CHRISTIAN SANTOS	18	男	3世	フィリピン	フィリピン沖縄県人会
17	比嘉 紀乃 KOTONO HIGA	14	女	2世	ドイツ	ドイツ沖縄県人会

海外引率者名簿

	氏名	年齢	性別	世代	国名	県人会名
1	カネシロ ジョゼ マツオ KANESHIRO JOSE MATSUO	56	男	2世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	儀間 いつ子 ITSUKO GIMA	30	女	2世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会
3	城間 呉屋 カリーナ ジセーレ KARINA GISSELLE SHIROMA GOYA	27	女	3世	ペル	ペル 沖縄県人会
4	マユミ マーレイン コール MAYUMI MARLENE COLE	48	女	2世	アメリカ	アトランタ沖縄県人会

平成18年度 県内参加者名簿

県内参加者名簿

	氏 名	学年	性別	学 校 名	
1	国 吉 明 奈	KUNIYOSHI MEINA	3	女	中城村立中城中学校
2	久手堅 憲 稀	KUDEKEN NORIKI	3	男	西原町立西原東中学校
3	比 嘉 夏 海	HIGA NATSUMI	3	女	浦添市立浦添中学校
4	富名腰 彩 乃	FUNAKOSHI AYANO	3	女	那覇市立首里中学校
5	豊見山 佐 妃	TOMIYAMA SAKI	3	女	那覇市立松島中学校
6	前 里 雅	MAESATO MIYABI	3	女	那覇市立松島中学校
7	中 村 春 葵	NAKAMURA HARUKI	3	女	豊見城市立長嶺中学校
8	与 坂 勇 姫	YOSAKA YUKI	1	女	南城市立玉城中学校
9	比 嘉 美 幸	HIGA MISAKI	3	女	与那原町立与那原中学校
10	崎 原 佑 介	SAKIHARA YUSUKE	3	男	与那原町立与那原中学校
11	島 袋 正 志	SHIMABUKURO MASASHI	1	男	多良間村立多良間中学校
12	諸 見 正 太	MOROMI SHOTA	3	男	石川高等学校
13	津 波 義 弥	TSUHA YOSHIYA	3	男	北谷高等学校
14	山 内 祐 奈	YAMAUCHI YUUNA	3	女	普天間高等学校
15	喜 納 亜沙美	KINA ASAMI	3	女	普天間高等学校
16	川 節 奈 那	KAWASETSU NANA	3	女	西原高等学校
17	屋比久 ま り	YABIKU MARI	3	女	浦添工業高等学校
18	運 天 美由紀	UNTEN MIYUKI	3	女	浦添工業高等学校
19	池 原 ななえ	IKEHARA NANAE	3	女	那覇国際高等学校
20	上 間 もえみ	UEMA MOEMI	3	女	那覇国際高等学校
21	狩 俣 彩 乃	KARIMATA AYANO	1	女	首里高等学校
22	久 貝 博 文	KUGAI HIROFUMI	1	男	小禄高等学校
23	大 城 ひろか	OSHIRO HIROKA	2	女	那覇西高等学校
24	岩 田 彩	IWATA AYA	1	女	那覇西高等学校
25	稲 福 奈実子	INAFUKU NAMIKO	3	女	那覇商業高等学校
26	城 田 麻莉亜	SHIROTA MARIA	3	女	那覇商業高等学校
27	謝 敷 アリ ニ	JASHIKI ALINI	1	女	沖縄尚学高等学校
28	宮 城 若 名	MIYAGI WAKANA	2	女	沖縄女子短期大学附属高等学校
29	下 地 由芙子	SHIMOJI YUFUKO	2	女	開邦高等学校
30	照 屋 美友貴	TERUYA MIYUKI	2	女	知念高等学校
31	糸 数 舞	ITOKAZU MAI	2	女	知念高等学校
32	金 城 将 吾	KINJO SHOGO	3	男	糸満高等学校
33	平 良 優 圭	TAIRA YUKA	3	女	久米島高等学校

海外参加者名簿

	氏名	性別	世代	国名	県人会名
1	ガブリエレ エリ 比嘉 GABRIELLE ERY HIGA	女	2世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	カリナ イズミ 具志堅 KARINA IZUMI GUSHIKEN	女	3世		
3	カレン ユミ 宮城 KAREN YUMI MIYASHIRO	女	4世		
4	レチシア チエミ 高良 LETICIA TIEMI TAKARA	女	3世		
5	マリオ セルジオ いさお 小波津 MARIO SERGIO ISSAO KOHATSU	男	3世		カンポグランデ沖縄県人会
6	レナタ ちえみ 城間 RENATA TIEMI SHIROMA	女	3世		
7	宮平 レオナルド マルティン LEONARDO MARTIN MIYAHIRA	男	2世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
8	新垣 あかね AKANE ARAKAKI	女	1世		
9	喜納 パウラ ミカエラ ミユキ PAULA MICAELA KINA	女	3世		
10	新垣 金城 ジーミ ホルヘ JIMMY JORGE ARAKAKI KANASHIRO	男	4世	ペル	ペル 沖縄県人会
11	具志堅 大城 ガブリエラ イサベル GABRIELA ISABEL GUSHIKEN OSHIRO	女	3世		
12	渡嘉敷 国頭 ダニエラ DANIELA TOKASHIKI KUNIGAMI	女	4世		
13	比嘉 さゆり SAYURI HIGA	女	3世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会
14	眞榮城 弥生 YAYOI MAESHIRO	女	3世		
15	安里 健 KEN ASATO	男	2世		
16	ホカマ 木 SAKAE HOKAMA	男	3世		
17	イダルゴ カネド フランシスコ エイジ FRANCISCO EILLY HIDALGO CANEDO	男	4世	メキシコ	メキシコ沖縄県人会
18	キヨミ トレス ゴンザレス KIYOMI TORRES GONZALEZ	女	4世	キューバ	キューバ沖縄県人会
19	高田 シャンテル 真由美 CHANTELLE MAYUMI TAKATA	女	5世	アメリカ	ハワイ沖縄連合会
20	ダニエル マコト バンバ ド DANIEL MAKOTÔ BOMBARD	男	2世		北米沖縄県人会
21	又吉 まりこ リン MARIKO LYN MATAYOSHI	女	2世		北カリフォルニア沖縄県人会

平成18年度 海外参加者名簿

海外参加者名簿

19	高田 シャンテル 真由美 CHANTELLE MAYUMI TAKATA	女	5世	アメリカ	ハワイ沖縄連合会	
20	ダニエル マコト バンバ ド DANIEL MAKOTO BOMBARD	男	2世		北米沖縄県人会	
21	又吉 まりこ リン MARIKO LYN MATAYOSHI	女	2世		北カリフォルニア沖縄県人会	
22	ウヰットセル ミッシェル ケイコ MICHELLE KEIKO WHETSELL	女	2世		ワシントン州沖縄県人クラブ	
23	デイブ アレン シュルライン DALE ALLEN SCHLEHLEIN III	男	3世		中西部沖縄県人会	
24	アシュレイ 紀子 シャンクス ASHLEY KIKO SHANKLES	女	2世		ニュ メキシコ沖縄県人会	
25	イアン トマス タグラス IAN THOMAS DOUGLAS	男	3世		ニュ ヨ ク沖縄県人会	
26	フェングラ 美花 MIKA LEILANI FENGLER	女	2世		アトランタ沖縄県人会	
27	アшли ブルック シングルトン ASHLIE BROOKE SHINGLETON	女	3世		ジャクソンビル沖縄県人会	
28	クリストファー シェフラー エドワーズ CHRISTOPHER JEFFREY EDWARDS	男	2世		ミシガン沖縄県人会	
29	ハタロン アンドリュー 義輝 ANDREW YOSHIKI PATTERSON	男	2世		カナダ	バンク バ 沖縄県友愛会
30	比嘉 史 NICHOLAS CHIKASHI HIGA	男	2世			トロント球陽会
31	ヤクイテン ブライアン メジャ YAQUITEN BRYAN MEJIA	男	3世		フィリピン	フィリピン沖縄県人会
32	比嘉 麻耶 MAYA HIGA	女	2世		マレ シア	マレ シア沖縄会
33	石垣 幸夫 SACHIO LUCIAN ISHIGAKI	男	2世	イギリス	イギリス沖縄県人会	
34	石垣 優児 YUJI ISHIGAKI	男	2世			

海外引率者名簿

	氏名	性別	世代	国名	県人会名
1	与儀 上原 昭雄 AKEO UEHARA YOGUI	男	2世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	譜久原 アントニオ FUKUHARA ANTONIO	男	3世	ペル	ペル 沖縄県人会
3	イノウエ 悦子 ETSUKO INOUE	女	2世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会
4	ジュリエタ フォンテ 伊波 JULIETA FONTE IHA	女	3世	キューバ	キューバ沖縄県人会
5	ジャネット 亜希子 山内 JANET AKIKO YAMAUCHI	女	2世	アメリカ	北米沖縄県人会
6	上原 さやか SAYAKA UEHARA	女	1世	アメリカ	ニュ ヨ ク沖縄県人会

平成17年度 県内参加者名簿

県内参加者名簿

	氏 名		年齢	性別	A 校 名
1	具志堅 靖 知	GUSHIKEN YASUTOMO	14	男	沖縄市立コザ中学校
2	城間 ひかる	SHIROMA HIKARU	14	女	那覇市立石嶺中学校
3	伊 地 侃 海	ICHI TADAMI	14	男	与那原町立与那原中学校
4	又 士 奈保子	MATAYOSHI NAOKO	14	女	石垣市立伊原間中学校
5	金 城 千 尋	KINJO CHIHIRO	16	女	北部工業高等学校
6	幸 地 長 治	KOUCHI CHOUJI	16	男	名護高等学校
7	金 城 エリナ	KINJO ERINA	17	女	読谷高等学校
8	大 城 奈 々	OSHIRO NANA	17	女	具志川高等学校
9	玉 城 美 優	TAMAKI MIYU	18	女	具志川高等学校
10	山 城 奈	YAMASHIRO ANNA	16	女	普天間高等学校
11	宇 根 あみ菜	UNE AMINA	17	女	浦添高等学校
12	大 城 李理子	OSHIRO RIRIKO	15	女	那覇高等学校
13	斉 藤 愛 里	SAITO AIRI	16	女	那覇国際高等学校
14	又 士 扶	MATAYOSHI TASUKU	17	男	那覇国際高等学校
15	上 原 麻 衣	UEHARA MAI	15	女	小禄高等学校
16	小那覇 祥 子	ONAHA SHOKO	16	女	豊見城高等学校
17	番 園 亨	BANZONO TORU	16	男	糸満高等学校
18	翁 長 琴 乃	ONAGA KOTONO	17	女	久米島高等学校
19	伊良部 夏 美	IRABU NATSUMI	18	女	宮古工業高等学校

平成17年度 海外参加者名簿

海外参加者名簿

	氏 名	性別	世代	国名	県人会名
1	大城 直美 マヤラ MAYARA NAOMI DE ALCANTARA OSHIRO	女	2世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
	宮城 明子 ベアトリス BEATRIZ AKIKO MIYASHIRO	女	3世		
3	川波 エンリッケ ケンジ HENRIQUE KENJI KAWANAMI	男	3世		カンポグランデ沖縄県人会
4	屋宜 宣広 アレハンドロ ALEJANDRO DANIEL YAGI	男	3世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
	岸本 ユカリ YUKARI KISHIMOTO	女	1世		
6	仲里 国頭 エミ カロリーナ EMY CAROLINA NAKASATO KUNIGAMI	女	4世	ペル	ペル 沖縄県人会
	7	亀甲 亀甲 たかし アレハンドロ TAKASHI ALEJANDRO KAMEGO KAMEKO	男		
8	親川 千草 カサンドラ CHIGUSA CASANDRA OYAKAWA	女	3世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会
	9	ジャンニ ブラジル JANNY BRASIL TAMASHIRO	女		
10	ヤマシロ ミッシェル MICHELLE ALEXANDRA YAMASHIRO	女	4世	アメリカ	北米沖縄県人会
	11	イタリア ノ チャンス ケンイチ CHANCE KENICHI ITALIANO	男		1世
12	イ ズリ マケ ナ ヴィカ シャ MCKENNA VIKASHAA EASLEY	女	2世		ワシントンDC沖縄県人会
13	ラックエル 笑美 コンドン RAQUEL EMI CONDON	女	3世		インディアナ沖縄県人会
14	クリストファ ジョシア ワ ルタ ズ CHRISTOPHER JOSHUA WALTERS	男	3世	フロリダ沖縄県人会	
15	ジョーダン カミオ サワダ JORDAN KAMIO SAWADA	男	4世	カナダ	レスブリッジ沖縄県人会
16	ジャスミン マリー ドフレド デ ヘスス JASMINE MARIE DE JESUS	女	3世	フィリピン	フィリピン沖縄県人会
17	ゴンザレス 優子 エリザベス YUKO ELIZABETH GONZALES	女	2世	イギリス	イギリス沖縄県人会

海外引率者名簿

	氏 名	性別	世代	国名	県人会名
1	松堂 忠顕 CHUKEN MATSUDO	男	1世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
	2	新里 ファビアナ カルメン FABIANA CARMEN SHINZATO	女	2世	アルゼンチン
3	安座間 喜屋武 シェイラー パトリシア SHEILLAH PATRICIA AZAMA KIYAN	女	3世	ペル	ペル 沖縄県人会
4	牧志 啓和 HIROKAZU MAKISHI	男	1世	アメリカ	ユタ州沖縄県人会
	5	伊敷 久子 HISAKO ISHIKI	女	1世	イギリス

平成16年度 県内参加者名簿

県内参加者名簿

	氏 名	年 齢	性 別	校 名	
1	棚 原 琴 希	TANAHARA KOTOKI	14	女	宜野湾市立宜野湾中学校
2	糸 数 梨 乃	ITOKAZU RINO	13	女	那覇市立小禄中学校
3	国 吉 美 樹	KUNIYOSHI MIKI	14	女	久米島町立具志川中学校
4	高 原 茉 奈	TAKAHARA MANA	14	女	平良市立平良中学校
5	前上里 李衣奈	MAEUEZATO LIINA	13	女	石垣市立伊原間中学校
6	幸 地 美 琴	KOUCHI MIKOTO	17	女	名護高等学校
7	平 良 槇 子	TAIRA MAKIKO	17	女	石川高等学校
8	小 谷 仁 人	KOTANI KIMIHITO	17	男	石川高等学校
9	池 原 春 奈	IKEHARA HARUNA	18	女	読谷高等学校
10	又 士 毅	MATAYOSHI TAKESHI	17	男	美里高等学校
11	上 原 唯	UEHARA YUI	18	女	球陽高等学校
12	崎 濱 優 希	SAKIHAMA YUUKI	18	女	与勝高等学校
13	沖 士 ハンナ	OKIYOSHI HANNA	16	女	普天間高等学校
14	運 天 美 里	UNTEN MISATO	16	女	首里高等学校
15	久銘次 美奈江	KUMEJI MINAE	16	女	那覇国際高等学校
16	謝敷 エミリ	JASHIKI EMILY	16	女	那覇国際高等学校
17	金 城 のぞみ	KINJOU NOZOMI	17	女	那覇西高等学校
18	許 田 卓 史	KYODA TAKAFUMI	18	男	興南高等学校
19	金 憲 禎	KIM HUNJUNG	16	男	沖縄尚学高等学校
20	細 田 愛	HOSODA MANA	15	女	豊見城高等学校

平成16年度 海外参加者名簿

海外参加者名簿

	氏 名	性別	世代	国名	県 人 会 名
1	比嘉 理恵 デボラ DEBORA LIE HIGA	女	3世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	知念 まゆみ クリスチ ナ CRISTINA MAYUMI CHINEN	女	2世		
3	城間 ロドリ ゴ シゲイロ RODRIGO SHIGUEIRO SIROMA	男	3世		カンポグランデ沖縄県人会
4	又吉 アンドレス MATAYOSHI ANDRES PABLO	男	3世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
5	米須 ノルマ ビルヒニア KOMESU NORMA VIRGINIA	女	3世		
6	エスコバル 伊礼 ジョアナ エツコ ESCOBAR YREY JOHANNA ETSUKO	女	4世	ペル	ペル 沖縄県人会
7	比嘉 シンボ エリック ハビエル HIGA SHIMBO ERIC JAVIER	男	3世		
8	中村 稲嶺 真由美 NAKAMURA INAMINE MAYUMI	女	2世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会
9	新垣 サトル ARAKAKI SATORU	男	2世		
10	サユリ ゴンザレス ナカソネ GONZALEZ NAKASONE SAYURI	女	3世	キューバ	キューバ沖縄県人会
11	ミッシェル ミヨリ パニス PANIS MICHELLE MIYORI	女	3世	アメリカ	沖米沖縄県人会
12	ウィリアム ウォルタ ストレリ STRALEY WILLIAM WALTER	男	2世		ペンサコ ラ沖縄県人会
13	コラオ クリスタル CORRAO CRYSTAL MARIE	女	2世		シカゴ沖縄県人会
14	新城 アントニ 大陸男 ARASHIRO ANTHONY MUTSUO	男	2世		サンディエゴ沖縄県人会
15	ジェシ マイ カイアオ ア カマラ ホリ HORI JESSIE MAI KAIAO A KAMALANI	女	4世		ハワイ沖縄連合会
16	喜久川 可奈 KIKUKAWA KANA	女	1世	カナダ	バンク バ 沖縄県友愛会
17	レンド ジャン ボニファシヨ BONIFACIO RHEND JAN	男	3世	フィリピン	フィリピン沖縄県人会

海外引率者名簿

	氏 名	性別	世代	国名	県人会名
1	与儀 上原 昭雄	男	2世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	新垣 アリエル	男	2世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
3	松田 美津江	女	2世	ペル	ペル 沖縄県人会
4	ミユキ イトカズ モラレス	女	3世	キューバ	キューバ沖縄県人会
5	光江 上原 コチ	女	1世	アメリカ	シカゴ沖縄県人会

平成15年度 県内参加者名簿

県内参加者名簿

	氏 名	年齢	性別	校 名	
1	宮 本 詩 織	Miyamoto Shiori	12	女	港川中学校
2	島 袋 希	Shimabukuro Nozomi	15	女	首里中学校
3	山 城 貴 徳	Yamashiro Takanori	14	男	糸満中学校
4	比 屋 根 安 尚	Hiyane Yasunao	13	男	南星中学校
5	長 嶺 一 司	Nagamine Kazushi	13	男	南星中学校
6	古 波 蔵 直 子	Kohagura Naoko	14	女	南星中学校
7	比 嘉 淳 子	Higa Junko	18	女	八重山農林高等学校
8	吉 村 苑 華	Yoshimura Sonoka	17	女	読谷高等学校
9	高 良 南	Takara Minami	18	女	球陽高等学校
10	玉 城 幸	Tamaki Miyuki	17	女	浦添高等学校
11	安次富 紗綾香	Ashitomi Sayaka	16	女	浦添商業高等学校
12	比 嘉 こ な み	Higa Konami	17	女	首里高等学校
13	安 里 み ち よ	Asato Michiyo	17	女	首里東高等学校
14	新 垣 怜 子	Arakaki Reiko	17	女	那覇高等学校
15	新 崎 奈 央	Arasaki Nao	17	女	那覇高等学校
16	前 田 那 美 子	Maeda Namiko	18	女	那覇国際高等学校
17	大 本 紗 哉	Ohmoto Saya	16	女	那覇国際高等学校
18	金 城 美 菜	Kinjo Mina	17	女	那覇商業高等学校
19	大 城 桃 香	Oshiro Momoka	16	女	沖縄尚学高等学校
20	真栄城 智恵美	Maesiro Chiemi	16	女	沖縄尚学高等学校
21	稲 福 陽 香	Inafuku Haruka	15	女	興南高等学校
22	村 吉 梨 華 子	Murayoshi Rikako	15	女	興南高等学校

県外内参加者名簿

	氏 名	年齢	性別	学 校 名	
1	金 城 幸 代	Kinjo Sachiyo	15	女	兵庫県立宝塚私立高司中学校
2	上 原 勝 也	Uehara Katsuya	17	男	兵庫県立宝塚高等学校
3	小 山 奈 未	Koyama Nami	18	女	日本福祉大学附属高等学校

平成15年度 海外参加者名簿

海外参加者名簿

	氏 名	性別	世代	国名	県 人 会 名
1	新城 真由美 Monica Mayumi Arashiro	女	3世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	仲村 カロリ ナ みどり Carolina Midori Nakamura	女	2世		
3	新里 チエミ アンネ Anne Thiemy Suzuki Shinzato	女	3世		カンボグランデ沖縄県人会
4	井口 セシリア ミドリ Iguchi Cecilia Midori	女	3世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
5	諸喜田 マリネ Shokida Marine	女	3世		
6	仲本 山城 ダニエラ Nakamoto Yamagusuku Daniella	女	3世	ペル	ペル 沖縄県人会
7	渡慶次 山城 マリア ガブリエラ Tokeshi Yamagusuku Maria Gabriela	女	3世		
8	神谷 ナオミ Kamiya Pedraza Naomi	女	2世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会
9	比嘉 浩二 Higa Koji	男	2世		
10	アレマン レオナルド ホルヘ エルネスト Aleman Leonard Jorge Ernesto	男	4世	キューバ	キューバ沖縄県人会
11	キャサレン アヌ シロマ Katharine Anne Shiroma	女	4世	アメリカ	ハワイ沖縄県人会
12	タイ ジン コバシガワ Ty Jin Kobashigawa	男	4世		
13	玉城 由美 Tamashiro Yumi	女	2世		北米沖縄県人会
14	柳田 コリン タケシ Yanagida Colin Takeshi	男	2世	アメリカ	ワシントン州沖縄県人会
15	アシュリ フリック Ashley Frick	女	3世		ニュヨーク沖縄県人会
16	仲原 オリバ 竜司 Nakahara Oliver Ryoji	男	2世	カナダ	カルガリ 沖縄県人会
17	ディナマエ エロイ リエゴ Llego Dinahmae Eroy	女	3世	フィリピン	フィリピン沖縄県人会
18	パトリシア レジナ ノセダ ロペス Lopez Patricia Resyna Noceda	女	3世		
19	レドナ ジェニファ 祐紀 Redona Jennifer Yuki	女	3世	アメリカ	グアム沖縄県人会

海外引率者名簿

	氏 名	性別	世代	国名	県人会名
1	屋富祖 正	男	1世	ブラジル	カンボグランデ沖縄県人会
2	安座間 平敷 ファン 喜勝	男	3世	ペル	ペル 沖縄県人会
3	比嘉 次雄	男	1世	ボリビア	ボリビア沖縄県人会
4	上間 大兼久 ホルヘ	男	2世	キューバ	キューバ沖縄県人会
5	タランティニ 裕子 伊波	女	1世	アメリカ	北米沖縄県人会
6	曾野 知雄	男	2世		ニュヨーク沖縄県人会
7	島袋 カオル ネイディ	女	2世	フィリピン	ハワイ沖縄県人会
8	アセルデン マリア コラソン エバンヘリオ	女	2世		フィリピン沖縄県人会
9	奥濱 レドナ 悦子	女		アメリカ	グアム沖縄県人会

平成14年度 県内参加者名簿

県内参加者名簿

	氏 名	年 齢	性 別	校 名	
1	宮 里 哉	Ryoya Miyazato	15	男	名護市立大宮中学校
2	奥 間 友里恵	Yurie Okuma	14	女	金武町立金武中学校
3	與那城 美姫乃	Mikino Yonashiro	12	女	沖縄市立安慶田中学校
4	伊良波 美	Kazumi Iraha	14	女	沖縄市立山内中学校
5	嘉 数 真 菜	Mana Kakazu	13	女	浦添市立浦西中学校
6	比 嘉 麻 臣	Asami Higa	13	女	那覇市立松城中学校
7	平 敷 綾	Aya Heshiki	15	女	那覇市立小祿中学校
8	山 城 信 裕	Nobuhiro Yamashiro	14	男	与那原町立与那原中学校
9	杉 山 星 河	Seika Sugiyama	12	女	豊見城市立伊良波中学校
10	川 平 一 之	Kazuyuki Kawahira	14	男	城辺町立福嶺中学校
11	宮 城 聖里香	Serika Miyagi	17	女	辺土名高等学校
12	大 城 奈津紀	Natsuki Ohshiro	16	女	石川高等学校
13	山 城 夢 乃	Yumeno Yamashiro	15	女	美里高等学校
14	宮 里 あすか	Asuka Miyazato	17	女	宜野湾高等学校
15	嵩 本 哲 也	Tetsuya Takemoto	16	男	西原高等学校
16	西 筋 理 奈	Rina Irisuji	15	女	那覇高等学校
17	玉 城 智 佳	Chika Tamaki	18	女	沖縄女子短大附属高等学校
18	國 場 雄 作	Yusaku Kokuba	16	男	豊見城高等学校
19	又 士 香穂利	Kahori Matayoshi	15	女	糸満高等学校
20	石 井 雄 大	Takehiro Ishii	17	男	八重山高等学校

県外内参加者名簿

	氏 名	年 齢	性 別	学 校 名	
1	川 崎 麻奈美	Manami Kawasaki	13	女	鶴見中学校
2	金 城 香 奈	Kana Kinjo	13	女	鶴見中学校
3	與那嶺 美 香	Mika Yonamine	12	女	大阪市立天下茶屋中学校
4	糸 洲 久美子	Kumiko Itosu	17	女	明浄学院高等学校

平成14年度 海外参加者名簿

海外参加者名簿

	氏名	性別	世代	国名	県人会名
1	当間 嗣栄 マウリシオ Mauricio Shiei Touma	男	4世	ブラジル	ブラジル 沖縄県人会
2	高良 グラウシヤ ネンシ Glauca Nancy Takara	女	3世		
3	志良堂 ジャケリネ Jacqueline Shirado	女	4世		カンボグランデ 沖縄県人会
4	米須 トマス Tomas Komesu	男	2世	アルゼンチン	在亜沖縄県人 連合会
5	島袋 エリア ナ ビルヒ ニア Eliana Virginia Shimabukuro	女	3世		
6	広中 山城 ルイス フェルナンド Luis Fernando Hironaka Yamagusuku	男	4世	ペル	ペル 沖縄県人会
7	ゴンザレス 平良 ハイメ Jaime Gonzales Taira	男	3世		
8	仲里 秋奈 Akina Nakazato	女	2世	ボリビア	ボリビア 沖縄県人会
9	ロニ ヴェレス 真栄城 Rony Velez Maeshiro	男	3世		
10	ナリマンピ ニャフォンテ Narryman Piña Fonte	女	4世	キューバ	キューバ 沖縄県人会
11	清本・伊舎良 マッシュ 誠 Matthew Makoto Kiyomoto-Isara	男	4世	アメリカ	ハワイ 沖縄県人会
12	伊良波 クリストファ マイケル Christopher Michael Iraha	男	4世		
13	比嘉 クリスティン ミヨシ Cristan Miyoshi Higa	女	4世		北米 沖縄県人会
14	パウチャ 飛鳥 Asuka Christine Boutcher	女	2世		
15	ジョナサン サンダ ス Johnathan David Saunders	男	3世		アトランタ 沖縄県人会
16	ジョセフ リ バザ ド Joseph Lee Buzzard	男	3世		北加 沖縄県人会
17	藤田 エリザベス 由利子 Elizabeth Yuriko Fujita	女	2世	カナダ	トロント 球陽会
18	ミシェル アベダニア ペベニト Michelle Abedania Pebenito	女	3世	フィリピン	フィリピン 沖縄県人会
19	ジョネロベス コメロス イグナシオ Jonerobeth Comeros Ignacio	女	3世		
20	照屋 なつ子 Natsuko Teruya	女	2世	シンガポ ル	星琉会

海外引率者名簿

	氏名	性別	世代	国名	県人会名
1	具志堅 ジ ナ 美千代	女	2世	ブラジル	ブラジル沖縄県人会
2	新里 ダニエル エステバン	男	2世	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会
3	赤嶺 光弘	男	1世	ペル	ペル 沖縄県人会
4	エステル タマキ ト レス	女	3世	キューバ	キューバ沖縄県人会
5	呉屋 君子	女	1世	アメリカ	北米沖縄県人会
6	大城 順市	男	1世		北加沖縄県人会
7	藤田 みどり	女	1世	カナダ	トロント球陽会
8	エステ ラ アレホ アドルフォ	女	2世	フィリピン	フィリピン沖縄県人会
9	橋本 真理	女	1世	シンガポ ル	星琉会

平成13年度 県内参加者名簿

県内参加者名簿

	氏名	学年	性別	学校名	
1	知名倫子	Rinko China	小学4年	女	宜野座小学校
2	仲田尚仁	Naohito Nakada	小学4年	男	南風原小学校
3	又吉椎菜	Shiina Matayoshi	小学5年	女	漢那小学校
4	平良久美子	KuIniko Taira	小学5年	女	志真志小学校
5	仲本達郎	Tatsuro Nakamoto	小学5年	男	城西小学校
6	新垣史織	Shiori Arakaki	小学5年	女	知念小学校
7	目取真輔	Tasuku Medoruma	小学5年	男	北玉小学校
8	城間祥大	Shoudai Shiroma	小学6年	男	若狭小学校
9	照屋寛佳	Hiroyoshi Teruya	小学6年	男	城南小学校
10	玉城匠	Takumi Tainaki	中学1年	男	コザ中学校
11	知念鈴奈	Suzuna Chinen	中学1年	女	伊江中学校
12	仲間良成	Yoshinari Nakama	中学1年	男	越来中学校
13	牧山梨紗	Risa Makiyama	中学1年	女	沖繩尚学中学校
14	仲程祐介	Yusuke Nakahodo	中学1年	男	古蔵中学校
15	成底徹	Toru Narisoko	中学1年	男	港川中学校
16	仲里彩夏	Ayaka Nakazato	中学1年	女	知念中学校
17	屋嘉比梢	Kozue Yakabi	中学1年	女	東風平中学校
18	玉城彩衣	Ai Tamaki	中学1年	女	那覇中学校
19	松本佳子	Yoshiko MatsuInoto	中学1年	女	那覇中学校
20	東江真理子	Mariko Agarie	中学2年	女	伊江中学校
21	与那嶺悠	Haruka Yonamine	中学2年	男	伊良波中学校
22	古謝ちひろ	Chihiro Koja	中学2年	女	嘉手納中学校
23	比嘉紗苗	Sanae Higa	中学2年	女	鏡が丘養護学校
24	仲程若菜	Wakana Nakahodo	中学2年	女	古蔵中学校
25	平田吉郎	Yoshiro Hirata	中学2年	男	佐敷中学校
26	比嘉彩賀	Ayaka Higa	中学2年	女	松城中学校
27	比嘉亜樹	Aki Higa	中学2年	女	興南中学校
28	古堅葵	Aoi Furugen	中学3年	女	安田中学校
29	佐久川俊介	Shunsuke Sakugawa	中学3年	男	沖繩尚学中学校
30	謝花千夏	Chinatsu Jahana	中学3年	女	宮里中学校
31	普天間一樹	Kazuki Futenma	中学3年	男	小禄中学校
32	玉那覇優香	Yuka Tamanaha	中学3年	女	西原東中学校
33	宮城鮎子	Ayuko Mayagi	中学3年	女	西原東中学校
34	高田真奈美	Manami Takada	高校1年	女	小禄高等学校
35	翁長里美	Satomi Onaga	高校1年	女	小禄高等学校
36	上原恵理佳	Erika Uehara	高校1年	女	昭和薬科大学附属高等学校
37	与那覇恵梨	Eri Yonaha	高校1年	女	石川高等学校
38	德里麗華	Reika Tokuzato	高校1年	女	石川高等学校
39	中村晴枝	Harue Nakamura	高校1年	女	那覇国際高等学校
40	伊計美希	Miki Ikei	高校2年	女	宮古高等学校
41	仲宗根智世	Tomoyo Nakasone	高校2年	女	宮古農林高等学校
42	佐久田智世	Tomoyo Sakuda	高校2年	女	宮古農林高等学校
43	川口真未	Mami Kawaguchi	高校2年	女	首里東高等学校
44	池原理一	Riichi Ikehara	高校2年	男	普天間高等学校
45	宝蔵寺祐司	Yuji Hozoji	高校2年	男	普天間高等学校
46	仲間明奈	Akina Nakama	高校3年	女	宮古高等学校
47	茶畑美加	Mika Chabata	高校3年	女	小禄高等学校
48	新崎舞	Mai Arasaki	高校3年	女	小禄高等学校
49	比屋根恵美	Megumi Hiyane	高校3年	女	南風原高等学校
50	真謝絵美	Emi Maja	高校3年	女	名護高等学校

海外参加者名簿

	氏名	性別	国名	県人会名	引率者
1	与儀 エリカ ERIKA YOGI	女	ブラジル	ブラジル沖縄県人会	松堂 ひろみ
2	太田 チオゴ DIOGO TAKAKE OTA	男			
3	知花 ムリロ MURILLO CHIBANA	男			
4	諸見里 春美 KARINEHARUMI MOROMIZATO	女			
5	崎間 ビクトル 達由鯉 VICTORTA TSUYURI SAKIMA	男			
6	宮里 昌宏 MARCELO MASAHIRO MIYAZATO UETA	男			
7	宮城 ガストン GASTON MIYASHIRO	男	アルゼンチン	在亜沖縄県人連合会	安里エステラ アレハンドラ
8	比嘉 フェルナルド FERNANDO EZEQUIEL HIGA	男			
9	玉那覇 ノルベルト NORBERTO TAMANAHA	男			
10	大城 ノエリア NOELIA OSHIRO	女			
11	伊芸 ヘラルド GERALDO IGEI KOHATSU	男	ペル	ペル 沖縄県人会	仲宗根 吉修
12	亀甲 マサル MASARU ARTURO KAMEGO	男			
13	山城 イサベル ISABEL YAMASHIRO NAKACHI	女			
14	比嘉 盛繁 HECIOR ALEXANDER HIGA SHIROMA	男			
15	比嘉 恵理子 ERIKO CAROLINA HIGA YAMASHIRO	女	ボリビア	ボリビア沖縄県人会	安谷屋 敬
16	大城 ニカリ NIKARI OSHIRO MURARA	女			
17	中田 弘喜 FERNANDO HIROKI NAKATA	男			
18	仲村 美恵子 MIEKO NAKAMURA SOKEI	女			
19	仲村 ミツオ JOSE MITSUO NAKAMURA OROZCO	男	メキシコ	メキシコ沖縄県人会	中村 イルマ ヌネス
20	仲村 ヤスヒロ YASUHIRO NAKAMURA OROZCO	男			
21	島田 バグネル 和良 WAGNER KAZUYOSHI SHIMADA	男	ブラジル	カンポグランデ沖縄県人会	具志堅 弘
22	具志堅 ノブユキ ANDERSON NOBUYUKI GUSHIKEN	男			
23	古謝 景士 RAUL KEISHI KOJA	男	ベネズエラ	ベネズエラ沖縄県人会	古謝 いそえ
24	宜保 亜由美 カレン AYUMI KAREN GIBO	女	カナダ	バンク バ 沖縄友愛会	仲宗根 功
25	嶺井 真実 MELISSA MAMI MINEI	女			

海外参加者名簿

26	金城 茜 MARGARET AKANE KINJO	女	カナダ	レスブリッジ沖縄県人会	浦崎 ジョ ジ
27	目取真 ジャネルミホコ JANELLE MIHOKO MEDORUMA	女			
28	玉栄 チャールズ CHARLES MASATOMO TAMAE	男	アメリカ	北米沖縄県人会	前田 洋子 (北米沖縄県人会)
29	ジョセフ ジョ ンズ JOSEPH FREDRIC JONES	男		サンディエゴ 沖縄県人会	
30	ブライアン デイビス BRYAN KIYOSHI DAVIS	男		ユタ州沖縄県人会	
31	デイビット レイモンド DAVID RICHARD RAYMOND	男		ワシントン沖縄県人会クラブ	トシコ バ トリ
32	アリシア 恵子 ブレンズ ALICIA KEIKO BERENZ	女		シカゴ沖縄県人会	洋子 サンダリン (シカゴ沖縄県人会)
33	テイル リチャ ーズ DALE KAORU RICHARDS	男		遊友会	
34	ティファニ フィドラ TIFFANY FIEDLER	女		オハイオ 沖縄友の会	
35	比嘉 龍児 RYUJI HIGA	男		米国東海岸沖縄県人会	
36	落合 北斗 HOKUTO CREIG OCHIAI	男		ニュ ヨ ク沖縄県人会	
37	ロバ ト ファンチェス ROBERT JAMES FUNCHES	男		ワシントン DC 沖縄県人会	
38	ケイラ ケンプ KAYLA RENEE CAMP	女	アトランタ沖縄県人会	ルイス 高江洲 佳代子 (アトランタ沖縄県人会)	
39	アンディ ライダ ANDY KIYOSHI RIDER	男	D FW 沖縄県人会		
40	キム ビセツト KIM BISSETTE	女	ジャクソンビル沖縄県人会		
41	マイケル ハ カ MICHAEL ALAN HARKA	男	フェイエットビル沖縄県人会		
42	クリスタル スワンソン CRYSTAL LYNN SWANSON	女	ヘンサコ ラ沖縄県人会		
43	テレサ マリコ モ トン TERESA MARIKO MORTON	女	フロリダ沖縄郷友会(がじまる会)		
44	クリストファ ポ テイン CRISTOPHER PORTIN	男	グアム沖縄県人会	引率者無し	
45	マリア ジェイリン ディキアツコ MA. JAYLYNC. DIQUIATCO	女	フィリピン	フィリピン沖縄県人会	トヨコ照屋エリセオ
46	チヨミ サンタロ サ ランセス CHIYOMI STA. ROSA RANCES	女			
47	嶋崎 妙恵美 TAEMI SHIMAZAKI	女			
48	知念 賢吾 KENGO CHINEN	男	フランス	フランス沖縄県人会	知念 睦子
49	石垣 優児 YUJI JOE ISHIGAKI	男	イギリス	イギリス沖縄県人会	石垣 栄康
50	松川 ルカ LUCA TOM MUSASHI MATSUKAWA	男	ドイツ	ドイツ沖縄県人会	松川 カ

知 事 表 敬 式 次 第

日時：平成20年7月23日（水）

場所：県庁1階 県民ホール

司会：大城 眞幸（交流推進課長）

8：45	開 会	司会
8：47	参加者紹介	司会
8：50	歓迎の挨拶	沖縄県知事 仲井眞 弘多 (代読：副知事 安里カツ子)
9：00	参加者代表挨拶	海外参加者代表 山城 清光昭 ブレット (カルガリーオキナワンクラブ) 県内参加者代表 宮里 明衣子 (伊江中学校)
9：05	閉 会	司会
	写真撮影（中庭）	

ウェルカムパーティー式次第

日時：平成20年7月22日（火）18:30～20:00

場所：かんぼレクセンタ 4F研修室

18:30	開 会	
18:32	歓迎の挨拶	沖縄県観光商工部参事監兼観光交流統括監 松本 真
18:37	宣 誓	ポリビア沖縄県人会 島袋 里菜
18:40	乾杯の音頭	沖縄パンアメリカン連合会 会長 大山 盛稔
	食事・懇談	
19:30	余 興	司会：ジュニアスタディ ツア 6期生 池原 ななえ
19:30	空 手	福里 那央（高江洲中学校）
19:35	ギタ	池村 愛美（豊見城高等学校）
19:45	琉球舞踊「鳩間節」	上運天クリスティ ナアイ（アメリカ）
19:50	笛	島袋 里菜（ポリビア）
20:00	終 了	

さよならパーティー式次第

日時：平成20年7月28日（月）

場所：那覇ぶんかテンプス館

司会：6期・7期卒業生

16:00	開会	司会
16:02	乾杯の音頭 食事・懇談	沖縄ブラジル協会 会長 西原 篤一
16:50	ピアノ「Kissして」	村田ゆうこ（那覇西高校）
16:55	エイサー「クダカ節」 「 ^{たいよう} 太平洋の風」	アレクサンダー チョ（アメリカ）
17:00	歌「Hoy（今日）」	安座間上地カテリーネ直未（ペルー）
17:05	タンゴ	饒平名さゆり（アルゼンチン） 名城エベリンマルセラ
17:10	エイサー「神々」	天久レニラ阿弓（ブラジル） 与那嶺モニカ多美（ブラジル） 中馬カーレン渡慶次（ブラジル）
17:15	エイサー演舞	琉球國祭り太鼓
17:20	合唱「島んちゆの宝」	参加者全員
17:30	カチャーシー「唐船ドーイ」	参加者全員
	～終了～	

ジュニアスタディーツアーグループ表

	Aグループ	Bグループ	Cグループ
1	新垣 美樹 (女)	村田 ゆうこ (女)	玉那覇 祐利香 (女)
	Miki Shingaki	Yuko Murata	Yurika Tamanaha
	日本	日本	日本
2	豊里 源 (男)	宮里 明衣子 (女)	福里 那央 (男)
	Gen Toyozato	Meiko Miyazato	Nao Fukuzato
	日本	日本	日本
3	酒井 知奈 (女)	花城 亜紀子 (女)	友利 麻羽 (女)
	China Sakai	Akiko Hanashiro	Mau Tomori
	日本	日本	日本
4	アレクサンダー デイ ジン チョー (男)	ウィレット ザックリー (男)	森部 マーシ 美幸 (女)
	Alexander Dae Jin Cho	Wellett Zachary	Moribe Marcie Miyuki
	アメリカ	アメリカ	アメリカ
5	安座間 上地 カテリーネ 直未 (女)	饒平名 さゆり (女)	名城 エベリン マルセラ (女)
	Azama Uechi katherine Naomi	Yohena Sayuri	Nashiro Evelyn Marcela
	ペルー	アルゼンチン	アルゼンチン
6	ヴォニティンゼノキ モルガン ファビエラ テレーズ (女)	レニラ 阿弓 天久 (女)	与那嶺 モニカ 多美 (女)
	Vonitisi-Zenoki Morgane Fabiella Therese	Lenira Ayumi Ameku	Yonamine Monica Tami
	ニューカレドニア	ブラジル	ブラジル
引 率	小出友視 (女)	稲福 紀子 (女)	垣花 輝明 (女)
	Koide Tomomi	Inafuku Noriko	Kakinohana Kimei
	ニューカレドニア	アメリカ	ブラジル

ジュニアスタディーツアーグループ表

	Dグループ	Eグループ
1	宜保 有樹 (男)	池村 愛美 (女)
	Yuki Gibo	Aimi Ikemura
	日本	日本
2	下門 楓 (女)	豊永 優姫 (女)
	Kaede Shimojo	Yuki Toyonaga
	日本	日本
3	新城 祥子 (女)	兼城 凜子 (女)
	Shoko Arashiro	Riko kaneshiro
	日本	日本
4	山城 ブレッド (男)	ウエウンテン クリスティーナ アイ(女)
	Yamashiro Brett	Ueunten Christina Ai
	カナダ	アメリカ
5	福里 友理 (女)	ダニエル ガルスィア ウエマ(男)
	Yuri Fukuzato	Daniel Garcia Uema
	マレーシア	キューバ
6	中馬 カーレン トケシ (女)	島袋 里菜 (女)
	Tiguman Karen Tokeshi	Shimabukuro Rina
	ブラジル	ボリビア
引 率	大城 ディエゴ セバスティアン(男)	ロベルト サンチェス タマキ(男)
	Oshiro Diego Sebastian	Roberto Sanchez Tamaki
	アルゼンチン	キューバ